

若 里

第72号

2023年12月



ミズバショウの頃(戸隠高原)

信州大学工学部同窓会

2024年度 信州大学工学部同窓会—基調講演会・総会・懇親会—のお知らせ

下記により、信州大学工学部同窓会〈基調講演会・総会・懇親会〉を開催いたします。
なお、開催予定の変更、その他最新情報は、工学部同窓会HPにて随時ご案内いたします。

開催日 2024年5月25日(土)

基調講演会 (会場・オンライン (Zoom) 同時開催)

時 間：14：30～16：00

会 場：信州大学工学部内（長野市若里4-17-1）※詳細は後日HPにてご案内いたします。

講 師 矢野 和美 氏（機械S55卒，TPR株式会社 代表取締役社長兼COO）

演 題 「動力機構高度化への挑戦」

総 会 (会場・オンライン (Zoom) 同時開催)

時 間：16：10～17：00

会 場：信州大学工学部内（長野市若里4-17-1）※詳細は後日HPにてご案内いたします。

議 案：1. 2023年度事業・収支決算・会計監査報告について

2. 2024年度事業・収支予算計画について

懇親会

時 間：18：00～20：00

会 場：シャトレゼホテル長野（長野市七瀬1-1 TEL.026-219-2440）

会 費：5,000円

申込期日 **2024年4月30日**

参加申込方法

▶ 申込み専用フォーム

必要事項を入力の上送信してください。

<https://forms.gle/KhJ1WiEReENjic2e6>



▶ HPお問合せフォーム

問合せ内容欄に参加内容を明記してください。

<https://wakasatokai.jp/contact/>



信州大学工学部同窓会 <https://www.wakasatokai.jp/>

登録情報の変更は「住所等変更届」その他は「お問い合わせフォーム」をご利用ください。



目次 『若里』 72号

● 2024年度 基調講演会・総会・懇親会のお知らせ	
● 巻頭言	
「地域中核・特色ある研究大学として更なる発展を」	2
信州大学工学部同窓会会長 清水 保雄	
● 工学部長挨拶	
「デジタル人材育成の強化にむけて」	4
信州大学工学部長 天野 良彦	
● 賛助会員寄稿	
「工学部後援会の活動について」	6
信州大学工学部後援会会長 長澤 仁	
● 追悼	
「初代理事長市川誠先生のご逝去を悼む」	7
工学部工学基礎部門 松岡 浩仁	
● 学部の近況	
「工学部・工学専攻における 情報系エキスパート人材育成について ～文科省 大学・高専機能強化支援事業への採択～」	8
電子情報システム工学科教授、 学部長補佐 和崎 克己	
「地域活性化人材育成事業 SPARC の概要と工学部」	10
物質化学科教授、学部長補佐 是津 信行	
● 活動報告	
令和4年度学生表彰「わかさと賞」	12
令和4年度「同窓会連合会賞」信州大学馬術部	13
2023年度国際交流学生支援報告	14
2023年度基調講演会・総会・懇親会	16
● 同窓生だより	
「還暦を迎え思うこと」	17
樫山 尚久	
「トンネル屋に憧れて」	18
垣内 健太郎	
「約10年間の振り返り」	19
貴船 達也	
「卒業からの7年間の振り返って」	20
松枝 弘道	
「これまでを振り返って」	21
深井 優太	
「大学時代と今」	22
西澤 実花	
● 恩師からのたより	
「通り過ぎる者からの感謝」	23
元機械システム工学科 教授 深田 茂生	

表紙写真「ミズバショウの頃（戸隠高原）」
撮影：鬼頭 宏和（機械S61）

戸隠高原には在学中、休日はもちろん、ときには
平日の早朝、講義の前にも撮影に出かけました。
とくにミズバショウが咲き、新緑が輝く5月がお
気に入り。今年、久々に撮影に出かけ
ました。春が早く、4月下旬にはもう
この光景でした。 <https://ifugaku.com>



「定年退職を迎えて」	24
元電子情報システム工学科 教授 山本 博章	
● 同窓生寄稿	
「『卒寿の集い』を終えて」	25
岸田 安穂	
「“巨大計画”河川の基本高水流量と 計画高水流量の決定について」	27
鈴木 德行	
「同窓会活動を活発にして信州大学を後世に残そう」	31
樋口 健吾	
「『丹野研・花の46期生』母校キャンパスに集合」	32
飯塚 聡・井上成美・小川和男・小林政廣・ 轟 一郎・穂刈吉彰・松木文博	
「S56年機械工学科卒業同級会」	33
悪澤 孝治・小林 庸悟	
「合成化学科有機合成化学研究室・物質工学科精密 合成化学講座同窓会」	34
前田 宗徳	
● 叙勲を祝う	36
● 支部だより	36
● 訃報	40
● 会務報告	42
● 同窓会役員名簿	45
● 若里会役員名簿	46
● 同窓会2022年度事業・会計報告/ 2023年度事業計画・予算書	47
● 若里会2022年度事業・会計報告/ 2023年度事業計画・予算書	50
● 2022年度卒業生名簿	53
● 2022年度卒業生就職先企業	57
● 2023年度新入生県別入学者数	60
● 会員のみなさまへ	61
● 編集後記	65
● 広告	67
● 同窓会会則	

地域中核・特色ある研究大学として 更なる発展を

信州大学工学部同窓会 会長
信州大学名誉教授

清水 保雄（機械 S45・修 S47）



新型コロナウイルス感染症が第5類に移行し重症化リスクが軽減されるとともに私達の行動様式も徐々に従来の形に戻って来ています。しかし、今月になり定点機関での感染者数が急拡大しており注意が必要です。一方、今夏は猛暑が続き、世界気象機関（WMO）は観測史上最も暑い夏になると報じ、7月7日には世界の平均気温が最高値を更新したと発表しました。グテーレス国連事務総長が言うように地球温暖化を通り越し沸騰と表現される事態になり、北半球を中心に「熱波」が常態化し、干ばつ、豪雨など気象の「極端化」が大袈裟でなく真に迫ってきます。気象学者もこれは異常ではなく“ニューノーマル”だと警告しています。我が国でも、大規模な洪水や土砂崩れ的一方で渇水の発生など激甚化した自然災害が頻発しています。

このような厳しい環境の中、会員の皆様にはいかにお過ごしでしょうか。

さて、本稿では、信州大学をめぐる喜ばしいニュースをお知らせ致します。本年4月に文科省令和4年度第2次補正予算「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」に、信州大学が提案した「水・エネルギー共創研究センター」が採択され、大型予算が付きしました。国立22、公立2、私立6の計30大学の内の一つに選ばれました。水循環・水由来のグリーン水素エネルギー循環システムの基礎研究から社会実装までを推進するため、材料研究（水浄化・光触媒・センシング材料等）や造水・循環技術を強みとする信州大学と、河川流域環境や燃料電池分野を得意とする山梨大学等との研究連携が組まれます。そのための新しい拠点が松本キャンパス内に建設・整備されます。

ところで今回、信州大学が採択された背景には、本学の遠藤守信特別名誉教授（電気S44卒）が研究リーダーを務められ、今までの10年以上に及ぶCOI事業の研究の成果が大きく貢献しています。即ち文部科学省と科学技術振興機構が進めたCOI（センター・オブ・イノベーション）並びにCOI加速支援による「信州大学アクア・イノベーション拠点」に

おいて、ナノカーボンRO（逆浸透）膜利用の革新的な海水淡水化技術の研究活動とその成果が貢献しています。その研究の一環として、世界最大級の石油産油国のサウジアラビアの海水淡水化事業を支援してきました。サウジアラビアは世界最大の海水淡水化プラント稼働国で年間約22億m³の水を海水淡水化によって得ており[*1]、この量は日本の都市用水（生活・工業用の総和）約252億m³ [*2]の8.7%にも当たります。石油収入で潤う同国と言えども、如何に製造コストと環境負荷を低減し造水するかは重要課題です。同国海水淡水化公社（SWCC）は、遠藤グループが開発したナノカーボンRO膜の高いロバスト性（耐久性に優れ汚濁され難い）や遠藤先生の研究力そしてオリジナルの拠点設備（製膜ライン）を評価し、更なる共同研究の推進並びに未来人材教育プログラムを展開する「信州大学とサウジアラビア海水淡水化公社間の海水淡水化分野における覚書」（MOU）を締結し、今後の発展を期しています（詳細は信州大学HPトピックス記事を参照ください）。MOU締結の際には、サウジアラビア王国皇太子の招きによりアラブ諸国歴訪中の岸田文雄内閣総理大臣に伴い殿下を拝謁するなど特別な機会も設けられ、同国の期待の大きさが伺われました。

今後、信州大学に構築される研究拠点を活用し、国内外の企業との連携やスタートアップ企業の創出による水循環・エネルギー循環・気体循環関連材料の創成、評価、量産化の追求、松本市を始め県内の社会フィールドでの実証試験が進められます。

信州大学が地域で中核となる特色ある研究大学としてさらに発展することが期待されます。

異常気象がニューノーマルとなれば、治山治水・インフラ・住宅等の強靱化は喫緊の対策です。そしてより根本的な地球温暖化対策である省エネ、再生可能エネルギーの利用拡大、化石燃料の使用量削減を図る研究開発は待ったなしです。高精度気象予測や線状降水帯の元となる積乱雲の流れの制御、洋上での水蒸気の発生を抑える次世代技術の開発にも注目したいです。そのための研究と人材の教育・養成

に果たす工学部の使命は極めて大きいと云えましょう。

本会会員は、それぞれの職域や社会で広範に活躍されています。世代や職業の違いを越え、多種多様な情報・経験・知識などを持つ多くの人が集まり、楽しく魅力的な人的ネットワークで繋がる組織としての同窓会の意義はいつの時代にあっても大きいと確信します。会員の最も身近にある支部活動を強化するため、本年度は長らく活動を休止していた中京と関西の支部の再発足を目指し準備世話役会を立ち上げました。5月の支部長会議において、中京およ

び関西の各地域の世話役を選任していただきました。支部設立までには規約の制定、役員体制の構築など時間と労力が必要です。世話役の各位には大変ご苦勞を頂くことになります。会員の皆様には一層のご協力とご支援を賜りたくお願い申し上げます。

2023年 8 月

[*1] : https://www.arabnews.jp/article/business/article_76046/

[*2] : https://www.mlit.go.jp/mizukokudo/mizsei/mizukokudo_mizsei_tk2_000014.html



ムハَمَّد・ビン・サルマン サウジアラビア王国皇太子に招かれ、殿下に拝謁し、岸田文雄内閣総理大臣から紹介される
遠藤守信信州大学栄誉教授（2023.7.17アルサラーム宮殿（首相宮殿）にて） —— 写真提供：経産省 ——

デジタル人材育成の強化にむけて

信州大学工学部長

天野 良彦 (工化 S57・修 S59)

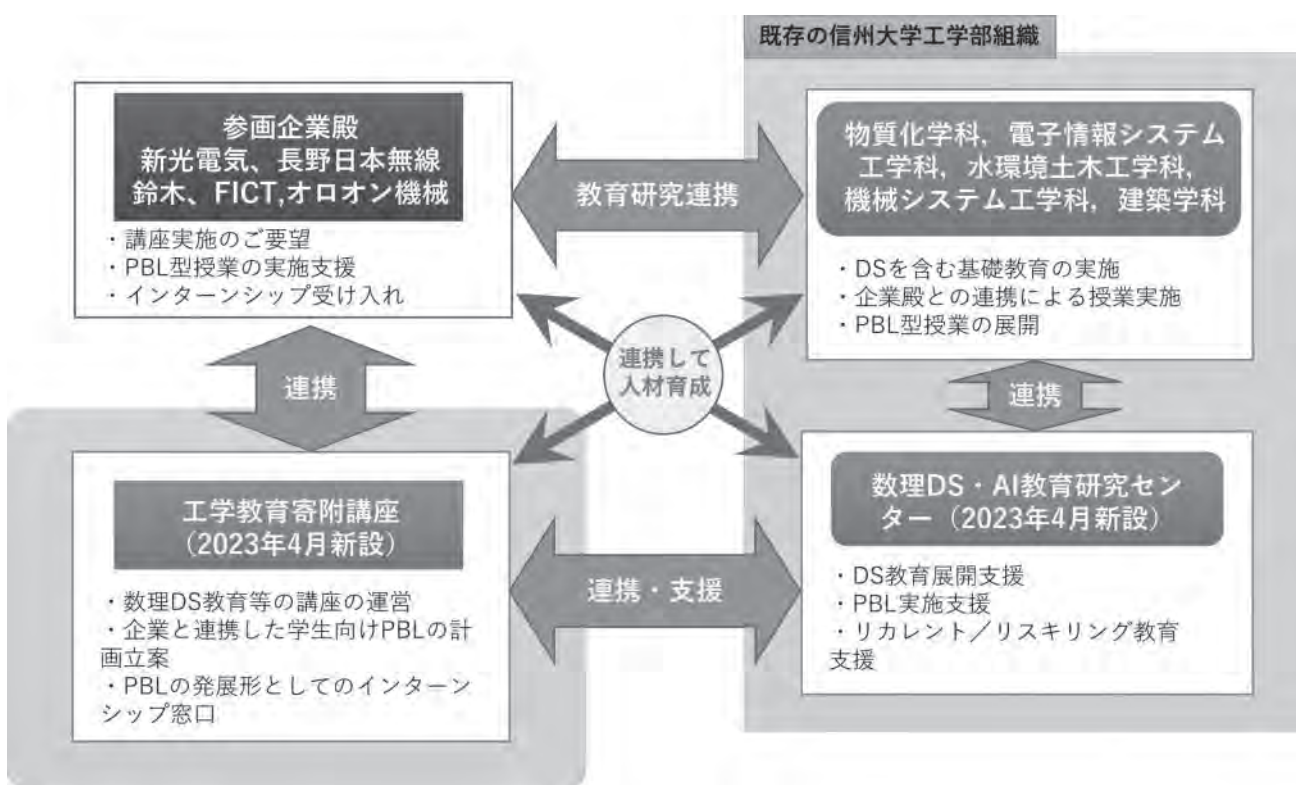


世の中は、デジタル時代花盛りです。生まれてからすぐにスマホをいじりだす今の世代に比べて、高齢者の仲間入りをしようかという世代には（個人によるかと思いますが）、アプリを入れてすぐに何かをするというのは抵抗があるように思います。大学にはデジタルネイティブなZ世代が入学してきています。これらの学生達が、さらに高度なデジタル技術を身につけるための教育が求められています。

信州大学では、Society5.0社会を見据えて2019年にVISION2030を策定し、2022年度からの第4期中期計画では、数理データサイエンス教育の充実化や地域連携の強化を目指しています。そのために、2022年4月に文科省数理・データサイエンス・AI認定プログラム（リテラシーレベル）対応の全学開講科目を全学教育センターのもとに設置し、また工学部においては2022年度後期から応用基礎レベル対応のコア科目を試行し、2023年度から本格運用を開始しました。また、地域活性化人材育成事業SPARC

プログラムにも採択されるなど、地域DX人材育成に関する組織基盤を構築中であります。さらに、高度なエキスパートレベルの数理データサイエンス教育を行う大学院レベルの人材育成の文科省のプロジェクトにも採択され、次年度スタートすることになっております。

これらに対応するためには、教育体制を整備しなくてはなりません。このため、本年度より、下記の図にありますように、数理DS・AI教育研究センターを学部内に設置しました。こちらの組織では主に学部内の応用基礎レベルの数理DS教育を実施しています。コア3科目のデータエンジニアリング基礎、データサイエンス基礎およびAI基礎は、選択科目であります。300人以上の学生が受講するほどの人気の授業です。また、これと連携する組織として、5社の地元の企業さんの寄付による教育寄付講座を立ち上げました。こちらは、企業と連携して学生の教育に協力を頂くとともに、社会人向けのリ



スキリングの講座の開発を行うことにしています。まずは5社で試行したプログラムは、いずれ公開していく予定にしています。このような企業との相互教育の取組みは、これまでも単独の企業さんとは行っておりませんが、今回のような組織だった取組みは、初めての試みです。協力頂いている企業さんについては、学内の電子掲示板デジタルサイネージにて、学生にも周知をしております。

さらに、大学院でのエキスパートレベルの人材育成では、外部からの教員の招へいや、企業からの実務家教員などを配置して、より実践的な教育を目指していきます。新しいツールの開発だけでは社会は変わりません。これをいかに使いこなすかが重要になります。このような場面では実際にシステム開発をしている企業さんのノウハウが必要となります。現在先進的な取組みをしている企業さんと連携するため、議論を重ねております。次年度からは新し

い工学専攻の分野ができ、30名の定員増を伴った新しい教育が始まる予定です。

このようにリテラシーレベルから、エキスパートレベルまでシームレスに繋がり、ITスキルを持った高度専門人材の育成を目指します。これにより、世界に後れを取っているDXの活用による労働生産性の向上に貢献できるものと考えております。また有意な人材は世界で羽ばたくと共に、地域の産業の活性化にも役立てるようしていきたいと考えております。そのためには地元の行政や企業との連携をより密にしていきたいと考えております。このように、新しい工学部に変わりつつある状況であり、学部の改組についても構想中です。まだ内容を明らかにできませんが、期待して頂ければと思っております。そのためにはこれまでも増してOB諸氏のご協力を頂ければと思っております。



小川村アルプス展望広場より北アルプスの眺望（2023年5月）

賛助会員寄稿

工学部後援会の活動について

信州大学工学部後援会 会長 長澤 仁



今年度、信州大学工学部後援会の会長を務めることになりました、長澤仁と申します。同窓の皆様におかれましては、日頃より工学部後援会の活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。工学部後援会は、工学部および大学院修士課程工学キャンパス所属学生の学生生活向上に関して後援することを目的とし、当該学生の就職活動の援助、厚生施設利用の援助、課外活動および研究活動の助成、そして講演会の開催等の行事を行っております。会員は工学部および大学院修士課程工学キャンパスに所属する保護者をもって構成されています。また、年1回、会報を発行し、各会員に配布し、各学科の紹介、サークル活動、就職状況、保護者様へのお便りなどを掲載しております。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行もあり、4年ぶりに総会を開催することができました。北海道、東北、関東、東海、北陸、関西、九州、長野など全国各地より220名を超える会員の皆様に参加されました。E1棟（SASTec：信州科学技術総合振興センター）3階の大きな会議室がいっぱいになり、会員の皆様の関心がとても高いことを感じた総会となりました。総会では、予算と決算のご承認をいただいた他、工学部3年次編入生の会費に係る会則の改定が承認され、3年次編入生については、在学期間が2年間ということで大学院生と同額の7000円に会費が変更されました。

後援会の事業としては、令和3年度までは、新型コロナウイルス対策関連用品を大学と相談し購入しておりましたが、令和4年度においては、感染の拡大も落ち着きを見せたことから、プロジェクター一式を購入し大学に寄贈いたしました。また、サークル活動や大学祭も再開され、サークルの物品購入援助や大学祭パンフレットの作成費の援助を行いました。その他、体育館に誰でも使用できるバレーボールやバスケットボールを購入いたしました。

総会においては、総会資料として議案書の他、大学案内、工学部案内、研究紹介2024の冊子3冊に加えて、工学部にて開発された「信州大学 ながのブランド郷土食推奨品の信大きのこカレー」をお持ち

帰りいただきました。この信大きのこカレーは、長野県の特産物であるきのこを原料とし、工学部の食品バイオテクノロジー技術やプロセス技術を駆使して商品化されたものです。会員の皆様にご子息の学ぶ信州大学工学部キャンパスの様子をご覧いただくとともに、信州の美味しい食に触れていただき、魅力あふれる信州での学生生活の一端をご体感いただけたのではないかと思います。

今回は、総会に引き続きキャンパス特別見学会も再開することができました。各学科ごとに分かれて、就職状況をお聞きするとともに施設見学が行われました。工学部で行われている最先端の研究の場を見学する非常に貴重な時間となりました。また、4年生のお子様がいらっしゃる会員の方には、お子様から直接、研究室の説明を受けられ、どのような研究を行っているかをより身近に感じられたのではないかと思います。

通例ですと、この後、教授を交えての懇親会が開催されておりましたが、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて、懇親会は中止といたしました。学生の皆さんの学習や研究の様子などをより詳しくお聞きできる貴重な機会ですので、来年度以降、再開できることを切に希望しております。

この4年間は、新型コロナウイルスの影響で様々なことが制限される状況を目の当たりにしてまいりました。一方で、この期間には新たな形態の学びや生活が始まりました。リモートでの会議や授業が当たり前となり、新しいスタイルでの学び方やコミュニケーションが求められました。これを通じて、学生の皆さんは柔軟さと創造力を養い、新たな価値観を得ることができたのではないのでしょうか。

私たち信州大学工学部後援会は、これからも信州大学工学部の未来を支え、共に歩んでまいります後援会として、より一層の支援活動を展開して参りたいと思います。今後も後援会活動に対しまして、同窓会会員の皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。工学部の今後の発展と皆様の益々のご健勝をお祈り申し上げます。

追悼



初代理事長 市川誠先生のご逝去を悼む

工学部工学基礎部門 松岡 浩仁（精密 S61・修 S63）

信州大学名誉教授市川誠先生には、令和5年（2023年）7月15日ご逝去され、享年満98歳でした。先生の中学生時代は太平洋戦争へとひた走る暗い時代で、軍事教育訓練も経験されているのですが、そんな時代にあって弓道では長野県中学校の代表として昭和15年の明治神宮国民体育大会にも出場される腕前でした。生涯を通して弓道への熱は冷めやらず、趣味として収集されてきた古弓具が散逸することを危惧され、その歴史的価値を後世に引き継ごうと奔走され始めた矢先の突然のご逝去で、驚くとともに残念でなりません。ここに心よりお悔やみ申し上げ、謹んで哀悼の意を表します。

市川先生は、昭和18年に信州大学工学部の前身である長野高等工業学校に第1回生として入学されました。戦時中の特別処置により昭和20年に卒業された後に教員として採用され、長野工業専門学校そして信州大学工学部と体制が変わる中、昭和38年に助教授、昭和46年には教授になられ、平成2年に定年退官されるまで45年間にわたり教育・研究に奉職されてきました。研究では主としてねじや歯車の精度に関する研究に心血を注ぎ多数の論文を執筆されています。そしておよそ300人の学士、修士、博士の優秀な人材を社会に送り出し、多くの卒業生は地域や産業界でリーダーとして活躍されています。このような活動により、平成15年には瑞宝中綬章を授与されました。

同窓会への貢献では、昭和21年の長野工業専門学校同窓会、昭和29年の信州大学工学部同窓会の設立

にご尽力され、昭和30年には工業専門学校と工学部同窓会の合併により「若里会」の名称が用いられるようになりましたが、昭和43年には若里会の自主性を確立することを目的として理事長を同窓生の中から選ばれることとなり、その初代理事長に就任されています。

母校に関する最も重大な事として、昭和21年に起こった長野工業専門学校の廃校問題があったことを、「信州大学工学部 創立60年の歩み」への「創立記念誌に寄せて」と題する寄稿の中で述べられています。これによりますと、このときには卒業生代表として当時の文部省に陳情に赴かれておりましたが、長野県や県民等の地域を挙げての運動のおかげで廃校をまぬかれ、今日に至っていることを記されています。このような経験から、地域への貢献にも心を砕かれて、今日地域貢献度No.1と言われる信州大学の礎を築いてこられたのでした。このように、大学の黎明期から平成2年の退官まで大学の歩みをつぶさに見てこられた、信州大学工学部の生き字引とでも言うべき貴重な先生でした。

市川先生には、まだまだ末永く工学部および同窓会の発展のためのご指導を賜りたく思っておりましたが、それもかなわぬこととなってしまいました。ここに改めて生前のご指導と御厚誼に感謝し、心よりご冥福をお祈りいたします。

なお、令和5年8月15日付で「正四位」に叙せられたことを謹んでご報告申し上げます。



学部の近況

工学部・工学専攻における情報系エキスパート人材育成について ～文科省 大学・高専機能強化支援事業への採択～

電子情報システム工学科 教授、学部長補佐 和崎 克己（情報 H3・修 H5）



我が国の教育改革の大きな柱として、特に大学教育機関においては文科省・経産省・産業界等からの要請として、数理・データサイエンス・AIの知識を他の専門分野に応用できることを目的とした授業・プログラムの実施が望まれています。工学部では、会誌第71号の天野学部長からの挨拶文にあります通り、数理データサイエンス・AI教育プログラムの応用基礎レベルに関する準備を令和4年よりスタートさせ、令和5年度より文科省の応用基礎レベルの学修項目に準拠した内容のコア3科目（データサイエンス基礎、データエンジニアリング基礎、AI基礎）を学部共通科目として導入・開講致しました[1]。開講形態は e-learningシステム(eALPS)によるフルオンライン形式の授業で、小テスト(CBT)機能を用いた単元毎のレベル確認テストも実装済みです。他方、データサイエンス・AIを援用したPBL演習については、工学部が主体となり医学部・教育学部・繊維学部との学内共同プロジェクトを令和4年度から実行中で、多様なデータ分析方法と演習授業への展開方法についてプロジェクト関係教員と模索している最中です。

さて、タイトルにもあります本学工学専攻における情報系エキスパート人材育成についてご紹介します。政府の「AI戦略2019」においては、数理データサイエンス・AI人材育成目標として応用基礎レベルの更に上位に位置する、高度な理論・技術を有するデジタル人材養成（エキスパートレベル）を求めています。これに呼応する形で、文科省「成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金による継続的支援」（いわゆる「理工系拡充基金」）が令和4年度第2次補正予算として破格の3,002億円で措置されました[2]。これは、文科省から大学改革支援・学位授与機構（NIAD）が基金を造り、2パターンある支援枠（①私立・公立大の学部改組、②国公立大の情報系大学院の改組）で10年10億円程度までの定額補助を受けるというスキームです。喫緊の課題であるデジタル人材育成を早急に推進・拡大する国の方針に沿って、支援枠②については令和7年度の改組まで認めるという急な話でした。そ

して本学は支援枠②を選択し、文科省・学内調整を経て工学専攻の定員増と新たな情報系分野を新設する計画に至り、今回、本基金への初回公募へ申請し選定されました（令和5年7月21日付）。

改組を含む工学部・工学専攻としての教育・研究目標は令和5年度の部局事業計画の一つとして設定されており、大きな目標（ゴール）は「産業応用や社会的課題解決に貢献できる情報系エキスパート人材育成（大学院）の体制強化に取り組む」ということです。全体の取組スキームは次頁の概要図をご覧ください。具体的には、(1) 修士課程工学専攻の情報系コア・ユニットの教育・研究領域の拡張、(2) 情報系×他分野といった融合型領域の拡張、(3) 出口像を踏まえた、特に社会的課題や産業応用・ニーズに対応する人材育成を実行するものです。以下、本事業の取り組み概要と現在の状況、今後の予定について報告いたします。

■取組の概要

令和6年度に総合理工学研究科工学専攻の改組を行う。理工系拡充基金の支援によって工学専攻全体の定員を250名から280名へ増員し、情報系エキスパート人材育成（大学院）の体制強化に取り組む。従来の電子情報システム工学分野の「情報システムユニット」と「通信システムユニット」を廃止し、他の分野の一部を加えて「情報数理・融合システム分野」を新設する。本計画の対象となる情報系新設分野は研究科全体で30名増員される総合理工学研究科工学専攻に設置することで、令和6年度に従来の定員（実質50名）に対し30名増やす（募集人員80名）。つまり、今回の分野改組によって増やす30名は全て情報系人材育成に投入する。

■現在の状況

1) 修士課程工学専攻の情報系コア・ユニットの教育・研究領域の拡張

情報系新設分野では「数理・データサイエンス・AI領域」「情報科学・セキュリティ・クラウド領域」

「人間・環境・融合情報システム領域」に関する教育・研究を展開するため、改組後カリキュラム（授業科目、研究分野等）に関する具体的検討を行っている。特に、情報系と他分野との融合型領域の拡張を重要としており、その目標のための設備整備、体制の整備を令和5年度より順次実行する。

2) 社会的課題や産業応用・ニーズに対応する人材育成

出口の質保証としてiCDならびにITSS+情報系スキル標準とのマッチングをはかり、修了生が活躍する可能性を最大化する必要がある。実務家教員による授業提供等、関係企業担当者と協議中。

■今後の取り組み

- 大学院への早期推薦制度、プレアドミッションプログラム実施による優秀な入学生の早期確保
- 修士課程において、他分野教員・産業界・自治体からの教授者・実務家と指導教員の連携による「ユースケース・スタディ」「ダブル・メンタリング」の実施
- 産業応用・社会的ニーズと研究課題とのマッチングを図る教育カリキュラムの推進
- 博士課程進学予定者あるいはポストマスター候補生に対する就職想定企業の担当者とのR&Dマッ

チングの実施 ⇒ 企業におけるデジタル化・DXを自ら主導できる中核的人材を育成していく

今後、大学院工学専攻改組が先行し、続いて工学部の改組が進行していきますが、生成AI技術の進展とともに、データサイエンス・AIをフルに活用・援用した教育研究領域が、学生の入口・出口の両面から社会的課題・需要と市場の隆盛を保つことは確実と思われます。これからも長野（工学）キャンパス一丸となって、このビッグウェーブに乗っていきたいです。同窓会の皆様も、今後も様々な形で工学部・工学専攻の教育・研究にご協力ご支援を頂きたい、ここにお願い申し上げる次第です。

参考

- [1] 信州大学工学部 数理データサイエンス教育プログラム 応用基礎レベル
<https://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/engineering/MDASH/program/>
- [2] 文部科学省 成長分野をけん引する大学・高専の機能強化に向けた基金による継続的支援
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kinoukyouka/index.html



総理工学研究科工学専攻 修士課程 情報系エキスパート人材育成 概要図

地域活性化人材育成事業SPARCの概要と工学部

物質化学科 教授
学部長補佐

是津 信行



2022年10月より、天野学部長の命を受けて、工学部学部長補佐（教育改革担当）を仰せつかりました。ここでは、本学が取り組む「文部科学省地域活性化人材育成事業（SPARC）」の概要と工学部の活動について概要します。

科学技術や地域振興の成長分野をけん引する高度専門人材育成のための地方大学の充実・強化地域の大学は未来を支える人材育成の中核となることから、SPARC事業では、産学官金が一体となって、地方大学の機能強化を目的としています。地域社会と大学間の連携を通じて既存の教育プログラムを再構築し、地域が真に求める人材を育成する機関に転換することを目指しています。本学は、学部等の再編を目指す取組タイプ①で採択されました。他には、山梨大学と山口大学も同じタイプ①で採択されています。高度な連携を目指す取組タイプ②では、岐阜大学、熊本大学、宮崎大学がそれぞれ採択されています。先進的なモデルの確立と、全国の国立大学への普及、日本の大学教育改革を展開が期待されています。

DX・GX時代において、科学技術や地域振興の成長分野をけん引する高度専門人材の育成を行うため、信州大学・長野大学・佐久大学の3大学が連携した取り組みを提案しました。また、事業協力機関として長野工業高等専門学校にも加わっていただきました。文系学部でも自然科学の素養が身につく教育プログラムを整備し、地域社会との本格的な連携による、文理横断型のPBL型STEAM教育を展開し、地域学・データサイエンス・グリーンテクノロジー・地域課題解決PBL等、地域のニーズに合わせた連携開設科目をとおして、「しあわせ信州」を創造する地域活性化高度人材を輩出することを目指しています。

連携開設科目とは、これまでも実施されてきた単位互換制度とは根本的に異なります。多用な学修ニーズに応じるための柔軟な対応として設計された制度で、受講する学生にとっては魅力的な制度と思います。大学には、必要な科目を自らのリソースで開設すべきという「自ら開設の原則」があります。「自

ら開設の原則」がある以上、「通常必要とされる授業」を自ら開設することなく「単位互換制度」を前提とした授業計画は認められません。他の大学の授業で代替できるのに、自分の大学で「通常必要とされる授業」を開設しなければなりません。同一科目で複数の授業を維持、運営することになるため、単位互換制度を活用するモチベーションが働きにくい、大学にとって「使い勝手の悪い」制度だったと言えます。一方で、連携開設科目は単位互換制度の使い勝手の悪さを是正するものとして提案されました。他の大学の授業を「通常必要とされる授業」を自ら開設することなく、自大学の授業としてみなすことができるように基準改正されました。「大学等連携推進法人」だけを対象とした仕組みで、大学の得意分野を活かしながら、経営資源の選択と集中を進めることができるようになります。

さて、前置きが長くなりましたが、私はSPARC推進マネージメント委員として、工学・環境に関わるSPARC連携科目（工学入門、環境学入門）の立ち上げを進めています。工学部、繊維学部、農学部、長野高専、長野大学、佐久大学、県内企業、国立研究開発法人の先生方にご協力いただきながら、文理融合の推進と、地域活性化人材育成に直結する授業群の構築を進めています。長野大学、佐久大学、長野高専における科目活用をいただくことも意識しながら、それぞれの機関のニーズ調査もおこなっています。

その他、デジファブ環境整備を進めています。2021、2022年は、各種材料（プラスチック、金属）によるラピッドプロトタイピングを通じた能動的・実践的教育を実施する体制の整備に注力しました。プラスチックや金属の造形が可能な3Dプリンターを使ったSPARC科目を構築するため、2022、2023年度は教材研究及びノウハウの蓄積を進めています。工学部技術部の皆さんの協力のもと、工学部内の一部の講義やSSH、オープンキャンパスでの体験講座などで運用を開始しています。三次元QRコードを題材として、3Dプリンターの加工原理を講義しているようです。学生実験レポートのDX化については、

クラウド型電子実験ノート「Signals notebook」を活用します。物質化学科の菅先生、戸田先生を中心に、SPARC事業での活用するための教材研究およびノウハウの蓄積を目的として、運用を開始しています。

SPARC連携科目には、工学・環境に関わる科目の他に、数理的思考 (M)、科学 (S)、リベラルアーツ (A) があります。まずは、30単位分作ります。学生が履修できる単位数の上限はありますが、連携科目の数には制限がありません。山梨大学では100単位分の連携科目が用意されるようです。リベラルアーツ (A) には、5単位分の地域学が設定されています。そのうちの一つ、立志学があります。世界が抱える問題を知り、仲間との協働の中で自分も活かし仲間も活かすような場作りを学び、大学での今後の学びにつながる展望を得ていくことを目的としています。小平奈緒特任教授がモデレータとなって、各界で活躍するゲストスピーカーの話を聴き、いま社会で何が起きているのか、知的世界で何が問われているのかを知ることができます。その中で自らの役割、責任、倫理を学び、他者と合意形成するた

めのスキルを修得することを目的とします。面白そうですね。私も受講したいです。

現在、全国的に国立大学における教育改革が進められています。大学改革の背景には、少子化による生産年齢人口の減少や高齢化、過度な一極集中などによる地方の活力の低下など、社会を取り巻く多くの課題があります。特に地方における急速な人口減少は、労働人口の減少や市場の縮小を引き起こし、地方の経済規模の縮小につながります。社会生活サービスが大幅に低下することから、国の持続性をも脅かす要因の一つになっています。地方創生や地域分散型社会に向けた取組が、日本の未来を決定付けると言ってもいいかもしれません。人文・社会科学の「知」の集積を図るとともに、自然科学の「知」との融合などにより、あらゆる分野の知見を総合的に活用し社会課題への的確な対応を図る「総合知」の創出・活用を図っていけるように、文理横断教育の場を拡充し、諸学問をバランスよく学修する環境を整備していきたいと考えています。

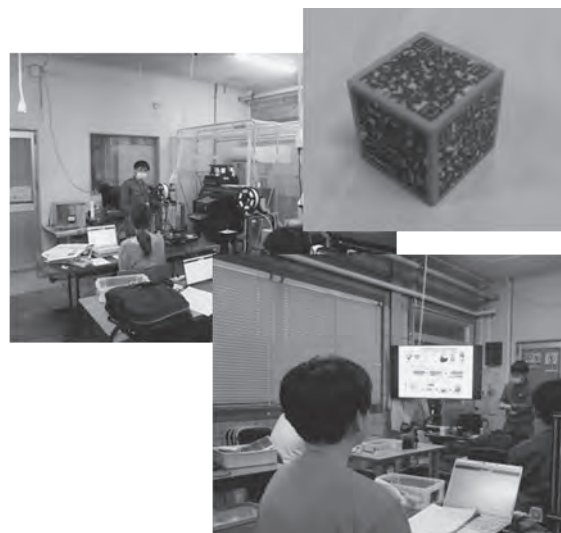


図.1 デジファブ環境整備。導入した3Dプリンターの写真と、立体QRコードキューブを教材とする造形方式に関する講義の様子（工学部加工技術センター梶田技術職員提供）

活動報告

令和4年度学生表彰「わかさと賞」

令和5年3月22日（水）10時30分から、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の拡大防止・感染予防の観点から、時間を短縮し、参加者も限定して行われた信州大学工学部卒業式・学位記授与式は、学長、理事、学部長、卒業生、修了生（修士、博士）のみが出席してホクト文化ホール（長野県県民文化会館）で実施されました。保護者、来賓、教職員、在校生は出席できないため、卒業式のライブ配信も行われました。その後の11時45分から工学部内E3棟2階の第3会議室でわかさと賞授与式が行われ、学部長、同窓会会長、副事務長が出席し、各学科より選出された6名の学生に令和4年度学生表彰「わかさと賞」が授与され、表彰状とオリジナルレリーフ（工学部加工技術センターで設計・製作）が贈られました。なお、昨年度より学生数の多い電子情報システム工学科には2名に授与することとなりました。

「わかさと賞」は、工学部卒業予定者のうち学業等において研鑽に励み、他の学生の範となった者を表彰し、その栄誉を讃えるとともに、在学生の修学意欲を高め、励みとなることを目的とし、平成28年度に信州大学工学部同窓会により創設されました。

令和4年度受賞者

物質化学科	大塚 紫乃	水環境・土木工学科	田中 輝
電子情報システム工学科	木藤 翔太	機械システム工学科	平塚 直希
電子情報システム工学科	武田 一磨	建築学科	清水 莉都



〔後列左より〕清水同窓会長、天野工学部長

〔前列左より〕出席された受賞者の皆さん（大塚さん、木藤さん、武田さん、田中さん、平塚さん、清水さん）

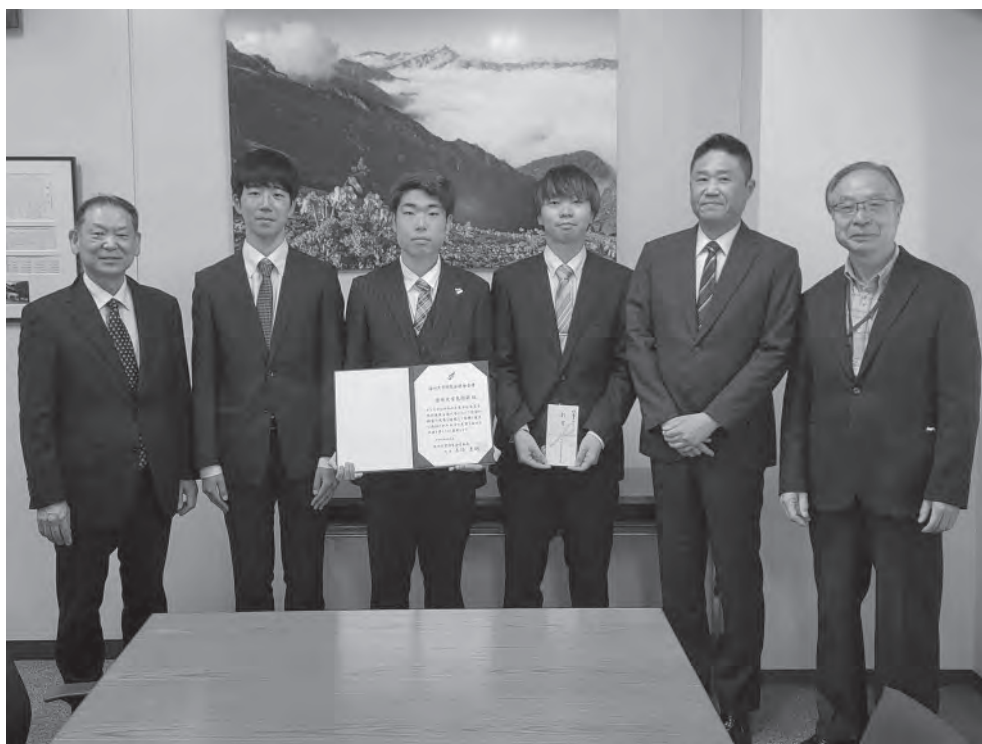
令和4年度「同窓会連合会賞」が贈呈されました

信州大学同窓会連合会は、信州大学学生及び卒業生を対象に、課外活動等で活動をしている団体及び個人に「同窓会連合会賞」を授与しています。例年、表彰式は4月の入学式と同日に執り行われておりますが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和5年4月14日（金）工学部同窓会事務室において贈呈されました。

受賞：信州大学馬術部



令和4年9月と11月に行われた全日本学生大会に3名が出場し、好成績を収めました。中でも稲葉さんの4位入賞は、創部50年で初の快挙です。馬術競技の上位層は幼少期からの経験者が多く、信州大学馬術部は全員大学から競技を始めており、全日本学生大会に出場するだけでも非常に高い壁があります。そのような中、全日本学生大会で4位入賞を果たしたことは称賛に値し、信濃毎日新聞にも掲載されました。



左から、天野良彦工学部長、稲葉隆一郎さん（総合理工学研究科・繊維専攻1年）、磯貝祐介さん（総合理工学研究科・繊維専攻1年、令和3年度主将）、皿良達鏡さん（電子情報システム工学科3年）、高村秀紀先生（顧問）、清水保雄工学部同窓会長
※所属・学年は2023年4月現在

2023年度 国際交流学生支援報告

工学部国際交流室長 辺見 信彦

1. はじめに

コロナ禍で中断していた海外協定校との実交流が再開し、2023年7月下旬から2週間、プトラマレーシア大学（UPM）の学生13名を受け入れ、若里会から参加学生に対してご支援いただきました。深く感謝申し上げます。研究室体験、マレーシアへの派遣予定の本学学生との交流、企業・松本見学などを実施しました。支援に対する各学生からの報告書の和訳を2件紹介いたします。



写真1 受入期間中に実施したセミナー
（研修学生13名を囲んで）

2. 機械製造工学科2年生 Iman Nur Zakiah binti Mohamad Azamさんの報告

体験研究室：機械システム工学科 榊研究室

報告文和訳：

皆さんこんにちは。長野での約2週間の研修を終え、マレーシアに戻り3週間が経ちました。すべてのことや瞬間が今でも私の心に新鮮にあり、長野が恋しいです。私のような学生が日本に行くのは大変です。信大訪問はとても良い機会と経験でした。信州大学の皆さんに大歓迎していただきました。皆さんのご親切にとても感謝しています。

信州大学では榊研究室に配属になり、溶射法の一つのコールドスプレーを学びました。マレーシアでは基本的なコーティングのみを学んでいたの、溶射、特にコールドスプレーのことは初めてでした。新しいことを学び帰国することができ、とても刺激的で嬉しかったです。研究室を訪れ、コールドスプレーに関する多くのことを学ぶことができとても興奮しました。詳しく知りたいと、このトピックの勉強に興味がありました。

実験室では、私たちの大学にはない溶射の機械があったことに驚きました。コールドスプレーや



写真2 榊研究室での歓談風景
（右奥がImanさん、隣がバディの津浦真美さん）

HVAFの工程を熱心に教えてくれる先輩たち、特に真実さんに出会えて本当によかったです。先輩方が機械についてとても詳しく教えてくれ、マレーシアではみることができない機械を思う存分使える良い機会になりました。この経験を友人や先生方に共有したいです。真実さんとの出会いは日本で私に起こった素晴らしい出来事の一つです。彼女は信州大学での全期間を支えてくれたバディです。新しいことを教えてくれたり、自転車を貸してくれたり、その他たくさんのことをしてくれて、助けてくれました。とても感謝しています。

先輩たちとバレーボールをしたのも楽しかったです。短い間でしたが、思い出に残るものになりました。（マレーシアに派遣予定の）愛稀さんも私が日本にいる時にとても助けてくれた人です。そば屋、焼き魚屋、寿司屋など、沢山の日本食レストランに連れて行ってくれました。多くの日本料理にトライすることができてとてもよかったです。彼は私たちに日本文化を見せ、教えようと一生懸命努力してくれ、彼の粘り強さにとても感謝しています。日本では多くのことがありましたが、一番懐かしいのは、運動場や体育館の横を歩いて研究室に行った日課です。最終日には日本を離れたくないという気持ちから泣いてしまいました。また最も記憶に残っているのは、東京の花火大会に行った日のことです。コロナで3年ぶりに開催されたそうで、見物客だらけで、駅も公園も大混雑でした。日本の伝統的衣装の着物を着ている人を見られたのもとてもよかったです。良い経験でしたが、混雑した場所が好きではないので次があってももう行かないと思います。

全体に渡り本当に良い経験でした。日本にいたことが懐かしいです。私が体験したことを他の学生にも体験してもらえよう、信州大学とUPMの今後のモビリティプログラムにも期待しています。日本訪問の間ずっと助けていただいた皆さんに感謝します。皆さんのおかげで楽しい日本訪問になりました。日本との友情に感謝します。

3. 建築学科2年生 Kirtenaa Devi A/P Rameas さんの報告

体験研究室：建築学科 土本研究室

報告文和訳：

親愛なる読者の皆様、今回は私にとって初めての海外渡航であり、とても特別なものでした。このモビリティプログラムに参加する機会を与えていただいたことに大変感謝しています。

日本での生活の中で、マナー、ゴミの管理、公共交通機関の利用がもたらす影響について、たくさん考えさせられました。まずは私の研究室の活動を書くので、それらについて後ほど詳しく説明したいと思います。研究室での最初の日に日本語のいくつかの単語を覚えいつも思い出しました。それはハリ、ハシラ、タタミ、カイダンで、すべて建築に関連した単語です。先輩に助けてもらい日本のソフトを使って間取り図を描く機会も与えられました。また、小諸への現地訪問に同行する機会も与えられ、新しい友達もできました。絆を深める機会が得られ、とても貴重なものでした。また木を使った日本の伝統的な建築も学びました。建物には伝統的彫刻が施されているのが見られました。

私は長野の静かで穏やかな環境がとても大好きです。また、マレーシアではほとんどの人が徒歩や公共交通機関を使わずに自家用車を使うので、日本では車を使わずに徒歩や自転車移動するのが普通であるという事も気に入っています。私は日本のゴミの管理にも感心しており、日本で学んだ価値観の一部をここマレーシアでも実践しています。また、アニメを見ているときに見たものはすべて日本で現実のものであるという事実にも驚いています。たとえば、日本の鉄道システムや住宅がすべてのアニメと非常によく似ているという事実です。私は子供の頃から見ていましたが、ドラえもんの中に見られたものを体験でき夢が叶いました。アニメに出てくるような家を実際に見ることができました。また渋谷に行ってハチ公像を見ましたが、うれしくて本当に泣いてしまいました。このプログラム全体の中で最も記憶に残る経験は、松本城を訪れたことです。とて



写真3 小諸でのフィールドワークにて
(右がKirtenaaさん、左がバディの藏田怜那さん)

も美しく雄大で、涙が溢れました。保存と復元がされていることにとても感謝しています。

日本の食べ物も大好きで、一番好きな食べ物はそばとラーメンです。ぜひまた日本を訪れて、この素晴らしい経験と思い出をもう一度味わいたいです。素晴らしい機会を与えてくれた関係者の皆様に感謝します。日本で過ごした素晴らしい時間を決して忘れることはありません。信州大学はとても美しく落ち着く環境にあり、そこにある施設が本当に大好きです。改めてこのような機会をいただきまして心から感謝いたします。初めての海外渡航なので、日本は私の心の中で知識、思い出、経験でいっぱいの特別な場所です。またお会いできる日まで、皆様のご健康とご長寿をお祈り申し上げますとともに、お時間をいただきありがとうございました。



写真4 派遣予定学生の日本紹介発表会での信大生との交流



写真5 研究室体験の発表会
(スライドで映写しているのは発表学生の自筆スケッチ)

2023年度 基調講演会・総会・懇親会

2023年度の基調講演会・総会が5月26日（金）に工学部キャンパス内の国際科学イノベーションセンター（AICS）にて対面・オンライン併用形式で開催され、懇親会は会場をホテル信濃路へ移して行われました。

基調講演会 14：30～16：00

- ・ 会 場：国際科学イノベーションセンター（AICS）2Fセミナースペース
- ・ 演 題：「将来に期待する
～研究と教育に携わったものの独り言～」
- ・ 講 師：宮入裕夫 氏
（機械工学科S37年卒、
東京医科歯科大学名誉教授）
- ・ 参加者数：会場47名（うち学生27名）・
オンライン20名（計67名）

講師の宮入裕夫さんは、機械工学科を卒業後、東京工業大学大学院博士課程（機械工学専攻）を修了された後、東京医科歯科大学へ。主な研究分野は複合材料工学、複合材料力学、生体材料工学、生体機械学など。講演会では「1. 医工学の世界で何をしてきたか（研究所での主な研究）
2. 新規研究分野の開拓へ



基調講演講師・
宮入裕夫氏



基調講演会場

の期待 3. 80歳を過ぎると余り恥も外聞もない
4. 将来に期待したいこと」について貴重なご講演を賜り、講演要旨で述べられた「研究者の一人として、将来を夢見る若い皆さんに多少なりともお手伝いできればと思っている。」の通り、参加学生の皆さんにとっても大変有意義な時間となりました。

総 会 16：15～16：55

- ・ 会 場：国際科学イノベーションセンター（AICS）2Fセミナースペース
- ・ 出席者数：会場20名・オンライン15名（計35名）
審議に先立ち清水会長より挨拶が述べられ、各担当より2022年度の事業報告、収支決算報告が説明された後に、監事より適切に執行された旨の監査報告が行われ、質疑の後、いずれもご承認をいただきました。次いで、各担当より2023年度の事業計画案、予算書案の説明がなされ、これらも質疑の後にご承認をいただきました。

懇親会 18：00～20：00

- ・ 場 所：ホテル信濃路（長野市中御所）
- ・ 出席者数：20名
懇親会は、会場をホテル信濃路へ移して行われました。工学部長の天野良彦先生、工学部事務部長の大月克幸様にもご出席を賜り、コロナ禍を経て久々の対面での歓談のひと時となりました。



懇親会参加者の皆さん
（前列、中央左／清水同窓会長・中央右／天野工学部長）

同窓生だより

還暦を迎え思うこと

樫山 尚久（機械 S61）



今年、還暦を迎え、38年間勤めた会社を定年退職し、8月からは再雇用となりました。任期はあと数年で、それまでに今の仕事を軌道にのせて、再雇用も完了したいと思っています。そして、次のフェーズで何をするのか、そろそろ決めなければいけません。今回、このタイミングで『若里』の寄稿という折角の機会を頂きましたので、今までの振り返り、今後について考えてみようと思います。少しお付き合い頂き、先を進まれる先輩の方々から、ご忠告やご賛同など頂ける場となりましたら幸いです。

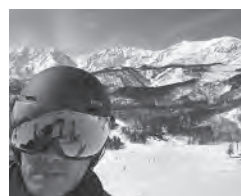
さて、これから何をするかですが、基本的には二つのことを考えています。一つ目は、今まで時間的な制約でやりたくてもできなかったこと、やり残したことをする。二つ目は、それでも社会的な存在価値は感じていたいの、社会との新しい接点をもつということです。

まずは、やり残したことです。今までは仕事と仕事を中心とした人間関係（ゴルフ）を優先してきたため、妻との時間をあまり作ることができませんでした。これからは、これまでの感謝の気持ちを込めて妻と二人で色々なところへ旅行にいきたい。

また、自然あふれる信州でもう一度過ごしたい。学生時代の思い出ですが、基礎スキー部（中退）で登った針ノ木岳の頂上で味わったおにぎりは、雲の上に広がる絶景を噛みしめるような美味しさでした。徳本峠から降りてきて河童橋から見た穂高岳は、日本のものとは思えない、空の青と雪の白で描かれる美しい稜線の世界でした。初夏の乗鞍の畳平では、雪が太陽の光に輝き、まるで一面に広がる銀の絨毯の上でスキーをしているかのようなでした。また、貧乏学生に3食付きの住み込みでバイトさせてくれたサンライズタンネ（素敵な宿です。是非ご利用ください。）のある梅池高原の麓から見る白馬乗鞍。恩師である土屋良明先生のご自宅、龍沢寺の門から180°パノラマの、志賀高原、北アルプス、飯縄、妙高の壮大な景色。絶景を超越した神秘的な大自然に、もう一度身を置きたいと強い願望を抱かせてくれます。

もう一つ、スキーへの情熱（未練）です。あのカービングの爽快感が忘れられません。今年77歳を迎えら

れる名誉教授の池田敏彦先生はそのお手本です。妙高杉ノ原スキー場のシーズン券で毎日スキーをされています。ここ最近、池田先生の後継者、飯尾昭一郎先生主催のOB会（スキー合宿）に毎年参加させて頂きスキーをする程度ですが、道具の進化もあるので、長年のブランクを埋めて、成長の余地はまだあるはずなので、是非、身近にスキーのある生活を送りたいと思っています。



二つ目の社会との接点については、具体的なことは何のイメージもありませんが、基本的な思いとしては、これまでの継続・延長ではなく、また、今までのような、成果、成長、収入、地位、競争、評価などを求めた社会活動ではなく、単純に、労働すること、人様の役に立つことに喜びを感じる『無償奉仕のような社会活動』をしたいと漠然と考えています。しかし、一方で、そんなことで良いのか？もっと向上心溢れるやるべきことがあるのではないかとも思っていました。そんな中で『なぜヒトだけが老いるのか：小林武彦著（講談社現代新書）』に触れる機会を得ました。そこには、進化的視点からヒトだけになぜ高齢化が存在するのか考察されています。つまり、『老いた人がいる社会が選択されて残ってきた』理由です。それは、シニアが知識や技術、経験が豊富で私欲が少なく次世代を育て集団をまとめる調整役になることで、その集団が安定し社会が豊かになったからということでした。この考え方はものすごく心穏やかにさせてくれました。存在そのものに意味があるということではないでしょうか。片意地張らずに自然体でシニアを迎えられそうです。両親のように、所属する地域社会に貢献をする。また、社会を支える中心世代となった子供たちのサポートや、来年早々生まれてくる初孫の世話係りも立派な役割だと思ってきました。

取り留めもない展開となってしまいましたが、皆様、機会がありましたら、ご忠告やご賛同など是非ご意見を宜しくお願い致します。

（本文はChat GPTに相当ダメ出しされましたが、自力で修正したオリジナル文です。）

トンネル屋に憧れて

垣内 健太郎（社開 H10）



私が学生だった90年代は、長野オリンピックの開催に向けて、長野新幹線の開業や、上信越自動車道の開通、長野駅舎の改築やオリンピック会場の建設工事などで、日々、街の様子がめまぐるしく変化していった時代である。

時代が押し出されるようにして変わっていくのを肌で感じながら、卒業後は総合建設業であるゼネコンに入社した。入社してから現在の建設コンサルタントに職を移すまでの11年の間、7本のトンネル工事に従事することができた。決して記録に残るような長大トンネルなどではないが、その1本1本が、工事関係者が一丸となって苦労して掘った思い出のトンネルばかりである。この時の貴重な経験と人脈のおかげで、今でも楽しく仕事ができているのかもしれない。

これまであまり振り返ったことがなかった記憶を思い起こしながら、トンネル屋と呼ばれるようになるまでを執筆したいと思う。

〈学生時代の記憶〉

大学3年生の頃、本科の卒業生を招く講義で、私は強い衝撃を受けた。ゼネコンを退職された先輩は、あるトンネルの難工事の体験談をリアリティのある言葉で語ってくれた。それまでの講義は、土木工学の知識を学ぶだけであったが、この先輩のおかげで土木構造物を造るイメージが鮮明に思い描けるようになった。

「トンネルを掘りたい」と、漠然と夢を抱くようになったのはこの時からである。この講義をきっかけに、私の「トンネル屋」の人生が動き出した。

〈ゼネコン入社〉

トンネルを掘ることしか考えていなかった私は、入社試験ではもちろん「トンネル工事に従事したい」と伝え、希望通りトンネル工事に配属された。

初めての現場は、人里から車で1時間以上も山奥に入り、電気は発電機、水道は井戸水、携帯電話が繋がらないのはもちろん、電話線（仕事の連絡だけ衛星電話を使用）もテレビアンテナもない場所であった。事務所兼宿舍では四畳半の部屋を与えられ、昼夜で稼働する現場を目の前に不安になったのを覚えている。

配属初日に現場を案内されている最中、突然にかけられた切羽発破の衝撃は今でも忘れられない。爆音と振動を全身で受け止めながら、ますます気持ちが縮

んでいくのを感じていた。

上司に薦められた吉村昭の「高熱隧道」を読みながら、ここでの環境はトンネル屋になるために与えられた試練なのかと思ったものである。

〈トンネル現場〉

11年ほどの現場経験だったが、低強度地山を中央導坑で突破したトンネル、地すべりブロックと国道直下3mを掘削したトンネル、地震による災害復旧トンネルなど貴重な経験をさせていただいた。

最近では、現場技術者の判断を補う技術として、画像解析やAIを用いて山を定量的に把握する技術、切羽崩壊の危険予測システムなどが開発されている。

私が駆け出しのころは、常に切羽地質に向き合うことはもちろん、地山の硬さによって変わる掘削機械の切削音や振動など、地山の些細な変化を見落とさないようにとよく指導された。

トンネル工事は自然を相手にする工事である。難しい判断を下すときには、新しい技術による膨大なデータに加えて、人間の五感や現場技術者の感覚は欠かすことのできない大きな役割を果たすことになる。

11年間の現場経験を経て磨かれたのはこの感覚であり、今でも私自身を支える礎となった。

〈建設コンサルタント〉

現在勤めている会社では、これまでトンネル屋の先輩方が建設してきたトンネルを年間10～20本ほど点検、調査、設計などの仕事で訪れる機会がある。昔の貴重な竣工図面を見ながら、覆工コンクリートの背後に隠された掘削当時の苦労を想像し、思いを馳せながら踏査することが楽しみのひとつである。

さらに、点検や調査では、非破壊・非接触調査として画像計測、レーザー計測などの技術を用いる機会が多く、このデータを活用しながら評価や計画・設計を行う。

技術者の感覚を駆使し、記録や計測データをもとに状況を予測しながら、技術的な判断を下すことは、トンネル掘削時もその後の維持修繕においても、その本質は変わらない。

技術に過度に依存することなく、技術を活用して的確な判断を下すことのできる技術者として、いつまでも人間の五感を研ぎ澄ましていきたいと思います。

私のつたない経験が、現場技術に携わる皆様の一助になれば幸いです。

約10年間の振り返り

貴船 達也（建築 H24・修 H26）

2014年に理工学系研究科建築学専攻を修了した貴船達也と申します。今回このような機会を頂きありがとうございます。先日とある勉強会で久しぶりに高村先生にお会いし、二つ返事でお受けさせて頂きました。

私は現在、長野県小県郡（ちいさがたぐん）長和町という周囲を山に囲まれた自然豊かな地にある齋藤木材工業株式会社という会社で働いております。社名に「木材工業」とある通り長野県のカラマツという木材を使って集成材をつくり建物を建て、部材の開発等を行っております。

学生時代を振り返ると学部生時代はギターマンドリンクラブに明け暮れていました。週末は松本で練習、平日も教育学部へ行き練習していました。設計製図はあまり得意ではなく学業はあまり熱心ではありませんでした。無事に4年生に進級し五十田研究室へ配属が決まりました。五十田研究室では日本全国で多くの実験をしており私も研究室配属後すぐに先輩の実験の手伝いをしながら様々なことを学びました。研究室も楽しく修士課程に進み木造の世界へのめり込みました。その後、実験でお世話になったのと先生の勧めもあり齋藤木材工業に入社しました。

入社してから最初の数年は主に工事を担当していました。徐々に建物が建っていく姿に感動しました。上棟したときの姿はとても美しいものです。建物が構造躯体の状態を見ることが出来るのは現場にいるときだけなので現場での仕事の特権だなと感じたものです。その後は構造設計業務に従事しました。部材の配置や接合部を1つ1つ決めていくのも楽しい作業でした。現在の所属はCAD課という課にあり、建物を建てるための施工図や、木材を加工するための加工図、金物図といった図面作成を行っております。設計者や施工者と打合せを重ね現場が上手く進められるように図面を作成しています。ただ、社員数が多い会社ではないので図面だけでなく、設計、見積、営業など幅広く担当しております。

皆さんも東京オリンピックや大阪万博等で大規模な木造建築物を目にする機会が増えてきているかと思っています。都市部では縦に「延びる」高層化した木造建築物、郊外では土地の広さを生かした横に「広がる」木造建築物が多くみられます。いずれの建物

も木材を表しにし、見た目で木材を使用していることが分かる建物が増えてきました。弊社ではそのような建物を建てる際によく用いられる集成材という部材を製造しています。集成材とはかまぼこ板のようなラミナといわれるものを積層、接着することで歩留まりよく製造しています。集成材の特徴として断面や長さを比較的自由に製造でき、強度をコントロールすることもできます。実は長野県のカラマツは北海道や東北地方のものよりも強度があるので、高層化、大規模化する現代の木造建築物には必要不可欠な材料です。弊社では長野県内で伐採されたカラマツを大切に使用し集成材を製造しています。

木材を使って都市部で建築物を建てるには構造的な制限の他に、耐火上の制限があります。耐火上の制限は建物の規模、立地条件、用途によって異なります。木材は燃えやすく危険なのでは？と思われる方も多いかと思います。実は木材にはゆっくりと燃え、炭化するという特徴があります。その特徴をいかした設計手法（燃え代設計）を使うことで木材を表しで使うことが可能になります。また、今まで木材を表しで使うことのできなかった規模でも使用できるようにするための研究開発にも取り組んでいます。

今でこそSDGsやESG投資、脱炭素という言葉が飛び交い、また全国版のニュースなどで都会に建つ木造ビルなどの特集が多くみられるようになりました。木造への挑戦が進みブランド化にもつながってきています。私が信州大学にいた10年前は少しずつ中大規模、高層な木造に注目が集まり始めた頃でした。そのようなタイミングで木の豊富な長野県の信州大学で木造建築物の研究に関われたのは大変貴重な経験をさせて頂いたと思います。

終わりに、ご指導頂いた五十田先生をはじめ、先生方に深く感謝を申し上げますと共に信州大学工学部の皆様のご健康と益々の発展を心より祈りいたします。



卒業からの7年間を振り返って

松枝 弘道 (情報 H28)



2016年に情報工学科を卒業しました松枝と申します。「若里」への寄稿という貴重な機会をいただくことができました。お声をかけていただきました橋本先生および関係者の皆様に御礼申し上げます。テーマは自由とのことでしたので、就職から経過した7年の事を振り返りつつ、感じたことを文章にしたいと思います。

私は2012年に当時の情報工学科へ入学し、2016年に卒業して現職に就きました。在学中はアルバイトと、デジタル・アナログを問わずゲームを趣味として友人や同僚と楽しく過ごさせていただき、幸いなことに勉学の方にも大きな問題はなく無事に卒業することができました。就職後は、製造業の社内SEとして基幹系業務システムの設計開発に関わる業務を主に担当しました。

私は就職後1年目からリクルーターとして活動をしていました。この度、寄稿の機会をいただけたのも、リクルーター活動のために橋本先生と就職支援室にいらっしゃいました伊東先生に度々ご挨拶に伺わせていただき、活動にご協力をいただいていたためでもあります。若里キャンパスに学生として通い始めてから既に10年の年月が経っていることに驚きを感じます。リクルーター業務は本業ではないですが、個人的には毎年楽しみにしていた業務でした。というのも、約1年毎にキャンパスを訪問しての、先生や学生との会談が新鮮で良い刺激になっていたためです。キャンパスの様子も年を経るごとに少しずつ変化があり、時の流れを感じられるよい機会でした。このリクルーター活動をする中で、世の中の変化も感じ取ることになりました。数年前にはコロナ禍となりリモートでの活動が多くなったのはもちろんですが、最も変化を感じたのは学生の出身地の変化でした。私が入学した年では、入学者の約半数程度が県内出身者だったように記憶しています。そんな私も生まれから進学、就職まですべて長野県内で済ませている生粋の長野県民であります。一方で、数年前に訪問させていただいた際に、長野県出身の学生は3割程度になっているということを知り、驚いたことを覚えています。2020年の実績が記載されている「図で見る信州大学生の進路」という資料を拝見させていただきましたところ、信州大学全体で長野県出身の入学者が全体の3割程度、県内就職率

は4割程度となっておりました。長野県内の企業に務めている私としては非常に嬉しい事実であります。ここ数年は在宅・リモートワークが広がったように感じています。長野県に在住して関東圏の会社に所属するといった柔軟な働き方もできるようになっており、働き方だけではなく生き方も変わってきているように思います。リクルーターとしての業務はすでに別担当に引き継いでしまいましたが、世の中の流れに置いていかれないようアンテナを伸ばしていきたいと思います。

入社7年目からは世の中の流れもあり、いわゆる「DX」と呼ばれる業務改革を目的としたシステム設計業務を担当することとなりました。それ以前は、既に存在する業務システムの修正や機能拡張を主としていました。その一方で現在は、他部署の業務自体や課題の要件を確認し、これまでと異なる新しいアプローチでの業務改革ができる様なシステム設計を求められるようになりました。直近では、製品マーケティングから販売管理をいかに効率的にできるかということ、営業部門のメンバーと共に試行錯誤しています。システム開発を主としている企業では当たり前のことと想像しますが、社内SEとしてのノウハウしか無い私にとっては全てが新鮮で、日々手探りで格闘しております。改めて文章にしてみますと、アイデアを元に試行錯誤する今の業務は、大学での研究活動に近いように思います。直接的なつながりはなくとも、大学で学んだことは仕事に活かされていることを再認識することができました。リクルーター活動をしている頃、就活生の方に向けて同様のことを話したことがありますが、身をもって体感している今日このごろです。

全体を通してとりとめのない文章となってしまいましたが、直近の状況まで振り返ることができましたのでここまでとさせていただきます。ここまで、中身の無い文章にお付き合いいただきありがとうございます。

終わりに、就職後もお世話になりました橋本先生と伊藤先生を始め、先生方には大変お世話になりました。感謝を申し上げますとともに、信州大学工学部と同窓生の皆様のご健勝とますますのご活躍をお祈り申し上げます。

これまでを振り返って

深井 優太（電電 H30・修 R2）



2020年に総合理工学研究科工学専攻を修了しました深井優太と申します。この度、同窓会誌「若里」への寄稿の機会をいただき、村松准教授をはじめ、関係者の方々に感謝申し上げます。せっかくの機会なので、学生時代からこれまでの振り返りをしたいと思います。

私が当時の電気電子工学科に入学を決めた理由は正直に言うと何となくでした。電気工作が好きだとプログラミングが趣味といったことは全くなく、募集人数も多く、これからの時代は電気・電子なんだろうなという漠然とした考えで選びました。しかし、入学して講義を受けていくうちに面白さを感じるようになりました。我々の身の回りにあふれている電子機器の中身や動作原理を覗いているような感覚でした。

その中でも得に興味を持ったのが電池でした。毎年のように発売される新型のスマートフォンの「バッテリー長持ち」や「最大〇〇時間」という文言を目にして、自分の生活に欠かせない電子機器を動かしている電池に興味を持ったことが当時の林・村松研究室に希望して入った理由かもしれません。

研究室では様々な製法で炭素材料を作製し、それを電池の電極材料として使用しその特性を評価するという研究をしていました。炭素材料を作製する元の材料を変えたり、熱処理をする温度を変える度に材料の特性や電池の特性が変化することに面白さを覚え、研究テーマとは関係ない電池を作ってみたりと少し遊びながら研究室生活を送っていました。そこで出会った研究室のメンバーとは一緒にアルバイトに行ったり、ご飯や飲みに行ったりと楽しく3年間を過ごさせてもらいました。

また、今の会社に就職したのも研究室のメンバーがきっかけとなりました。当時、自動車業界に就職する先輩が多くいました。自分自身そこまで自動車には興味はありませんでしたが、論文に「電池の性能を向上させ電気自動車の航続距離を伸ばす」といった文章を書いていたことや、先輩の就職先という理由だけでインターンシップに応募し、そのまま今のトヨタ車体株式会社に就職しました。

入社当初から新型コロナウイルスの影響で入社式や新人研修が班ごとに行われ、例年実施される研修がなくなったり、期間が短縮されたりと慣れない環境の中で流動的に変化する会社の動きに合わせていくので精一杯でした。研修を終え配属を決める際、残念ながら大学で研究したことに直接関わりのある部署はありませんでしたが、大学で電気電子を学んだこととインターンシップでお世話になったという理由で電子設計部を希望し配属されることになりました。

配属されて大学での学びが役に立ったことを2つ紹介します。

1つ目は試験勉強で詰め込んだ知識です。業務で回路設計や回路評価をすることになり、トランジスタやコンデンサについて改めて調べて勉強すると当時必死に勉強したことが思い出され、理解するのに時間はかかりませんでした。当時は正直に言うとう単位を取るための勉強をしており、詰め込んでいたものが試験が終わると抜けていったように思っていました。意外と頭の片隅には残っていたようです。

2つ目は大学時代の教科書です。上記のように業務で回路に関わるようになってから改めて教科書を見返して勉強してみると、当時よりも内容がよく頭に入ってきました。座学だけでなく実技をやったことであり、当時の電気電子実験でそれに気付かなかった自分に恥ずかしさを感じながら今も教科書を何度も見返しています。

上記の2つ以外にも研究活動でのものの考え方やアプローチ、結果が出るまで続ける忍耐力など大学時代に学んだこと身に着けたこと、そして感じたことすべてが繋がって今の自分があるということを最近強く感じています。よく大学で学んだことが会社に入ってから活かされることはあまりないという話を聞きますが、私は無駄なことは一つもなかったと思います。ながら日々働いています。

まとまりのない文章となってしまいましたが、最後に、ご指導いただいた林教授と村松准教授をはじめ、先生方には深く感謝申し上げますとともに信州大学工学部と同窓会の皆様の益々のご発展を心からお祈り申し上げます。

大学時代と今

西澤 実花 (物化 R2・修 R4)



2021年度に総合理工学研究科工学専攻物質化学分野を修了した西澤と申します。この度、「同窓会だより」の執筆の機会を頂き感謝申し上げます。大学院を修了してまだ2年しか経過していませんが、大学時代と近況を報告させていただきます。

【大学時代】

信州大学に在学していたときは、物質化学科の錦織・影島研究室に所属しておりました。環境・光触媒を扱う研究室で、私は $Zn_xCd_{1-x}Se$ ナノワイヤー光電極を用いた非水系湿式太陽電池という研究テーマを3年間取り組み、光電極の活性と耐久性を向上させようと日々奮闘していました。当時は夜遅くまで残ったり土日にも来たりしていましたが、電極の耐久性がなかなか向上せず、非常に苦労していたことを覚えています。しかし、先生や先輩・後輩、同期に恵まれ、なんとか3年間を乗り越えることが出来ました。この経験は今でも生きていて仕事で結果が出なくても、この研究テーマを3年間続けられたんだからこれぐらいのことなら頑張れると思えるようになりました。大学院の研究生生活で一番得られたことはメンタルが非常に鍛えられたことです。実際、上司から「西澤さんは図太くてメンタル強いね」と言われました(笑)。

【就職活動】

私は学部3年と修士1年の両方で就職活動をしていました。学部3年では幅広い業界を見ていました。化学系、電子部品系、分析系、IT系、…、害虫駆除の企業のインターンシップなんかも行きました(笑)。その中で感じたことは電子部品業界は将来性がありそうで、ナノオーダーでの微細構造設計が必要と知り、単純に「カッコいい」と思ったので、修士の就職活動では電子部品業界を中心に探しました。その中で出会ったのが現在勤めている太陽誘電株式会社でした。積層セラミックコンデンサーを扱っている企業で、技術力の高さと人事や座談会で交流した若手社員の方々の優しさに惹かれ、入社を決めました。

【入社後】

私は太陽誘電株式会社の研究所の材料開発部に配属されました。仕事内容は積層セラミックコンデンサーの誘電体部分の材料設計を行っています。実験、

結果の考察、技術報告書の作成、ミーティングへの参加等の日々を送っています。入社して一番に、「世の中にはこんなに優しい人の集まりってあるんだ～」と感じました。困った顔をしていたら必ず声を掛けて助けてくれ、分からないことを尋ねられてもたらい回しにせずに色々な人に聞きまわってくれることに驚きました。もしかしたら、優しくて思いやりのある人を積極的に選んで採用しているのかもしれないですね。このような方々に囲まれて仕事をしていると、自分まで以前より思いやりのある行動がたくさんできるようになりました。大学時代はメンタル強化、会社では他人への思いやりupで順調に人として成長しているので、10年後、20年後の自分が楽しみです。また、尊敬できる上司に出会うことが出来ました。先ほどの文で「西澤さんは図太いね」と言っていた人です。上司はもちろん非常に優秀(実験結果はいつも上司が予想した通り)で人格者であるのですが、それだけでなく若手にも裁量のある仕事を与え、のびのびと自由に研究させてくれます。最初は自由すぎて戸惑いましたが、徐々に慣れ、全く新しい研究手法を根拠を持って提案すると、「西澤さんの新しいことにチャレンジするフットワークの軽さが素晴らしい！ぜひやってみなさい。」と言われ、このグループに配属されて本当に良かったと感じています。この新しい研究は様々な人々の助けもあり、大きなミス無く、今のところ結果も予想通りで、順調に進んでいます。太陽誘電に入社して材料開発部に配属されなければ、このような順風満帆な仕事は出来なかったと思っています。上司や先輩社員、同期に大変感謝しています。

最後までお読み頂きありがとうございました。本誌への執筆の機会を与えてくださった錦織先生、影島先生にお礼を申し上げますと共に信州大学工学部の皆様の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。



仕事で実験中の私

III 恩師からのたより

通り過ぎる者からの感謝

信州大学名誉教授 深田 茂生 (元機械システム工学科 教授)



卒業生・修了生の皆様、お元気でしょうか。益々ご活躍のことと存じます。おかげさまで私も本年3月末で信州大学を無事卒業いたしました。平成3年8月1日付で助教授として赴任してから約30年あまりの間、工学部で教育・研究に携わらせていただきました。振り返るとあっという間の30年でした。長野への赴任が決まったのは、ちょうど長野オリンピックの開催が決定した直後で、その後は瞬く間に新幹線と高速道路が開通し、長野市内の道路や橋も次々に拡張され、同じ頃にはインターネットや携帯電話が急速に普及して、いろいろなことが飛躍的に便利になりました。工学部でも制度改革や改組を度々経験し、それとともに学部内の建物の改修・新設などがあって環境は変わりました。そんな中でいろいろなことに振り回されながらも、毎週行う講義や研究室でのゼミおよび研究報告会など、教育と研究に関わる本質的な活動は何ら変わることなく続けてこられたということが、私にとってのこの30年間の唯一の重みと言えるのかもしれません。

授業では、赴任当時はまだ新鮮な分野であった‘メカトロニクス’を担当させていただき、新たな学問分野の私なりの体系を伝えたいと苦心をしてきましたが、私自身の中でも未だ理解を尽くしていない未完の分野となっています。最後の約10年間は、1年生向けの力学や機構学および機械設計法などの基礎的科目も担当させていただきました。それらの講義は私自身にとっても新鮮な勉強であり、機械工学の基礎科目の難しさと奥深さを再認識する貴重な経験でした。一方、私の専門は機械要素の一つである‘ねじ’です。締結用ねじではなく、物を動かすための送りねじの研究が私の出発点です。信大では、送りねじなどをを用いた精密位置決め機構とその計測制御に関連する研究を行ってきました。4月からは特任教員として、お借りした新たな実験室に通いながらやり残した研究を継続していますが、3月までの生活と大きく変わったことは、学生との接点が無くなったことです。学生のいない研究室に一人で居ると、まるで時間が止まってしまったかのように感じ

ることがあります。大学というところは、結局のところ学生達が時計のねじを巻いてくれているんだなということを思い知りました。プラトンやガリレオの対話篇を俟つまでもなく、研究という知的な営為には、人間どうしの対話や討論が必要不可欠であるということでしょうか。

この失われた30年の間に、大学が行う研究の社会での位置づけも大きく変わりました。大学の研究・教育を社会の産業経済システムの中にもっと実質的に組み込み、経済の総力戦で実際に役に立つことを教え研究することが求められてきました。法人化以降のその大きな流れの中で、ある経済史家の書物の中にあった、「儲からなければ誰も技術開発などしない」という一文が脳裏に刻まれました。これは本当ですか？それはエンジニアというものに対する誤解ではないのでしょうか。私のように大学から世に出たことのない者には“儲かる”ということが体感としては理解できていません。つまるところ儲かることの悦びを知らない学者は話にならないということになるのでしょうか。もしそれが真実であれば、子供達や工学部の学生達にまず教えなければならないことはお金の儲け方だということになります。何か倒錯した価値観を感じますし、モノづくりはもう時代遅れだという意見も根強いことを聞くと、経済価値至上の工学技術の背景に何か暗く見通し難いものの存在を予感します。ただ、ねじは貨幣よりも古くからあるそうです。だから本来は、工学技術が経済の婢であってはならないというのが私の立場です。

最後の3年間は、コロナの影響でそれまでとは全く異なる日常を強いられました。結局何も進歩なんかしてやしない、人々を苦しめるのは、あいもかわらず疫病と自然災害と戦争であるということを最後に思い知ることになりました。30年の間、研究室で研究をともにした皆さん、講義室でともに学んだ皆さん、お世話になった教職員の皆さんにこの場をお借りして心より感謝を申し上げ、皆様の益々のご健勝と工学部のさらなる発展を祈念いたします。

定年退職を迎えて

信州大学名誉教授 山本 博章（元電子情報システム工学科 教授）



2023年3月に信州大学を定年退職しました。1988年に情報工学科に赴任して以来35年勤めたことになります。無事、この日を迎えられたことは恩師、教職員の皆様、そして研究室の卒業生諸氏のおかげであり、改めて感謝申し上げます。私は工学部の卒業生ということもあり、長年同窓会の編集委員として退職された先生方に同窓会誌への執筆をお願いしてきましたが、今回は自身が書くことになりました。とうとう来たかという感じです。

私が工学部に赴任した当時は、インターネットの揺籃期であり、主に大学間でインターネットの活用が広がっていました。情報工学科では岡本先生が大学間インターネットへの参加を進めていたこともあり、お手伝いをさせていただきました。電話回線を使い、TCP/IPプロトコルを利用したJUNET、WIDEプロジェクトへの参加です。現在信州大学で使われているドメイン名、IPアドレスはその当時情報工学科で取得したものです。今ではインターネットは爆発的に普及・進化し、日常生活ではなくてはならないものになっていますので、当時のことを思うと感慨深いです。

研究では、計算理論、アルゴリズム、情報検索、情報セキュリティなどの情報基礎分野に取り組んできました。基礎理論ということもあり、学生には難しいテーマもあったかもしれませんが、一緒に議論したことが懐かしく思い出されます。特に、学生からこちら驚くようなアイデアが出る時もあり、感心したときもありました。私が大学に入ったころは、情報工学はまだ新しい分野でしたが、最近是小中高における情報系科目の必修化、大学入学共通テストへの導入、大学における数理データサイエンス教育の実施など情報教育の重要性が高まっています。今後は、工学のどの分野においてもコンピュータの活用は必須となり、工学の基礎となることでしょう。

研究室を片付けている中で、旧情報工学科のパンフレットが出てきました。それを見ると、教育用のコンピュータシステムやカリキュラムの変遷が分かります。教育用コンピュータシステムは数年おきにリプレイスされるのですが、その環境はずいぶんと変わってきまし

た。1980年代は東芝のACOSが導入され利用されてきました。メインメモリが768KBですから、これだけでも今のパソコンと比べてかなり能力が低いのが分かります。このころは、COBOLやFORTRANを教えていました。1980年代後半から1990年代前半にかけては、スーパーミニコンと呼ばれたConvex社のコンピュータがメインコンピュータとして導入され、教育に利用されています。メインメモリは32MB、OSはUNIX、プログラミング言語はC言語です。このころは人工知能用の言語としてLISPとかPrologを学んだ人もいないでしょうか。また、情報工学科が90名体制になったことから、TSS端末96台設置されています。1995年以降は、イーサネットを活用した分散型のシステム構成となり、教育用サーバとしてSUNのワークステーションが数台導入されました。学生用には90台以上のパソコンが導入され、イーサネットを介してサーバを利用する形態で教育を行っています。ネットワーク環境が普及したこともあり、私も演習科目でUNIX上のネットワークプログラミングを実施したことを思い出します。2002年以降はノートパソコンが急速に進化したこともあり、サーバによる集中型から各自のノートパソコンを有効に活用する方式に変わってきています。現代のパソコンの性能・価格を見ると、この30年の間にコンピュータほど進化した電化製品はないのではないのでしょうか。また、プログラミング言語に関しても、今ではパソコン上でPython, JAVA, Perlなどいろいろな言語を扱うことができ、誰でも学習できる環境が整っています。便利になったものです。

さて私は、2023年4月から特任教授として電子情報システム工学科の情報系の学生の就職担当をしています。また、科研費をいただいていることもあり、アルゴリズム、情報セキュリティ関連の研究も続けています。このようにまだ大学にお世話になっていますので、微力ながら少しでも貢献できればと思います。同窓生の皆様にお会いする機会があるかもしれませんのでよろしくお願いいたします。

最後になりますが、工学部同窓会および工学部の益々のご発展と会員皆様のご活躍・ご健勝を祈念申し上げます。

『卒寿の集い』を終えて

岸田 安穂 (通信 S30)

温泉大国日本で古来「万葉集」で詠まれている温泉に、愛媛道後温泉・兵庫有馬温泉・南紀白浜温泉の三古湯と福岡県二日市温泉、それに唯一東日本では湯河原温泉（巻14-3368）とのこと、そんな由緒ある温泉（今回は3度目）でわれわれ昭和30年の電気・通信の卒業生は、『卒寿の集い』を持ちました。

実は、前回箱根大平台の嶺南荘で開催の際、『米寿の集い』を3年前の令和2年に予定していたところ、コロナ騒ぎが起こり、様子を見ながらと開催日を12月に延ばし3日（木）として、以前にも開催したことのある湯河原温泉で設定しておいたのですが、コロナの勢いが増大し、ついに第15回会合『米寿の集い』は幻の会合で終わってしまい、4年ぶりに本年4月11日（火）に開催した今回の『卒寿の集い』は、第16回目の会合となりました。

若里の校舎を後にしてからもう68年、卒業時は60名ほど居たメンバーも、ここ数年加齢とともに減少し、今連絡の取れる者は10数名になってしまい、近年は身体の不調や物故者の増加で、前回まで夫婦で参加されていたカップルも参加できなくなったりして、今回は4年前（令和元年）の箱根大平台の時の9名に較べて激減、予定していた5名の会合も、田島（悦）さんの急の事情の発生で、小池（坦）・伝田・下里・岸田の4名となってしまいました。この4人、田島さんを含め5人が「元気ならまた来年も会おう」という意気込みです。

われわれの同期会の経緯は、卒業後41年後（皆が

60才を過ぎた）1996年（H8）に自然発生的にスタートし、ルールとしては、長野・東京・名古屋地区別に世話人を置き、隔年地区持ち回りで1泊の会合を持つことで、11回（2016年H28）まで運用しましたが、この「佐久一万里温泉」での会合の際80才を過ぎたので、皆が元気で居て『集まれるなら毎年集まろうじゃないか』と云うことになり、翌29年から令和元年まで温泉旅行で1泊と決め、毎年集ることが出来、学生時代の回顧談に耽るなど、楽しいひと時を過ごしています。

また、この定期会合の間には、東京地区で2003年から東京新宿で始めたミニ会合も、4回目からは参加メンバーの集まりやすい横浜駅西口に会場を移し、11月を恒例の開催月として定着、12回も実施出来ました。

（会合実施の状況は別表の通り）

近年の会合は、専ら1泊の温泉巡りです。歳をとってからの温泉旅行は、心身ともに癒されますね。

前回の大平台温泉は、往復の電車の沿線があじさいの花で埋め尽くされる時期に合わせて、第14回の会合を6月に開催しました。この時は元気だった草間さん夫妻、久しぶりの岩越さんなど見えて、楽しいひと時を過ごせました。（このほかの参加者は、青木・小林（武）・下里・伝田・一之瀬・岸田。下記写真）

大平台温泉は泉質がナトリウム塩化物泉・アルカリ性単純温泉ですし、今回の湯河原温泉は、ナトリ



第14回嶺南荘



第16回万葉荘

ウム・カルシウムー塩化物・硫酸塩温泉で、石膏分が多く、石膏成分は傷の治りを早める効果があると言われており、戦争当時、傷病兵の温泉療養所がありました。また塩化物泉は皮膚についた塩分が汗の蒸発を防ぐため保温効果が高く、筋肉痛やリュウマチに有効とされており、硫酸塩泉の中に含まれるナトリウムが高血圧、動脈硬化症、肥満症に、カルシウムは打ち身、外傷など「キズ」に有効と言われており、高齢者には結構ずくめの温泉でしたね。

さて、昭和30年に学窓を巣立ったわれわれは、朝鮮戦争休戦後に襲来した不景気で大変な就職難に直面したのですが、今にして思えば

真空管 から トランジスター ⇒ ICへ、
短波通信 から VHF ⇒ マイクロ波 ⇒ 光通信へと

電気通信の分野で目まぐるしく変わる革新的技術の大転換期の中で懸命に対応し、技術者として逞しく生き抜いてきたことを誇りに思っている面々の今までの会合は、大変話題も豊富でした。

テレビ放送開始は、昭和28年（1953）ですが、長野で放送の始まる前は、石田研では、菅平の方向に手製の八木アンテナを向けて、丸形のブラウン管で受像を試みたり、白川研では、超音波で酒を温めてみたりした卒研時の思い出話も、語り合う友が一人また一人と旅立つ昨今、元気で生きている者同士、LINEでの情報交換は一寸無理なようですので、せめてメールや電話で連絡取り合って、限られた残された人生を楽しく過ごしたいものですね。

この稿は、昭和30年電気・通信卒同期会の総括記録ですが、こんなグループもあることの報告です。これから高齢期を迎えられる諸氏の同期会運営のご参考になれば幸いです。

なお、私の手元には平成16年に名古屋地区の当番の時、6月3～4日鳥羽で開催した際に、電気の福山さんが若里第53号に寄稿された記事がありますが、われわれ昭和30年組としてはこの寄稿と若里第67号（平成30年）の「名湯『湯ノ崎の湯』での同期会」があります。

同期会開催経緯

開催回	16	15	14	13	12	min 12	11	min 11	min 10	10
開催年	2023 R-5	2020 R-2	2019 R-1	2018 H-30	2017 H-29	2016 H-28	2016 H-28	2015 H-27	2014 H-26	2014 H-26
開催日	4月11日 (火)	12月3日 (木)	6月13日 (木)	6月21日 (木)	6月14日 (水)	11月17日 (木)	6月16日 (木)	11月20日 (金)	11月27日 (木)	6月27日 (金)
開催場所	湯河原 万葉荘	湯河原 万葉荘	大平台 嶺南荘	稲荷山 杏泉閣	湯河原 万葉荘	横浜 北海道	佐久 一万里	横浜 北海道	横浜 北海道	佐久 一万里
参加者	4	中止	9	9	12	6	9	5	6	12

開催回	min 9	min 8	9	min 7	8	min 6	7	min 5	min 4	6
開催年	2013 H-25	2012 H-24	2012 H-24	2011 H-23	2010 H-22	2009 H-21	2008 H-20	2007 H-19	2006 H-18	2006 H-18
開催日	11月18日 (月)	11月27日 (火)	6月13日 (水)	10月13日 (木)	10月21日 (木)	6月30日 (火)	6月4日 (水)	11月8日 (木)	11月20日 (月)	6月8日 (木)
開催場所	横浜 北海道	横浜 北海道	湯河原 水の香里	横浜 月の雫	野沢 嶋田屋	横浜 北海道	熱海 伊豆山	横浜 月の雫	横浜 月の雫	渋 水明館
参加者	9	8	14	11	15	13	19	11	12	25

開催回	min 3	min 2	5	min 1	4	3	2	1
開催年	2005 H-17	2004 H-16	2004 H-16	2003 H-15	2002 H-14	2000 H-12	1998 H-10	1996 H-8
開催日	10月19日 (水)	10月26日 (火)	6月3日 (木)	4月21日 (月)	6月4日 (火)	4月19日 (水)	5月9日 (土)	5月11日 (土)
開催場所	新宿 安具楽	新宿 安具楽	鳥羽保養 センター	新宿 安具楽	上高地 五千尺ロッジ	鎌倉 ハートピア	戸倉 名月荘	戸倉 名月荘
参加者	6	14	22	10	21	30	31	36

“巨大計画”河川の基本高水流量と 計画高水流量の決定について

鈴木 徳行（土木 S31・名城大学名誉教授 工学博士）

1. 概要

河川の基本高水流量と計画高水流量の決定は、大災害から流域住民・資産・公共施設等を安全に守るために最も重要な事項である。計画高水流量は、基本高水流量から、ダム・貯留地等の調節量を差し引いて決定したものである。この調節量は、できる限り大きく計画し、工費・工期の多く必要な河道整備費を少なくすることが重要である。しかし、ダム・流域貯留等の適地が少なく、調節量の増大を図ることは困難が多い。

計画高水流量は、河川計画の基本となるもので、川幅、堤防高、堤防断面形状、関連施設等を決定する大変に重要な事項である。

このようにして決定されたダム・貯留地・河川堤防・河川関連施設等の治水事業が、流域住民が安全に過ごせるように、膨大な費用を基に、長期間にわたって実施されている。

2. 基本高水流量決定方法の変遷

基本高水流量決定方法は、明治・大正・昭和初期には、大変な苦勞をして何回も河川の洪水を実測して、この実測値を基本にして検討し、決定していた。その後、昭和29年頃から、降雨から流量を推定する単位図法（ユニットグラフ法）・中安法が開発された。この単位図法により、天竜川上流では昭和29年から基本高水流量の検討が開始され、筆者は昭和31年から担当し、7年後の昭和35年に決定をした。

これまでの基本高水流量の決定は、単一洪水を基本としており、多くの対象洪水は台風起因する洪水であった。しかし、天竜川上流の36年6月洪水は梅雨が起因する洪水であり、この時から、筆者等が梅雨洪水と台風洪水の2洪水以上を対象洪水として決定した。この時以降、他の河川でも2洪水以上を対象洪水にするようになった。

その後、利根川、淀川等の大河川で、基本高水流量の計画方法の検討が長期間にわたり検討されてきた。一方、木曾川では、筆者が木曾川上流工事事務所調査課長の昭和40年から基本高水流量の検討を開始して、大変な困難を乗り越えて、昭和42年に、降雨特性を考慮した代表数洪水と流域100年確率雨量

から流出解析を行い、基本高水流量を算出する方式を日本で最初に開発した。この方式は、建設省河川砂防基準に示され、この後の基本高水流量の決定には、利根川、淀川等の全ての一級河川で、この方法が採用されている（細部については、後の5で述べる）。

3. 既往の大災害

有史以来、各河川は大災害に悩まされ、その対策に追われてきた。そこで、中部地域の大河川である木曾三川、天竜川（長野県）について述べる。

（1）木曾三川

既往の大災害は、明治17年7月（低気圧）、明治29年7月（低気圧）、昭和13年7月（前線）、昭和34年9月（台風）、昭和36年6月（前線）、昭和58年9月（台風・前線）、平成23年9月（台風・前線）と多大の大災害に見舞われてきた。中でも最大の被害は伊勢湾台風であり、この状況について述べる。

伊勢湾台風は、東海地方を中心に、‘明治以来最大’と言われる深刻な被害を各地にもたらし、約5000人の命が失われた超大型台風であった。伊勢湾岸の防波堤や海岸堤防に、猛烈で強大な高潮が襲った。海拔0メートル地帯では、台風後も長期間浸水状態が続いた。海部郡南部周辺では、決壊した堤防が修復され排水が完了するまで、120日間以上にわたり浸水状態が続き、浸水区域の被害を一層大きくした。この結果、東海三県の被害総額は、約2兆1812億円（現在の価値に換算）と言われている（図-1）。

（2）天竜川（長野県）

既往の大災害は、明治44年8月（台風）、昭和20年10月（台風）、昭和34年8月（台風）、昭和36年6月（梅雨前線）、昭和58年9月（台風）、平成18年7月（梅雨前線）と多大の大災害に見舞われてきた。中でも最大の被害は‘伊那谷災害’とも呼ばれる三六災害で、死者・行方不明136名の被害が発生して、その被害の規模と深刻さにおいて、長野県災害史上空前のものと言われている。天竜川流域の多数の支線の山腹斜面が崩壊し猛烈な土砂災害が発生し、各支線で土砂が溢れて天竜川に流出し、天竜川の河床

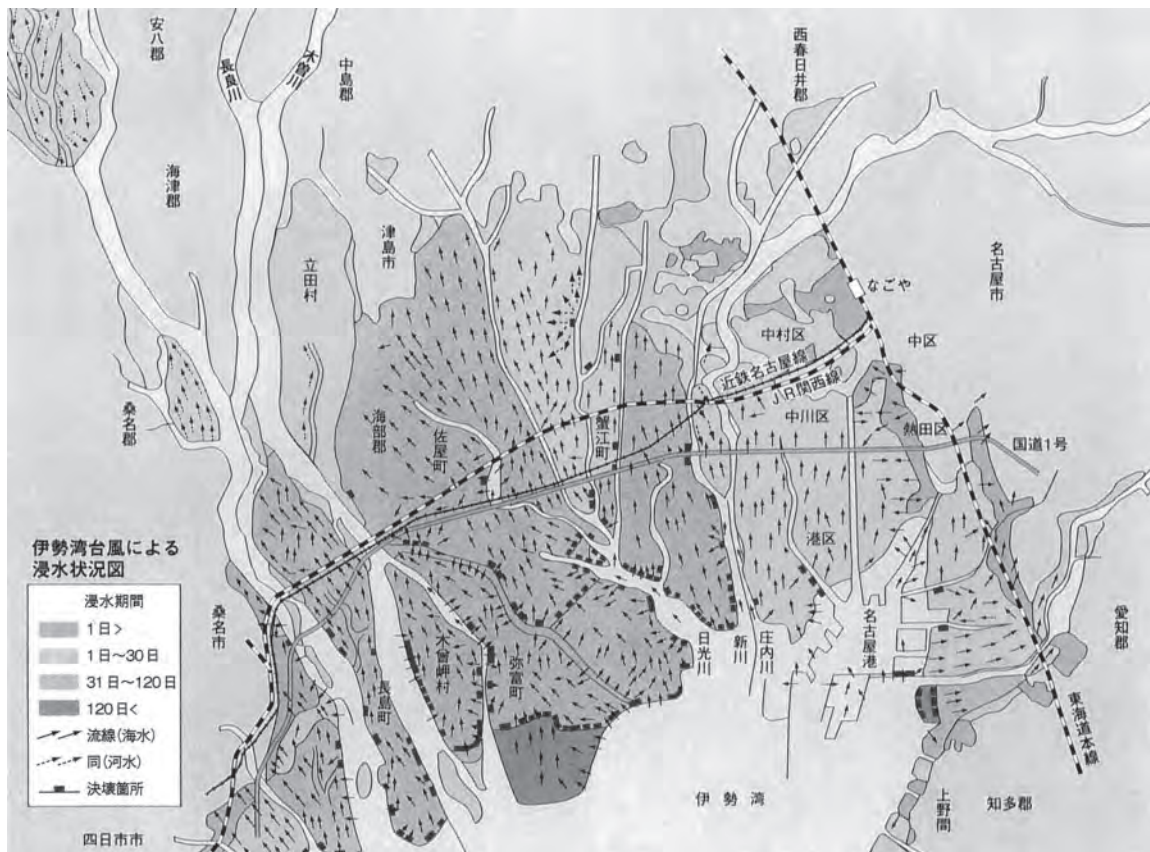


図-1 伊勢湾台風による決壊箇所と浸水状況図（昭和34年9月災）

上昇を引き起こし、洪水が至る所で氾濫して大災害となった。このような大土砂災害は、我が国において最大の土砂災害であると考えられる。この結果、長野県の被害総額は、約1183億円（現在の価値に換算）と言われている。（写真-1）。

4. 水文調査・資料収集

基本高水流量を決定するためには、長期間にわたる多数の正確な水文資料が必要である。特に、木曾三川・天竜川のように、広い流域で地形も複雑であると降雨の降り方も複雑で、非常に多数の観測所が必要となり、測定・収集・維持管理が大変な作業である。

水文資料は、時間雨量・日雨量・水位・水位変化・流速・流量等、数十年間に渡る膨大な資料を収集するもので、重要な事項である。また、水文調査・資料収集は、時間と費用が必要であり困難で大変な事項である。特に、流速・流量測定は、昼夜を問わず多数の技術者で行う困難な事項である。

5. 基本高水流量・計画高水流量の決定方法

木曾三川、天竜川は、大流域で、地形も複雑で降雨の降り方が多様であり、長期間にわたり降雨特性の検討を行った結果、降雨特性は、(1) 総雨量、(2) 降雨の地域分布、(3) 降雨の時間強度等に起因することが明らかとなった。

- (1) 総雨量は、基準地点上流域の全雨量で、主に2日雨量を用いている。
- (2) 降雨の地域分布は、基準地点上流域で流域の上流、下流、右側、左側、全流域のそれぞれに降雨量が多量に降るタイプで、流出量に変化する。
- (3) 降雨の時間強度は、台風、梅雨、この両方で雨量強度が変化し、流出量も変化する。

以上の事項について、筆者が主体となって検討を重ね、木曾川・揖斐川の降雨特性を考慮した代表数洪水を選定し、この代表数洪水と流域平均2日100年確率雨量から流出解析を行い、基本高水の流量を算出する方式を開発した。この他、流量からの100年確率流量からも基本高水の流量を求め、これらの雨量と流量から得られた結果を検討して、100年確率の基本高水の流量を求めた。

この方式を用いて、算出した基本高水の流量から、筆者が木曾川上流工事事務所調査課長の昭和42年に、新丸山ダム、岩屋ダム、阿木川ダム、味噌川ダム、徳山ダム、その他ダムの計画を行い木曾川・揖斐川の計画高水流量を決定し、河道計画を行った(図-2)(図-3)。その後、筆者も委員として、木曾三川の重要性に鑑み、平成19年に200年確率の基本高水流量に変更を行った。



写真-1 天竜川（川路・龍江・竜丘）の氾濫（昭和36年6月災）

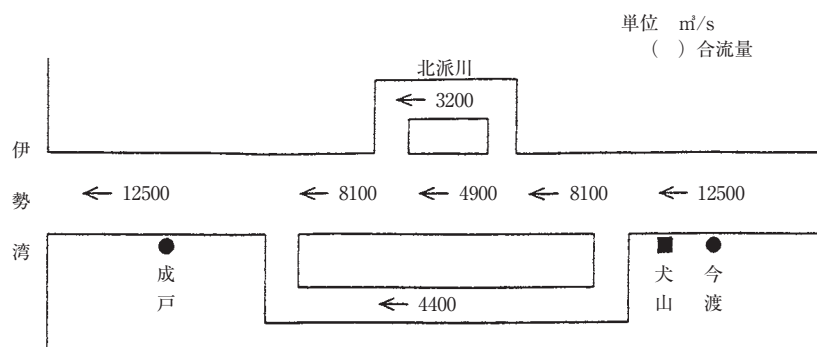


図-2 木曽川計画高水流量配分図

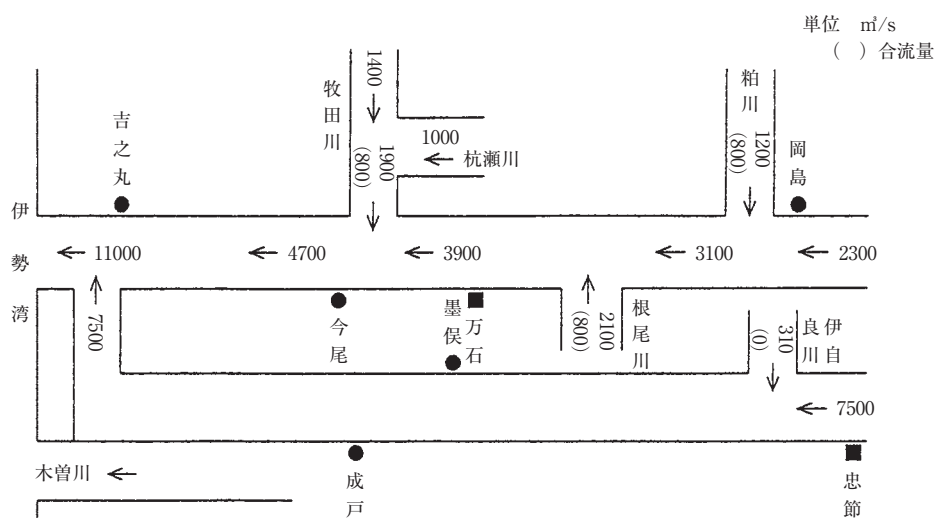


図-3 揖斐川及び長良川計画高水流量配分図

天竜川（長野県）は、筆者が昭和36年に梅雨・台風等から基本高水流量・計画高水流量を決定し、河道計画と小渋ダム・美和ダム計画を行った。しかし、50年確率であったので、筆者が天竜川上流工事事務所副所長の昭和47年に、木曽川方式により、天竜川の基本高水流量・計画高水流量を100年確率流量に修正を行った（図-4）。以上の計画を実施することにより、伊勢湾台風災害、三六災害に対しても安全となる。

6. 早期に治水安全度の向上を

木曽三川、天竜川では現在の計画で流域の安全を保ってきたが、近年の温暖化により、日本の各地で豪雨災害が頻発して大災害が発生している。そこで、木曽三川、天竜川でも早期の治水安全度の向上を図ることが重要であり、すでに計画されている基本高水流量、計画高水流量を安全に流下出来るように治水施設を整備すること、及び、基本洪水流量の変更が必要か等の検討をすることが考えられる。これらを実施するためには、膨大な整備費が必要であるが、既往の幾多の膨大な災害額を考えると、整備費用の

ほうがはるかに少ないので、膨大な災害額に見合った治水対策を、早期に行うべきであると考えられる。

7. おわりに

近年の温暖化による豪雨災害は甚大であり、これ等に対処できるように、早期に治水施設を整備し、基本高水流量も再検討し、安全度の向上を図ることが重要である。このように、各河川で決定した計画高水流量を安全に流下し、災害が発生しないよう、早期に治水対策を行うべきであると考えられる。

以上のように、基本高水流量・計画高水は、巨大計画であり、重要な事項でもあり、筆者は、天竜川では、単位図法（ユニットグラフ法）を用いて流出解析を行う方式を開発し、また、複数洪水の台風洪水、梅雨洪水等から計画する方式を開発した。木曽川では、降雨特性を考慮した代表洪水と100～200年確率2日雨量から計画する方式を開発して、木曽三川、天竜川等の多数の河川計画を行い、治水工事を実施してきたが、このような巨大計画、治水事業に携われたことを、幸運に思うと共に心から感謝している。

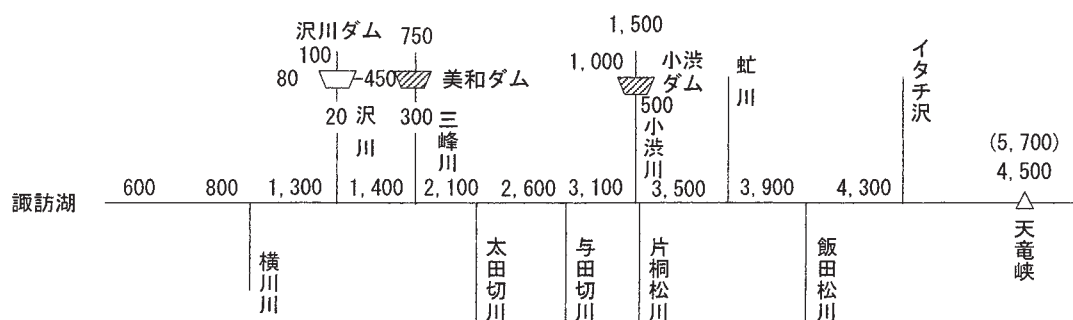


図-4 天竜川計画高水流量配分図

北信濃支部役員退任に当たり

『同窓会活動を活発にして信州大学を後世に残そう』

樋口 健吾（工化 S41）

信州大学工学部同窓会北信濃支部は、平成29年神田鷹久同窓会長、綿貫隆夫北信濃支部長のご尽力により当支部設立準備委員会の度重なる検討を経て翌、平成30年5月第1回設立総会の運びとなりました。記念講演には本校特別特任教授 遠藤守信先生の「世界大学間競争の時代」でした。

時、まさに累積赤字国債日本国財政難の中、文部科学省により全国大学への予算が大幅に削減され大学の危機が取り沙汰されて、信州大学も消滅するのではないかと危惧されました。日経新聞によると、少子化により令和40年までに240校の大学がなくなるとのことです。

同窓会では、今からその様な事態に備える意味合いもあって、同窓会の役割として

(1) 同窓会は、大学を支援する

(2) 同窓会は、地域社会に貢献する

(1) (2) は、同窓会員に寄付をお願いする、産学連携、稼ぐ大学を目指す、文科省に対し大学に代りものを申す事ができる実力ある同窓会、在校生との交流、講演会開催時には地域住民に参加を呼びかけるとか、支部のない地方には支部を設立するなどの主旨のお話を、同窓会理事でおられた綿貫北信濃支部長から、設立準備支部役員会でお聞きしました。

この際、私見ですが、終身会員の規約を改定し、会員の皆様に会費3,000円のご負担をお願いするのはいかがでしょう――。

かくして、平成30年信州大学工学部同窓会北信濃支部として設立されましたが、その後支部のない地方にも支部が設立される様になりました。

老いも若きも、最寄りの支部に顔を出して同窓会活動を活発にしよう。

年代が違って、雨の日も風の日も、若里の学舎を目指して通い、千曲川を渡る風にふかれ吹かれて、同じ学舎の窓から、若里の風土文化を眺め、熱く燃える青春の日々を過ごした同志の出逢いの時、懐古の情に一瞬絶句すれど、交流が深まるに連れてお互いの心の吟線の触れ合いは、明日の活力のひと時となることでしょう。

加速度的な科学技術の進歩と、激しく変わる世界情勢の中で、同窓会での懇親会や会員相互の交流会での場は、忙しい日々の生活や仕事から解放され、自分を取り戻せる楽しい時間でもあります。

大勢の参加を期待しています。

令和5年8月28日



支部設立記念講演会、遠藤守信先生
(写真提供：株式会社 Goolight)



「丹野研・花の46期生」母校キャンパスに集合

飯塚 聰・井上成美・小川和男・小林政廣・
轟 一郎・穂苅吉彰・松木文博（通信 S47，丹野研究室）

令和5年6月26日（月）13時30分、梅雨の合間のジリジリと照りつける太陽のもと、信州大学工学部正門前にシニア7名が集合した。昭和47年3月に通信工学科、丹野頼元教授の研究室から巣立った面々である。当時の丹野研の大学院生1名と卒研生6名の計7人からなるこのグループは、いつの頃からか「丹野研・花の46期生」と呼ぶようになった。（昭和46年度に共に研究室に在籍したことによる）

丹野先生がお元気であった頃は先生も交えて、県内又は近隣の温泉地、長野市内あるいは東京などで会合を開いて旧交を温めてきた。平成28年に先生が他界された後もこの会は続いている。今回は、工学部キャンパスの見学、研究室訪問、恩師丹野教授のお宅を訪ねてご焼香、そして夕方からの懇親会という段取りになった。

正門の警務員室で訪問の目的等を告げ入門の許可をもらう。まずは天皇皇后両陛下（現上皇上皇后）の信州大学ご訪問記念植樹プレートの前で記念撮影、その後同窓会事務局を訪れて挨拶し、しばらく休憩させて頂いた。

メンバーの多くが卒業以来初めての訪問となる工学部キャンパスに足を踏み入れてまず驚かされたのは、正面に聳え立つ国際科学イノベーションセンターである。地域資源等を活用した産学連携で行う国家的なプロジェクトの拠点とのことである。さらに奥に進むと、各学科の研究棟をはじめとして、総合研究棟、講義棟、図書館等々、数々の立派な建物が学問の府にふさわしい品位と風格を醸し出していた。



木造の丹野研究室（昭和46年）

我々が卒研を行った当時の建物は、木造平屋建て、暖房は石炭ストーブであった。半世紀も前の時代のことなので比べること自体無茶な話かもしれない。もちろん現在ではそれら木造建物の跡形は微塵もないが、ただ一箇所、正門と北門の間に、その面影をわずかに残してひっそりと佇んでいる建物があった。武道場である。板張りの建屋と木枠の窓ガラスが当時の様相をそのまま残していた。（写真：木造の丹野研究室）

そのあと、メンバーの一人と交流のある物質化学科教授、樽田誠一先生の研究室を訪ねた。先生のご研究テーマの一分野である「マイカセラミックスの合成と性質」について、パワーポイントを用いて丁寧にご説明いただいた。先生のお話はとても興味深く、我々も理解できる範囲でいろいろと質問させていただき、久しぶりにアカデミックな時間を過ごした。

丹野先生のお宅では、ご家族が快く出迎えてくださった。ご仏前に手を合わせ、先生のご恩に感謝するとともに各人の近況をご報告した。夕方からは長野駅東口にある料理屋で喉を潤した。コロナ禍でしばらく会合を控えていたため、昔話に花が咲き、長時間の懇親会となった。メンバーの一人から、「これからも人・本・旅と向き合って歩んでいきたい」との挨拶があった。我々は後期高齢に突入する世代であるが、まだまだ好奇心と向学心の旺盛な「花の46期生」である。またの再会を期して卒業から50余年ぶりの記念会合の締めを、お互いの健康と信大工学部の益々の発展を祈って乾杯をした。（写真：懇親会）



丹野研・花の46期生懇親会（令和5年）

S56年 機械工学科卒業 同級会

幹事：悪澤 孝治・小林 庸悟（機械 S56）

機械工学科昭和56年卒の同級会を、令和4年10月1日～2日、善光寺の宿坊・薬王院において開催しました。

当クラスの西木さんの紫綬褒章受章祝賀会を兼ねた同級会から、5年ぶりの開催となりました。

コロナの感染状況がかなり落ち着いた時期ではありましたが、恩師で同窓会会長の清水先生（機械工学科卒の先輩）と、クラスの3分の1にあたる16名（青木、悪澤、石原、植谷、内堀、風間、上前、小林、多田、中野、西木、深浦、三輪、山崎、山下、渡部）が参加して無事行うことができました。

長野県内からは3名だけでしたが、北は北海道、南は兵庫県の遠方から参加してもらえました。

1日（土）は、午後3時ごろから三々五々集合してもらい、午後5時から、清水先生の同窓会に関するお話や、参加者全員の近況報告等を含め、ミーティングを行い、次いで精進料理と般若湯をたっぷりいただきました。

仕事で活躍した話や、大学時代の昔ばなし、現在の活動など、面白い話を沢山聞くことができました。

定年の時期を迎え、それぞれの転機を迎えている世代であり、参加者からは、色々な話を聞くことで、活力を得ることができたという声をいただきました。

2日（日）は、夜明け前の5時半に宿坊（薬王院）

を出て、ガイドさんの案内で善光寺の本堂内陣に入り、天台宗と浄土宗が入れ替わりで行われる早朝のお勤めを見学し、朝食を済ませて午前8時ごろには解散しました。

両日ともに快晴、朝はさわやかで神聖な「お朝事」を体験するには最適な季節でした。

また、参加者の何人かは、その好天に誘われて、戸隠山や飯縄山に登山をしてきたようです。60代の中盤に差しかかる面々ですが、まだまだ体力もあり、意気軒昂でした。

同級会なので、気楽でゆるい会にしたつもりですが、とにかく、皆さんの協力で何のハプニングもなく、無事終えることができました。

本同級会は、定期的に開催するため、5年前にオリンピックイヤーに開催することを決め、当初は夏季の大会である2020年東京オリンピックの年を想定していましたが、コロナの影響で2年延びたことになり、それが冬季のオリンピックイヤーとなりました。

また、善光寺の宿坊での宿泊は、早朝に「お朝事」を体験するなど、少しハードな面があるとも考えましたが、実際は我々の世代では問題がなく、普通の宿泊施設とは少し趣が異なり、一興でした。

今回は、たぶん王道の温泉で、オリンピックイヤーの開催を予定しています。



善光寺薬王院にて

合成化学科有機合成化学研究室・ 物質工学科精密合成化学講座 同窓会

前田 宗徳 (合成 S59, 合成化学科有機合成化学研究室)

昭和59年3月(1984年3月)に合成化学科有機合成化学研究室を卒業しました前田宗徳と申します。ご縁がありまして、合成化学科有機合成化学研究室・物質工学科精密合成化学講座の同窓会を企画させていただき事になりました。昭和59年3月卒の同窓の皆さん(田中さん・原田さん・疋田さん・深山夫妻・三宅さん)と共に企画をさせていただきました。企画がスタートし1年半、実質準備期間10ヵ月を経て同窓会を開催させていただくことができ、コロナ禍も落ち着くベストのタイミングであったと思います。会場は新大阪ワシントンホテルプラザにて5月27日に開催しました。主賓には小山菊彦先生(現信州大学名誉教授)・竹内寛先生(1971年~1994年勤務・現神戸大学名誉教授)・三谷道治先生(1972年~2008年勤務・現信州大学名誉教授)・土田瑛子様(1971年~2014年勤務)をお招きいただきましたが、残念ながら小山先生・土田様のご都合で欠席されておられます。参加人数は総勢28名。会場は大賑わいで、卒業年も昭和46年(1971年)~平成4年(1992年)までと20年以上の先輩後輩が一堂に会しました。素晴らしい同窓会でした。

つたない司会進行役ですが、不肖私が進行をさせていただきました。冒頭竹内先生・三谷先生に開会のご挨拶をいただき、信州という自然豊かな中での教員生活への思い、合成化学科・物質工学科の歴史の変遷、学生さんとのふれあい等々お話いただきました。フロアーの皆さま方の感慨深い表情が大変印象的でした。小山先生・土田様からのお言葉も代読をさせていただきました。その後の乾杯のご発声では、腹の底からの『乾杯』になりました。歓談中に、信州大学工学部同窓会事務局からお借りした『信州大学60周年記念DVD』も視聴させていただき、あらためて歴史と伝統ある大学だとの声が上がっていました。プログラムは進み、自己紹介&思い出話のコーナーでは、若い方からのスタートとなり、皆さん各々の微笑ましいエピソードの連発で会場は笑いの渦に包まれました。円卓着座でしたが、その場でスピーチされる卒業生、正面の金屏風の前で声高らかにスピーチされる卒業生等々、個性豊かなス

ピーチが続いていました。宴会は益々盛り上がり、クイズのコーナーになりました。このクイズは、信州大学附属図書館&大学史資料センターにて作成された、信州大学に関する問題です。初級編の問題9問と竹内先生・三谷先生の39年前のお写真も併せて問題に使わせていただきました。両先生方には事前にご快諾もいただいております。

ちなみに問題を数問記載します。

○信大のキャンパス数と学部数はいくつあるでしょう？

○信大生のうち、長野県以外の出身者割合はどれくらいでしょう？

○信大から交換留学に行ける海外の大学はいくつあるのでしょうか？

等々興味深くかつ楽しめる問題でした。

ちなみに両先生のお写真は、

○この方はどなたでしょうか？

と39年前長野市権堂で、他校の学生さんも交えた通称『コンパ』の席での写真でした。竹内先生が現在長髪にされておられる以外は、両先生共、当時と変わらないお姿でした。ちなみに、問題の解答は『信大検定』で検索いただければ最上段に出てきますので是非とも確認下さい。おもしろく楽しいですよ。

会もいよいよ佳境を迎え、記念品贈呈のコーナーです。今回の会名・日時を刻印したクリスタル時計を記念品として、お渡しをさせていただきました。そして最後閉会のご挨拶をいただき終了となりました。

冒頭記載させていただきましたが、卒業生20年以上の年月が離れた同窓会でした。先生との会話を最大限楽しまれ、先輩後輩の垣根を解きはらい、参加者全員が心の底から大笑い楽しめた同窓会でした。またこの機会を経て、あらたな仲間の輪が広がりますように感じました。

最後になりますが、ご臨席いただきました、竹内先生・三谷先生本当にありがとうございました。心より厚く御礼感謝を申し上げます。また遠路参加いただきました卒業生の皆様本当にありがとうございました。

更に信州大学工学部同窓会事務局の宮坂綾子様・
信州大学附属図書館大学史資料センター 坂元英恵
様お世話になりました。ありがとうございました。
御礼申し上げます。

尚、会運営にて、一部会費余剰金が発生しました
ので、同窓会一同名で、信州大学知の森基金・日本
ユニセフ協会（人道危機緊急募金）に全額寄付させ
ていただきましたことを最後にご報告致します。



信州大学 有機合成化学研究室 精密合成化学講座 同窓会
2023年 5 月27日 新大阪ワシントンホテルプラザ

叙勲を祝う

下記の会員の方が受章されました。誠におめでとうございました。



瑞宝双光章

令和4年11月

北澤 文教
(土木S35卒)

※同窓生で受章された方がおられましたら、事務局へお知らせください。

TEL/FAX : 026-266-8209

E-mail : kdoso@wakasatokai.jp



支部だより

現在、県内〔長野・北信濃・東信・中信・南信〕、県外〔関東・茨城〕の計7支部が活動しています。新たに〔中京・関西〕2支部の発足を準備中です。

—————

長野支部

新型コロナ拡大の影響下で、長野支部はこの4年間の活動が休眠状況にあります。今年（2023年）5月に感染症5類に移行して、様々な経済活動がコロナ禍以前の状況にもどりつつあるところですが、支部会員には年配者が多くいらっしゃることを念頭に慎重にならざるを得ないところです。

過去直近に開催した「工学部同窓生の教員の研究プレゼンを聞く会」（2019年10月開催）では、懇親会も行いました。開催の翌朝に千曲川堤防が決壊して大規模な災害が発生し、その年の暮れに新型コロナウイルス感染の猛威が始まって今日に至っています。

2020年、21年、22年には、電子メールを含む、文書による年次総会を開催しました。今年度については、いまだ活動が始まっておりません。支部会員の皆さまに多大なご迷惑をおかけしていることを、まことに申し訳なくお詫びいたします。

同窓会事務局から、会員に広くお知らせいただきたいとの周知依頼が増えています。また、工学部同窓会・若里会が「一般社団法人信州産学みらい共創会」の賛助会員であることから、共創会からのセミナー・研究会開催などの案内が支部役員に通知されています。

先般、支部会員に一斉に通知することを目的に、

メーリングリストを設定しました。無料で公開されているシステムを使っでの試行中ですが、同窓会主催の8月の「暑気払い」への参加案内を初発信しました。その後、長野県工業技術総合センターからの職員募集の件を通知済みです。今後、同窓会からお知らせいただく、みらい共創会のイベントについても通知したいと考えています。

会員の皆様にお集まりいただき、親睦を深め、大学の未来に貢献することが支部活動の大事なミッションだと認識していますが、同窓会の一員として、最新の工学部の活動情報を共有することも大切なことだと思います。

未熟ながらも、試行錯誤しながら少しずつ進みたいと存じます。ご指導とご鞭撻のほどをよろしくお願いします。

長野支部長 松本進（工化S47）

—————

北信濃支部

今年度の交流事業は、幹事会・総会、さらに「小水力発電」についての講演と見学について実施しました。

講演は信州大学名誉教授の池田敏彦先生をお招きし、開発状況についてのお話を伺いました。実際の稼働については、須坂市役所の担当職員の皆様のご協力により現地に赴き、実際の稼働状況を見学しま

した。実施内容については、次のとおりです。

1. 令和5年度幹事会・総会の開催

今年度の幹事会・総会は、下記により実施しました。

(1)期日:令和5年6月7日(水)午前9時～12時30分

(2)場所:須坂市「シルキーホール」

(3)出席者:22名

会議内容としては、前年度事業の実施結果について報告し、今年度の事業内容について説明した後、全会一致で承認されました。

さらに次年度以降の支部役員については、下記のとおり承認され、担当の内容については後日決定することとしました。

『令和6年度役員』敬称略

村石博明(通信S44)、関谷俊生(精密S50)、

月原光昭(土木S55)、城石雅弘(工化H4)



2. 小水力発電に関する講演会及び現地見学

会議終了後、小水力発電に関する講演を聴講した後、須坂市さんのご協力により現地での稼働状況を見学しました。

(1)講演

講師としてお招きした池田先生は、長年小水力発電の研究開発に携わり、長野県はもとより全国的な活動により、地域の活性化に寄与されてきました。

特に長野県須坂市においては、地域活性化に向けての国の支援事業として、地域の環境に適合した水車の開発支援を進めてきました。

今回の講演では、小水力発電の概要と地域に適合するための環境条件と実際の稼働状況について、ご紹介いただきました。

講演課題名:

「地域に根ざした発電用小型水車の開発普及」

信州大学名誉教授 池田敏彦 先生

(2)見学会

講演終了後、須坂市米子地区に赴き実際の小水力発電機について、市担当職員の方から実際の稼

働状況と今後の普及についての説明をいただきました。

4種類の小水力発電機の稼働状態を実際に観るのは初めての方が多く、今後の地域におけるエネルギー供給源として期待されます。

現地においては4種類以外にも地元の企業者による設置も試みられ、地域の活性化に向けての期待は大きいといえます。

今回、実際に小水力発電システムを管理している須坂市生活環境課の皆さんには、ご多忙のなか見学会への対応をしていただき、心からお礼申し上げます。

3. 今後の支部事業の推進に向けて

平成30年5月26日にスタートした当北信濃支部の活動は、コロナの影響で休会もありましたが、北長野地区でのスタートを皮切りに須坂市、中野市、飯山市、さらに今年度は須坂市において、総会、講演会等を開催してきました。ご支援・ご協力をいただきました会員の皆様には、お礼申し上げます。

次年度からは、既述のとおり新役員が選任されたので、ご支援、ご協力をお願いいたします。

北信濃支部長 島田享久(機械S47)

—————

東信支部

東信支部の活動状況について、下記報告いたします。

1. 活動報告

(1) R4年度助成金申請

2022.04.11 2021年度活動報告、2022年度助成金申請(様式1)提出

(2) R4年度支部長会

2022.05.14 リアル/リモート併用開催
支部長、副支部長 リアル出席

(3) 東信支部 R4年度事業活動全般

・役員会 メール方式により実施
・支部総会等の事業はコロナ渦のため、R4年度開催することが出来ませんでした。R5年度は開催等の検討を進めたい。

(4) R5年度助成金申請

2023.04.11 2022年度活動報告、2023年度助成金申請(様式1)提出

(5) 2023(R5)年度総会

2023.05.26 於;工学部 支部長 参加

(6) 2023年度支部長会

2023.05.27 於;ホテル信濃路

リアル/リモート併用開催

支部長 リアル出席、

会計 リモート出席

(7) 東信支部 3 役会

2023.06.27 於；マイクロストーン（佐久市）

支部総会開催の検討等；R5.9.9

東急REIホテル上田で開催を急遽
決定

(8) 東信支部 2023年度支部事業助成金〔様式2〕
の申請 2023.08.07

(9) 東信支部総会の開催

（3年ぶり 会場直接参加のみ）

(1) 開催場所

期日 R5年9月9日（土） 15：30～

場所 東急REIホテル上田（上田市）

(2) 内 容

a 議事 活動・会計報告、支部会則の変更、
2023年度事業計画等

- ・2022年度活動報告、会計報告、
2023年度事業計画
- ・支部会則の変更 電子会議方式の併用等
- ・役員改選

支部長 白鳥 敬日瑚（工化S56）

副支部長（庶務）香山 瑞恵（情報H3）

副支部長（会計）西 嘉一（電気S46）

b 講演

演 題

『技術の研究開発および技術者の育成』

講演者

長野県工科短期大学校 校長

（元工学部工学部長）岡本 正行様

c 懇親会

2. お願い

- ・支部会員への広報事項は原則本部の同窓会ホームページでおこないます。定期的にご覧いただきたい。
- ・コロナ渦のため、各種事業等の開催は、まだ完全に再開となっておりますが、一部Web方式を含め、開催等の検討を進めたい。
- ・支部会員への連絡方法について；本会の方針でもあり、費用の関連もあり、電子メールを充実させていきたい。つきましては、従来の住所、電話番号に加えて、電子メールアドレスを、本部または支部に連絡をお願いいたします。

末筆ですが、会員の皆様に変えてお世話になりました。感謝申し上げます。

新役員にも、変わらぬご厚情をよろしく願います。

たします。

東信支部

前支部長 清水 信孟（電気S41）記載

新支部長 白鳥 敬日瑚（工化S56）確認

—————

中信支部

中信支部の活動について

昨年度は、未だ新型コロナウイルスの影響を受け、オンラインでの支部事業となりました。

講師に長野県工業技術総合センターの児野武郎さんを招いて、「測定とは 長さ 重さ 時間」と題したオンライン講演会を行い、十数名の会員に参加頂きました。大変専門的な内容でしたが、科学の基本ともいえる長さ、重さ、時間の計測の定義や方法等について興味深い話が聞け、楽しい学びの時間となりました。

また、11月に開催された「ようこそ先輩」には、中信支部から川口達也さん（H19卒）に講演して頂き、好評を博しました。後日、支部会員希望者には、講演の録画を、オンライン配信しました。

今年は、3年ぶりに、顔を合わせるイベントとして、10月に新オープンする松本市立博物館の見学を予定しています。また、懇親会も復活させ、旧交を温めたいと考えています。

下記に昨年度の活動概要、今年度の計画を示します。

〈2022年度活動概要〉

4/7（木）

支部役員WEB会議（Zoom）で事業計画検討

5/20（金）～6/30（木）

支部幹事とのメールによる情報共有

10/2（日）

中信支部総会・講演会（Zoom）

場所：塩尻市市民交流センター「エンパーク」から配信

15：00～15：30 総会（会計報告、事業計画他）

15：30～16：30 講演会

演 題：「測定とは 長さ 重さ 時間」

講 師：長野県工業技術総合センター

精密・電子・航空技術部門測定部

児野 武郎 氏

参加者：12名

11/4（金）

ようこそ先輩2022 「働くことを楽しむ」

講師：川口達也さん

12/5～末 希望者に講演録画を後日配信

〈2023年度事業計画〉

10/7（土）

中信支部見学会・総会・懇親会

15：00～ 松本市立博物館見学

（松本市大手3-2-21）

17：00～ 総会・懇親会／

個室和食あすなろ（松本市大手2-3-4）

中信支部会員は勿論、同窓会会員の皆様におかれましては、支部活動にご興味がありましたら、是非、ご連絡頂き、支部イベントにもご参加頂ければ幸いです。

中信支部長 竹田圭吾（電子S49）

—————

茨城支部

茨城支部（こまくさ会）の活動につき、報告いたします。

R4年度活動報告

昨年に引き続きR4年度もコロナ禍の為、幹事会並びに総会行事等何も出来ない状況が続きましたがR5年2月に入りコロナ禍が低減し始めた状況を踏まえ、幹事の都合等を聞きながら、3月15日に幹事会を開催いたしました。

(1) 出席者；幹事6名中5名

（1名は体調不良で欠席）

(2) 場 所；会社施設借用としたが当日都合付かず小料理店「みさと」を使用。

(3) 審議・討議内容

①R4－5/13の支部長会議報告と他支部の会計報告書紹介。

②会員の名簿管理が現状1名となっているが、今年度より現役会員と定退会員それぞれに各1名置き、きめ細かく行っていくこととした。

③R5年度は11月20日前後を目標に総会を開催すべく、今後幹事会を2～3回開催し準備を進める。



R5-3/15「みさと」での幹事会の様子

茨城支部長 野村精志（通信S38）



松本空港

訃報

謹んでお悔やみ申し上げます

(敬称略)

藤澤五男	(機械・昭和33年卒)	平成26年5月6日	ご逝去
前田和夫	(航空・昭和20年卒)	平成26年8月7日	ご逝去
井伊賢至	(合成・平成2年卒)	平成29年8月2日	ご逝去
沖津明	(土木・昭和26年卒)	平成29年10月14日	ご逝去
北原弘志	(通信・昭和46年卒)	平成30年12月24日	ご逝去
高木潔	(電気・昭和63年卒)	平成31年2月22日	ご逝去
相沢真一郎	(機械・昭和35年卒)	令和1年5月27日	ご逝去
甲田悌三	(電気・昭和22年卒)	令和1年7月	ご逝去
飯島良彦	(電気・昭和37年卒)	令和1年11月23日	ご逝去
西沢芳利	(電気・昭和25年卒)	令和2年6月	ご逝去
白子悟史	(機シ・平成16年卒)	令和2年6月9日	ご逝去
大池宏治	(通信・昭和35年卒)	令和2年10月21日	ご逝去
半田榮範	(土木・昭和41年卒)	令和2年12月5日	ご逝去
横道長幸	(土木・昭和28年卒)	令和3年1月29日	ご逝去
和田利一	(土木・昭和40年卒)	令和3年3月30日	ご逝去
三代澤敏郎	(電気・昭和36年卒)	令和3年5月	ご逝去
高山允角	(精機・昭和22年卒)	令和3年6月6日	ご逝去
和田好基	(通信・昭和44年卒)	令和3年10月14日	ご逝去
五十嵐勤	(電気・昭和42年卒)	令和3年12月25日	ご逝去
戸松達夫	(電気・昭和24年卒)	令和4年	ご逝去
望月亮	(通信・昭和34年卒)	令和4年1月	ご逝去
田中久夫	(機械・昭和39年卒)	令和4年1月22日	ご逝去
松林博芳	(土木・昭和30年卒)	令和4年2月18日	ご逝去
津山淨憲	(土木・昭和32年卒)	令和4年2月20日	ご逝去
酒井新一郎	(工化・昭和45年卒)	令和4年2月7日	ご逝去
宿崎幸一	(工化・昭和39年卒)	令和4年3月8日	ご逝去
田中衛	(機械・昭和29年卒)	令和4年4月8日	ご逝去
菅谷章	(電気・昭和38年卒)	令和4年5月	ご逝去
土屋登	(通信・昭和35年卒)	令和4年5月19日	ご逝去
鈴木健	(通信・昭和24年卒)	令和4年5月29日	ご逝去
長井孝夫	(土木・昭和48年卒)	令和4年6月	ご逝去
小市広海	(通信・昭和23年卒)	令和4年7月26日	ご逝去
前田忠顕	(土木・昭和41年卒)	令和4年7月29日	ご逝去
松井篤男	(精密・昭和43年卒)	令和4年8月10日	ご逝去
岡田圭司	(電気・昭和30年卒)	令和4年8月20日	ご逝去

横谷	浩	(精機・昭和25年 卒)	令和4年8月22日	ご逝去
輪湖	正就	(電気・昭和26年 卒)	令和4年8月3日	ご逝去
松澤	照男	(機械・昭和46年 卒)	令和4年8月5日	ご逝去
諏訪	昭英	(通信・昭和25年 卒)	令和4年9月10日	ご逝去
畔上	茂	(電気・昭和23年 卒)	令和4年9月18日	ご逝去
小松	良知	(電気・昭和38年 卒)	令和4年9月19日	ご逝去
大塚	徹	(機械・昭和22年 卒)	令和4年9月24日	ご逝去
友部	主彦	(工化・昭和52年 卒)	令和4年9月6日	ご逝去
小松	茂久	(電気・昭和41年 卒)	令和4年9月6日	ご逝去
木下	正種	(電気・昭和29年 卒)	令和4年10月5日	ご逝去
藤森	茂一	(機械・昭和20年 卒)	令和4年10月22日	ご逝去
廣田	眞一郎	(電気・昭和39年 卒)	令和4年10月26日	ご逝去
広野	茂穂	(情報・昭和54年 卒)	令和4年10月28日	ご逝去
新村	直治	(機械・昭和32年 卒)	令和4年10月31日	ご逝去
稲毛	康夫	(通信・昭和31年 卒)	令和4年11月20日	ご逝去
上野	隆夫	(電気・昭和23年 卒)	令和4年12月初旬	ご逝去
宮尾	英彦	(工化・昭和38年 卒)	令和4年12月27日	ご逝去
草間	繁	(電気・昭和30年 卒)	令和5年1月21日	ご逝去
内藤	伸	(機械・昭和31年 卒)	令和5年1月9日	ご逝去
篠原	寿人	(通信・昭和29年 卒)	令和5年2月18日	ご逝去
福山	惇	(電気・昭和30年 卒)	令和5年4月23日	ご逝去
福沢	栄三郎	(機械・昭和41年 卒)	令和5年4月30日	ご逝去
長尾	晃亘	(機械・昭和41年 卒)	令和5年5月8日	ご逝去
安西	敏浩	(機械・昭和39年 卒)	令和5年6月18日	ご逝去
市川	肇	(精機・昭和20年 卒)	令和5年6月21日	ご逝去
森	崇	(土木・昭和35年 卒)	令和5年7月11日	ご逝去
市川	誠	(精機・昭和20年 卒)	令和5年7月15日	ご逝去
吉野	三郎	(機械・昭和22年 卒)	令和5年8月11日	ご逝去
角谷	弘雄	(機械・昭和36年 卒)		ご逝去
青木	悟朗	(機械・昭和28年 卒)		ご逝去
北村	八郎	(機械・昭和33年 卒)		ご逝去
田中	輝夫	(通信・昭和37年 卒)		ご逝去

(令和5年8月受付迄)

* 同窓生の方でお亡くなりになられた方がおられましたら、事務局までお知らせください。

TEL/FAX : 026-266-8209 E-mail:kdoso@wakasatokai.jp

会務報告

信州大学工学部同窓会

2022年度会務報告(2022年4月～2023年3月)

【第1回常任理事会】

日時：2022年4月22日(金) 16:00～17:30

議案：

1. 2021年度事業報告・収支決算報告について
2. 2021年度会計監査報告について
3. 2022年度事業計画案・収支予算書案について
4. 次期役員選任について

報告：

1. 2021年度支部活動報告・2022年度支部助成申請について
2. 令和3年度学生表彰「わかさと賞」授与式について
3. 卒業生・修了生連絡先登録回答状況について

【2022年度理事会】

日時：2022年5月9日(月) 15:10～16:30

議案：

1. 2021年度事業報告・収支決算報告について
2. 2021年度会計監査報告について
3. 2022年度事業計画案・収支予算書案について
4. 役員改選案について

【2022年度支部長会】

日時：2022年5月13日(金) 10:30～11:45

議案：

1. 2021年度支部活動報告について
2. 2022年度支部助成申請について
3. 支部長会の開催について
4. 支部幹事会・支部総会におけるオンライン会議環境整備について

【2022年度総会】

日時：2022年5月13日(金) 16:00～16:30

議案：

1. 2021年度事業報告・収支決算報告について
2. 2021年度会計監査報告について
3. 2022年度事業計画案・収支予算書案について
4. 役員改選案について

【編集委員会】

日時：2022年6月6日 15:30～16:30

議案：

1. 会誌「若里」71号、編集・発行について
2. 技報「こまくさ」20号、編集について
※発行（一財）若里会

【第2回常任理事会】

日時：2022年6月23日(木) 16:50～18:10

議案：

1. 常任理事会役員・担当割について
2. 「ようこそ先輩2022」について
3. 2022年度暑気払いについて
4. 2023年度総会・基調講演会・懇親会予定について

報告：

1. 「青少年のための科学の祭典・2022長野大会」共催・協賛金依頼について
2. 元副会長小市正英さん御逝去・葬儀参列について
3. AxC-PF第4回総会について
4. 北信濃支部総会について
5. ホームページレスポンス対応について
6. 2022年度編集委員会について

【第3回常任理事会】

日時：2022年8月26日(木) 16:00～17:10

議案：

1. 「ようこそ先輩2022」について

報告：

1. 同窓会メールアドレス変更について
2. ホームページレスポンス対応について
3. 同窓生油絵寄贈について
4. 第36回信州大学同窓会連合会役員会について

【第4回常任理事会】

日時：2022年10月28日(金) 16:50～17:50

議案：

1. 「ようこそ先輩2022」について
2. 2023年度総会等開催予定について
3. 旅費規程一部改正について

報告：

1. 同窓会メールアドレス変更・ホームページ改修

- (問い合わせフォーム・住所変更届)について
2. 会誌「若里」71号・技報「こまくさ」20号、編集・発行について
 3. 中信支部総会、関東支部総会について
 4. 日経新聞「信州大学工学部」記事への広告掲載について
 5. 同窓生油絵寄贈について

【第5回常任理事会】

日時：2022年12月9日(金) 16:00～16:40

議案：

1. 「令和5年度信州大学同窓会連合会賞」候補者推薦について
2. 令和4年度学生表彰「わかさと賞」推薦依頼について

報告：

1. 「ようこそ先輩2022」実施報告について

2. 会誌「若里」71号、進捗状況について
3. 2022年度忘年会中止について
4. 令和5年2月信州大学東京同窓会開催について

【第6回常任理事会】

日時：2023年2月24日(金) 15:30～17:00

議案：

1. 令和4年度学生表彰「わかさと賞」受賞者承認について
2. 卒業生・修了生への連絡先登録依頼について
3. 2023年度事業計画案・収支予算書案について

報告：

1. 令和5年2月信州大学東京同窓会について
2. 第37回信州大学同窓会連合会役員会について
3. 「令和5年度信州大学同窓会連合会賞」候補者推薦について
4. 「わかさと賞」副賞、レリーフ材料について

一般財団法人信州大学工学部若里会

2022年度会務報告(2022年4月～2023年3月)

【第1回研究助成選考委員会】

日時：2022年4月7日(木) 10:00～11:30

議案：

1. 2022年度研究助成、募集要項・スケジュールについて

【メール審議】

日時：2022年4月7日(木)

議案：2022年度研究助成募集案について

【第1回理事会】

日時：2022年4月22日(金) 14:30～15:30

議案：

1. 2021年度事業報告・収支決算報告について
2. 2021年度会計監査報告について
3. 2022年度事業計画案・収支予算書案について
4. 役員改選案について
5. 2022年度定時評議員会の開催について

【2022年度定時評議員会】

日時：2022年5月12日(木) 13:30～14:10

議案：

1. 2021年度事業報告・収支決算報告について
2. 2021年度会計監査報告について
3. 2022年度事業計画案・収支予算書案について

4. 役員改選案について

【臨時理事会】

日時：2022年5月12日(木) 14:45～15:05

議案：

1. 理事長および副理事長の選定について

【メール審議】

日時：2022年5月18日(木)

議案：2022年度学部助成申請（信州大学ロボット研究会）について

【第2回研究助成選考委員会】

日時：2022年6月9日(木) 10:00～11:00

議案：

1. 2022年度研究助成候補者選定について
2. 選考結果通知・目録贈呈について
3. 2023年度スケジュールについて

【メール審議】

日時：2022年6月9日(木)

議案：2022年度研究助成選考結果について

【メール審議】

日時：2022年7月26日(火)

議案：2022年度学科助成申請（旧電気電子工学科）
について

【メール審議】

日時：2022年11月7日(月)

議案：2022年度学科助成申請(機械システム工学科)
について

【第2回理事会】

日時：2023年3月2日(金) 13:30～14:45

議案：

1. 2023年度事業計画案・収支予算書案について

報告：

1. 「青少年のための科学の祭典・2022長野大会」
共催について
2. 「光芒祭2022」大学祭助成金の交付について
3. 「日経新聞・工学部記事」広告掲載について
4. 「ようこそ先輩2022」開催について
5. 学科助成金の返金について
6. 研究助成金の返金について
7. 「技報こまくさ」JSTデータベース登録につい
て



松本空港

同窓会役員名簿

信州大学工学部同窓会

2023 年度役員（敬称略）

（2022年度～2023年度）

会 長 清水 保雄 / 機械 S45

副 会 長 南雲 忠信 / 工化 S44 [支部支援] 伊東 一典 / 通信 S46 [総務] 清水 茂 / 土木 S49 [会員サービス・キャリア支援] [編集]

常任理事 脇若 弘之 / 電気 S46 [講演会企画運営] 若林 信一 / 合成 S48 [会計] 大上 俊之 / 土木 S53 [講演会企画運営]

半田 志郎 / 電子 S53 [支部支援(統括)] 山本 博章 / 情報 S55 [広報・HP] [編集] 柳 和彦 / 機械 S61 [編集 (統括: 編集委員長)]

高村 秀紀 / 建築 H8 [講演会企画運営 (統括)] [編集]

[11名]

監 事 轟 一郎 / 通信 S47 松岡 浩仁 / 精密 S61

[2名]

理 事 宮入 裕夫 / 機械 S37 池田 敏彦 / 機械 S44 野村 義和 / 機械 S50
丸山 六男 / 機械 S52 西木 直巳 / 機械 S56 遠藤 智久 / 機械 S57
永田 利雄 / 機械 S57 松森 徹 / 機械 S60 鬼頭 宏和 / 機械 S61
樺山 尚久 / 機械 S61 櫻井 雅史 / 機械 H2 浦野 正敏 / 精密 S42
小平 正八 / 精密 S43 藤田 雄二 / 精密 S45 降旗 建治 / 精密 S45
富田 五一郎 / 精密 S47 米本 峰久 / 精密 S50 寺澤 昭彦 / 精密 S62
野村 精志 / 通信 S38 干川 圭吾 / 通信 S42 萬年 正治 / 通信 S45
遠藤 守信 / 電気 S44 西 嘉一 / 電気 S46 土屋 寛 / 電気 S49
竹田 圭吾 / 電子 S49 田宮 秀英 / 電子 S50 中澤 達夫 / 電子 S52
窪田 悟 / 電子 H1 曾根原 誠 / 電電 H14 村松 寛之 / 電電 H16 [編集]
有賀 良夫 / 土木 S46 清水 治彦 / 土木 S53 関根 邦彦 / 土木 S53
中嶋 孝満 / 土木 S55 松本 進 / 工化 S47 小林 壯 / 工化 S51
白鳥 敬日瑚 / 工化 S56 清野 竜太郎 / 工化 S62 馬場 文明 / 合成 S48
布施 美千栄 / 合成 S52 戸田 泰行 / 合成 S54 山口 朋浩 / 物質 H6 [編集]
手嶋 勝弥 / 物質 H7 不破 泰 / 情報 S56 前田 政人 / 情報 S57
香山 瑞恵 / 情報 H3 梅干野 成央 / 社建 H14 牛 立斌 / シ開 H10 [編集]

[48名]

名誉会長 天野 良彦 / 工化 S57 (工学部長)

顧 問 市川 誠 / 精機 S20 宮澤 脩 / 機械 S24 小沼 義治 / 電気 S34
北澤 文教 / 土木 S35 神田 鷹久 / 工化 S38

※「氏名／学科・卒業年」[担当] を示す。

※ 正副会長・常任理事・監事・理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する総会の終結の時までとする。

若里会役員名簿

一般財団法人信州大学工学部若里会

2023 年度役員（敬称略・五十音順）

（2022年度～2023年度）

理 事 長	神田 鷹久	／ 信州大学 名誉教授	
副 理 事 長	中澤 達夫	／ 長野工業高等専門学校 名誉教授	
副 理 事 長	若林 信一	／ 元新光電気工業(株) 取締役	
理 事	榊 和彦	／ 信州大学工学部 教授	
	清水 信孟	／ 元上田日本無線(株) SE部部长	
	白川 達男	／ 元富士通メディアデバイス(株) 代表取締役社長	
	南雲 忠信	／ 横浜ゴム(株) 相談役	
	山本 博章	／ 信州大学 名誉教授	[8名]

（2022年度～2023年度）

監 事	轟 一郎	／ 元(株)NTTデータ信越 代表取締役社長	[1名]
-----	------	------------------------	------

評 議 員

（2020年度～2023年度）

小林 壯	／ 元新光電気工業(株) 開発統括部主席部長
小林 光征	／ 元信州大学工学部 学部長
富田五一郎	／ 元ゼネラル(株) 執行役員滋賀工場長
千川 圭吾	／ 元NTTLSI研究所 主幹研究員
町田 正信	／ オリオン機械(株) 常務取締役

（2022年度～2025年度）

大石 修治	／ 元信州大学工学部 学部長	
岡本 正行	／ 元信州大学工学部 学部長	
清水 保雄	／ 信州大学 名誉教授	
半田 志郎	／ 前信州大学工学部 学部長	[9名]

※ 理事及び監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

※ 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

● 2022年度 信州大学工学部同窓会 事業報告

- | | |
|-----------------------|-------------------------------|
| 1. 常任理事会 | 第1回～第6回 |
| 2. 2022年度理事会 | 2022年5月9日 |
| 3. 2022年度支部長会 | 2022年5月13日 |
| 4. 2022年度総会・基調講演会・懇親会 | 2022年5月13日 |
| 5. 編集委員会 | 2022年6月6日 |
| 6. ようこそ先輩2022 | 2022年11月4日 |
| 7. 会誌『若里』71号 | 2022年12月 20,500部発行 |
| 8. 卒業記念品贈呈 | 2022年9月・2023年3月 学部生へ学位記ホルダー贈呈 |
| 9. 学生表彰「わかさと賞」 | 2023年3月 学部生6名 賞状・レリーフ贈呈 |

※会議詳細は「会務報告」をご参照ください。

● 2023年度 信州大学工学部同窓会 事業計画

- | | |
|---|--|
| 1. 常任理事会
隔月に1回（年6回）開催 | 6. 同窓会誌『若里』72号発行 |
| 2. 2023年度理事会（オンライン会議）
2023年5月19日 開催 | 7. 卒業生記念品贈呈
2023年9月、2024年3月（学部生）
記念品…学位記ホルダー |
| 3. 2023年度総会・基調講演会・懇親会
2023年5月26日 開催 | 8. 学生表彰「わかさと賞」
2024年3月（学部生）
記念品…賞状、オリジナルレリーフ |
| 4. 2023年度支部長会
2023年5月27日 開催 | 9. 会員サービス
クラス会補助
キャリア支援 |
| 5. 「ようこそ先輩2023」開催
信州大学工学部 同窓生・在学生・教職員交流会 | |

● 2022年度 信州大学工学部同窓会 正味財産増減計算書

(2022年4月1日～2023年3月31日)

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1 経常増減の部				
(1) 経常収益				
正会員会費収入	1,515,300	1,698,815	△ 183,515	149件 ※前年度：196件
賛助会員会費収入	8,580,000	11,730,000	△ 3,150,000	286件 ※前年度：391件
懇親会参加会費収入	69,000	0	69,000	総会、ようこそ先輩
広告収入	180,000	160,000	20,000	『若里』71号広告掲載14社 ※当年度：1社増
事務受託収入	1,000,000	1,000,000	0	(一財) 信州大学工学部若里会
創立記念事業基金収入	610,200	226,000	384,200	22件 ※前年度：26件
雑収入	129,108	85,657	43,451	受取利息、60周年記念誌代 (11冊)
経常収益計	12,083,608	14,900,472	△ 2,816,864	
(2) 経常費用				
事業費	(6,541,163)	(5,578,526)	(962,637)	
卒業記念費	335,500	297,000	38,500	学位記ホルダー 500部 ※前年度：500部
学生表彰費	209,098	45,414	163,684	「わかさと賞」記念品、レリーフ材料代
在学生交流事業費	54,560	0	54,560	ようこそ先輩 2022 ※前年度実施なし
クラス会補助	10,000	0	10,000	1件
キャリア支援	0	0	0	
信大同窓会連合会会費	70,000	70,000	0	拠出金
渉外費	41,640	0	41,640	東京同窓会 (役員日当・旅費 他) ※前年度実施なし
支部助成費	659,036	619,630	39,406	支部運営費・事業費、総会祝金、本部役員日当・旅費
会議費	213,826	99,470	114,356	日当(監査・常任理事会・編集委員会 他)、総会・懇親会設 営費、Zoom年間ライセンス料 ※前年度懇親会実施なし
手数料	66,534	103,129	△ 36,595	会費入金手数料
「若里」発行・発送費	4,260,366	4,038,676	221,690	「若里」71号印刷、発送 他
印刷費	273,443	259,227	14,216	トナー、プリンク用紙、会費払込用紙印刷、会費用 封筒、演題作成
広報費	347,160	45,980	301,180	サーバーレンタル料、HP更新作業料、HPレスボンシブ対応 費 日経新聞広告掲載料
管理費	(8,690,293)	(8,555,112)	(135,181)	
若里会寄付金	2,000,000	2,000,000	0	(一財) 信州大学工学部若里会
通信費	429,635	450,410	△ 20,775	送金手数料、郵送料、電話料
事務用品費	47,752	78,109	△ 30,357	文具、OA用品 他
光熱費	185,483	116,302	69,181	事務室電気料・ガス料
旅費	152,824	77,874	74,950	役員旅費 (常任理事会、総会、支部長会 他)、事務員 通勤手当
事務手当費	4,664,560	4,635,638	28,922	事務員2名、(一財) 若里会事務受託
福利厚生費	732,430	709,321	23,109	社会保険料、退職金積立
名簿資料管理費	35,200	35,200	0	名簿データ保守料
減価償却費	206,938	206,938	0	パソコン、プロジェクター
顧問料	152,500	152,500	0	会計事務所、社会保険労務士事務所
雑費	82,971	92,820	△ 9,849	御香典、弔事生花、講師謝礼、講演会設営謝礼 他
経常費用計	15,231,456	14,133,638	1,097,818	
当期経常増減額	△ 3,147,848	766,834	△ 3,914,682	
2 経常外増減の部				
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 3,147,848	766,834	△ 3,914,682	
一般正味財産期首残高	131,249,872	130,483,038	766,834	
一般正味財産期末残高	128,102,024	131,249,872	△ 3,147,848	
正味財産期末残高	128,102,024	131,249,872	△ 3,147,848	

● 2023年度 信州大学工学部同窓会 収支予算書

(2023年4月1日～2024年3月31日)

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
正会員会費収入	1,500,000	1,000,000	500,000	
賛助会員会費収入	13,000,000	13,350,000	△ 350,000	
懇親会参加会費収入	250,000	250,000	0	
広告収入	180,000	170,000	10,000	『若里』72号広告代
事務受託収入	1,000,000	1,000,000	0	(一財) 信州大学工学部若里会
創立記念事業基金収入	250,000	200,000	50,000	
雑収入	100,000	100,000	0	受取利息 他
事業活動収入計	16,280,000	16,070,000	210,000	
2 事業活動支出 (事業費)				
卒業記念費	350,000	300,000	50,000	学位記ホルダー
学生表彰費	50,000	50,000	0	わかさと賞記念品
在学生交流事業費	100,000	100,000	0	ようこそ先輩交流会
クラス会補助	50,000	50,000	0	
キャリア支援	50,000	50,000	0	
信大同窓会連合会会費	100,000	100,000	0	拠出金、役員会日当・旅費
渉外費	100,000	100,000	0	信州大学東京同窓会 他
支部助成費	1,000,000	1,000,000	0	支部運営・事業助成費、総会祝儀、本部役員参加経費
会議費	500,000	500,000	0	日当(常任理事会・編集委員会 他)、 総会・懇親会設営費 他
手数料	150,000	150,000	0	会費入金手数料
「若里」発行・発送費	4,200,000	4,000,000	200,000	『若里』72号
印刷費	250,000	250,000	0	封筒印刷、トナー代 他
広報費	200,000	200,000	0	サーバーレンタル料、HP メンテナンス料 他
事業費支出計	7,100,000	6,850,000	250,000	
(管理費)				
若里会へ寄付	2,000,000	2,000,000	0	(一財) 信州大学工学部若里会
通信費	500,000	500,000	0	送金手数料、郵送料、電話料
事務用品費	150,000	200,000	△ 50,000	文具、OA 用品 他
光熱費	180,000	150,000	30,000	事務室電気代・ガス代
旅費	350,000	350,000	0	役員旅費(総会・常任理事会 他)、事務員通勤手当
事務手当費	4,950,000	4,850,000	100,000	事務員2名、(一財) 若里会事務受託
福利厚生費	750,000	750,000	0	社会保険料、退職金積立 他
名簿資料管理費	50,000	50,000	0	名簿データ保守料
顧問料	150,000	150,000	0	会計事務所、社会保険労務士事務所
雑費	100,000	200,000	△ 100,000	慶弔費、講師謝金、証明書発行手数料 他
管理費支出計	9,180,000	9,200,000	△ 20,000	
事業活動支出計	16,280,000	16,050,000	230,000	
事業活動収支差額	0	20,000	△ 20,000	
II 投資活動収支の部				
1 投資活動収入				
特定預金取崩収入	10,000,000	11,000,000	△ 1,000,000	運営資金振替 ※終身会員会計より一般会計へ
投資活動収入計	10,000,000	11,000,000	△ 1,000,000	
2 投資活動支出				
特定預金積立支出	11,970,000	12,302,000	△ 332,000	積立振替 ※賛助会員会計より終身会員会計へ
備品購入支出	300,000	300,000	0	
投資活動支出計	12,270,000	12,602,000	△ 332,000	
投資活動収支差額	△ 2,270,000	△ 1,602,000	△ 668,000	
III 予備費支出	984,362	756,945	227,417	
当期収支差額	△ 3,254,362	△ 2,338,945	△ 915,417	
前期繰越収支差額	3,254,362	2,338,945	915,417	
次期繰越収支差額	0	0	0	

(注記) 資金の範囲 本会計の現金預金

若里会 2022年度事業・会計報告/2023年度事業計画・予算書

● 2022年度 一般財団法人信州大学工学部若里会 事業報告

1. 理事会 第1回・臨時理事会・第2回
2. 定時評議員会 2022年5月12日
3. 研究助成選考委員会
第1回 2022年4月7日
第2回 2022年6月9日
4. 研究助成
2022年6月 信州大学工学部教員2名
5. 学部助成
2022年5月 信州大学ロボット研究会
2022年6月 青少年のための科学の祭典・長野大会
2022年11月 信州大学工学部 機械システム工学科
2023年3月 信州大学工学部 国際交流室
6. 大学祭助成 2022年10月 光芒祭
(長野工学キャンパス)
7. 技術情報誌『こまくさ』20号
2022年10月 400部発行
8. ようこそ先輩2022 2022年11月4日

※会議詳細は「会務報告」をご参照ください。

● 2023年度 一般財団法人信州大学工学部若里会 事業計画

1. 技術情報誌の発行
本財団の技術情報誌である『こまくさ』第21号を発行し、関係会員並びに産官学を含め、各市町村関係企業に配布し、もって産官学の共同研究・技術振興に役立てる。
2. 講演会開催助成事業
大学関係者のほかに一般の方々も参加する講演会の開催を助成する。
3. 学部・学科助成事業
近年、企業や自治体、関係団体等との共同研究開発が盛んになっている。大学並びに在学生と企業・社会との密接な関係は今後も更に発展していくと考えられる。大学の研究紹介や広報活動の支援を含め、学部・学科助成事業を積極的に行う。
4. 研究助成事業
科学技術立国を目指す日本にとって、これからの日本を背負う若者を育てる大学の教育・研究に大きな期待が掛けられている。しかし、現在の教育・研究環境は少ない研究費・不十分な施設・設備などに見られるように大変厳しい状況にある。これらのことを鑑み、大学の教育・研究に携わる若手教員を対象として、教育研究活動を支援するために、平成7年度より研究助成を開始しており、これを継続する。
5. 国際交流学生支援事業
信州大学から多数の学生を派遣している協定校との公平な協力関係を築き、本学工学部のグローバル化教育推進のため、協定校からの外国人学生に対し支援を行う。同時に本学工学部在学生の海外留学も含めて支援を行う。
6. 「ようこそ先輩2023」開催
工業界の第一線で活躍する同窓生を講師に招き、工学部同窓生及び在学生、学部内教職員などを対象とした講演会を開催する。
7. 大学祭への助成
工学部大学祭（光芒祭）は、工学部ならびに工学部学生と地域・市民との交流を深める行事として定着しており、その継続的な活動を支えるために助成を行う。
8. 国際会議等助成事業
国際会議など広く世界的な学術研究の展開を図るべく開催される学会等に対して助成を行う。

● 2022年度 一般財団法人信州大学工学部若里会 正味財産増減計算書

(2022年4月1日～2023年3月31日)

(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減	備 考
I 一般正味財産増減の部				
1 経常増減の部				
(1) 経常収益				
寄付金収入	2,000,000	2,000,000	0	信州大学工学部同窓会
雑収入	759,723	2,629	757,094	受取利息、ようこそ先輩協賛金、研究助成返金
経常収益計	2,759,723	2,002,629	757,094	
(2) 経常費用				
事業費	(3,271,402)	(2,313,770)	(957,632)	
「技報こまくさ」発行費	258,950	253,770	5,180	「こまくさ」20号印刷・発送費
研究助成費	2,000,000	2,000,000	0	2件
学部助成費	496,000	10,000	486,000	信州大学ロボット研究会、協定校交流協議会、 青少年のための科学の祭典、学科助成1件
国際交流学生支援費	0	0	0	申請0件
大学祭助成費	50,000	50,000	0	光芒祭（長野工学キャンパス）
講演会費	150,752	0	150,752	ようこそ先輩2022（講師謝金、会場設営費 他）
広報費	315,700	0	315,700	HP更新作業料、HPレスポンス対応費、 日経新聞広告掲載料
管理費	(1,539,390)	(1,473,094)	(66,296)	
会議費	35,000	38,000	△ 3,000	日当（監査・理事会・研究助成選考委員会）
旅費	19,110	13,118	5,992	役員旅費（理事会・研究助成選考委員会）
事務委託費	1,000,000	1,000,000	0	信州大学工学部同窓会
事務用品費	54,542	35,887	18,655	プリンタトナー、文具 他
顧問料	120,527	88,000	32,527	会計事務所、司法書士事務所（役員登記）
雑費	218,399	227,089	△ 8,690	研究助成選考謝金、証明書発行手数料、 送金手数料、弔事生花 他
租税公課	91,812	71,000	20,812	法人市県民税、役員登記印紙税
経常費用計	4,810,792	3,786,864	1,023,928	
当期経常増減額	△ 2,051,069	△ 1,784,235	△ 266,834	
2 経常外増減の部				
	0	0	0	
経常外費用計	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	△ 2,051,069	△ 1,784,235	△ 266,834	
一般正味財産期首残高	31,442,775	33,227,010	△ 1,784,235	
一般正味財産期末残高	29,391,706	31,442,775	△ 2,051,069	
正味財産期末残高	29,391,706	31,442,775	△ 2,051,069	

● 2023年度 一般財団法人信州大学工学部若里会 収支予算書

(2023年4月1日～2024年3月31日)

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	備 考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
寄付金収入	2,000,000	2,000,000	0	信州大学工学部同窓会
雑収入	20,000	20,000	0	受取利息 他
事業活動収入計	2,020,000	2,020,000	0	
2 事業活動支出				
(1) 事業費支出				
「技報こまくさ」発行費	400,000	400,000	0	「こまくさ」21号印刷・発送費
研究助成費	2,000,000	2,000,000	0	2～3件
学部助成費	2,000,000	2,000,000	0	学部助成、学科助成、国際会議等助成
国際交流学生支援費	1,000,000	1,000,000	0	工学部協定校留学支援
大学祭助成費	65,000	65,000	0	光芒祭（長野工学キャンパス）他
講演会費	300,000	300,000	0	講演会開催費
広報費	100,000	100,000	0	ホームページ更新費 他
事業費支出計	5,865,000	5,865,000	0	
(2) 管理費支出				
会議費	100,000	100,000	0	日当（監査・理事会・研究助成選考委員会 他）
旅費	50,000	50,000	0	役員旅費（監査・評議員会・理事会・研究助成選考委員会 他）
事務委託費	1,000,000	1,000,000	0	信州大学工学部同窓会
事務用品費	150,000	200,000	△ 50,000	文具、OA 機器、印刷費 他
顧問料	150,000	150,000	0	会計事務所、司法書士事務所
雑費	250,000	200,000	50,000	研究助成選考謝金、証明書発行手数料、郵便切手、送金手数料 他
管理運営支出計	1,700,000	1,700,000	0	
事業活動支出計	7,565,000	7,565,000	0	
事業活動収支差額	△ 5,545,000	△ 5,545,000	0	
II 投資活動収支の部				
1 投資活動収入				
投資活動収入計	0	0	0	
2 投資活動支出				
投資活動支出計	0	0	0	
投資活動収支差額	0	0	0	
III 予備費支出	1,000,000	1,000,000	0	
当期収支差額	△ 6,545,000	△ 6,545,000	0	
前期繰越収支差額	29,391,706	31,442,775	△ 2,051,069	
次期繰越収支差額	22,846,706	24,897,775	△ 2,051,069	

2022 年度卒業生名簿

信州大学工学部卒業生（敬称略）

機械システム

工学科

3名

羽根田 一真

荒木 耕陽

前川 尚輝

電気電子工学科

1名

杓掛 祐樹

土木工学科

1名

川嶋 勇輝

情報工学科

1名

安永 大陸

環境機能工学科

1名

岡田 明子

物質化学科

83名

中村 智哉

藤原 和樹

松葉 祐真

岡本 青

内藤 舜介

古田 鉄丸

青柳 大知

朝倉 行秀

阿部 真太郎

新井 健太

池山 匠

石川 柊太郎

巖嶋 圭祐

稲垣 真紀

今井 駿

今井 皇登

岩山 菜月

大浦 真実

太田 亘

大塚 紫乃

栢木 沙耶

加藤 拓海

金澤 辰哉

河口 遼

川西 賢太

神崎 泰輝

北風 湧希

NGUYEN THI

THANH TRUC

河野 駿哉

小久保 一誠

小坂 明日海

澤田 潤

三大寺 広花

杉山 史弥

鈴木 魁

関森 柊二

高野 伸一郎

高橋 茉那

高橋 みのり

武富 由佳

田代 啓登

田中 大幹

谷 悠太

寺西 璃矩

常田 晋永

中村 龍之介

成田 はるひ

成實 俊介

西村 春香

早川 颯汰

東野 剛士

日出嶋 孝紀

平澤 真里子

廣瀬 駿

藤 優斗

藤田 憲人

藤原 はな

船井 駿一

堀場 亘輝

松田 春輝

丸山 丈登

見山 晃樹

村松 和哉

本橋 皇紀

森 絢音

夜久 優太

山口 礼

山田 武蔵

山中 豪

山本 溪斗

吉澤 来美

吉田 江里

吉村 水稀

米原 温人

脇本 詩織

和田 侑希

伊藤 康太

清水 祐作

南 蓮夢

他 4名

電子情報システム

工学科

169名

吉本 優哉

池田 紅葉

金井 大我

佐藤 篤史

澤本 敦史

牛尾 友哉

佐藤 太一

松野平 健登

山口 雄太郎

石川 健児

宇波 拓哉

落合 智己

阪田 佳祐

櫻井 雄介

高尾 優介

高桑 宏輔

竹谷 憲吾

出口 樹

峯尾 俊作

山本 静香

渡部 悠太

青山 諒仁

秋好 伸之輔

浅井 雄大

東 蒼生

荒谷 愛斗

安藤 海翔

石川 寛大

石川 航

磯貝 翔

市村 奏帆

市村 悠一郎

井出 翼

井上 雄斗

井ノ口 雅幸

浦野 真吾

浦野 涼雅

大岡 冬偉

太田 真生

太田 涼介

大西 沙耶

大西 翔太

大藪 駿太郎

岡田 勇磨

小笠原 光杜

荻堂 晃平

小山内 尋

小沢 朋輝

尾田 準平

小竹 淳

小畑 貴聖

角田 篤哉

笠井 凱貴

加地 泉美

片桐 有優

金井 綾香

金子 秀太

鎌田 泰成

上條 雄登

川口 健斗

河口 太以凱

川畠 雄司

川村 拓生

神吉 孝洋

神田 柊

菊池 悠

城戸 透馬

木藤 翔太

木原 颯大

久保 匠矢

黒飛 翔

小池 悠大

小島 真一

小竹 倅成

小林 誠至

小松 凌都

斉藤 椿

齊藤 諒太

佐々木 脩人

佐藤 大成

佐藤 大輝

佐藤 律希

佐野 雅弥

塩原 湜太

重田 隆明

篠崎 陽太

柴田 奈々世

柴本 凜太郎

志良堂 泰成

清家 碧斗

曾野 耕世

高木 伊織

高丸 修一

竹内 寛斗

立花 柊樹

田中 大成

タペレ タイヨウ

大東 遥輝

年川 航平

當波 孝明

内藤 大貴

中川 諒太郎

中島 豪己

中谷 颯人

中村 裕希

夏目 悠吏

成澤 直輝

西原 空良

二ノ宮 健来

野村 俊介

橋爪 由道

橋本 涼太

蓮見 歩太

花形 優斗

濱田 元介

稗苗 清之輔

廣江 航大

福嶋 潤

二木 宥樹

堀内 大生

松井 和葉

松井 行泰

松尾 直哉

松坂 由宇

水口 祐汰

水野 航太

水野 将大

三関 隆太

南澤 航

宮尾 遥斗

宮嶋 溪太

宮永 詩子

村田 佳穂

村野 響

村松 瑞基

森下 実波

柳沼	浩大	伊丹	雄祐	吉田	翔真	黒坂	智也	皆川	凌太朗	岩崎	維斗
矢嶋	海斗	井土	貴斗	磯部	怜大	小杉	駿斗	宮越	雅宗	遠藤	祐介
矢島	聖成	伊藤	翔大	白鞘	蒼之	齋藤	裕一	米田	堯広	扇割	大晴
安澤	幸輔	井上	諒太	田口	穂乃佳	坂	風樹	守屋	元貴	大西	徹門
山内	達朗	宇佐美	圭太	宮本	翔渡	佐藤	優作	山口	泰	大星	直也
山浦	泰知	小幡	隼斗	他 2 名		柴草	涼太	山下	嘉幾	岡部	志保
山田	隼大	片山	憲	機械システム		神野	泰輝	山田	恭介	沖	快生
山名	岬陽	川上	将生	工学科		杉立	翼	山本	歩夢	日下	博瑛
山本	裕太	神田	貴大	101名		鈴木	雄翔	吉岡	優太	小池	太一
横山	健竜	岸田	慎司	大桢	亘	清	拓史	MI		河野	菖太
吉川	晃生	草間	大輝	本郷	棟大	SONG		BOGUANG		齋藤	士琉
吉川	雅輝	楠戸	暁	石丸	智大	ZHIQIAN		林	靖星	清水	莉都
米倉	悠貴	國本	雄介	中村	亮太	高井	峻	渡辺	泉	清水	蓮
渡邊	快斗	久保	慧	小中	龍之介	高田	泰成	吉田	詩子	杉	奏汰
渡邊	雄大	NGUYEN THI		瀧澤	駿	竹田	智晃	浦城	仁	須田	峻哉
秋葉	祐二	HONG HUONG		町谷	優二郎	武田	知樹	齋藤	瑞樹	高橋	航
川坂	彬真	才田	格ノ介	相場	一広	田所	卓	坂井	透	館柳	光佑
郡司	賢史朗	笹岡	侑未	青木	伸也	田村	玄汰	竹内	美音	前田	育真
小柳	太一	柴田	直弥	安達	健人	天願	海斗	立野	真勇弥	中尾	啓太
武田	一磨	清水	風佐	安達	壮太郎	中川	裕生	田中	裕太郎	中村	光一
中島	陽紀	庄司	望	磯貝	駿	中原	元氣	田中	龍晟	中山	凜
成澤	瑠佳	菖蒲	陸	磯山	遼	中村	優一	永澤	瑠	新美	はるか
花岡	四季	杉山	智音	井上	博輝	中村	優花	年代	朋生	林	悠雅
原山	寛都	鈴木	璃子	井端	乱馬	中山	爽	原	颯杜	廣川	晃大
涌井	僚	角谷	拓海	岩永	真弥	永井	大晟	村上	達哉	藤川	勇作
渡邊	航	田中	輝	上田	朝陽	西澤	凌太	村東	知征	藤村	咲良
他 7 名		玉代勢	翔也	牛尾	進太郎	西島	凜太郎	他 2 名		三浦	良太
水環境・土木		堤	大地	梅澤	英弥	野村	仁	建築学科		宮崎	郁巳
工学科		西野	竜介	卜部	峰人	幡野	秀斗	55名		森川	駿也
60名		西村	慶喜	海老原	光	濱滝	隆之介	西住	颯太	森垣	颯太
天田	勇作	丹羽	由樹	小笠原	朋紀	濱地	駿作	鈴木	海都	柳町	一輝
田中	景	早木	美流	小野	和輝	林	泰成	堀江	泰輔	弓削	真之介
濱浦	千歩	廣瀬	翔吾	加賀谷	佳輝	平塚	直希	三宅	航平	渡邊	好貴
平野	舞	藤長	大佑	葛西	陽喜	布施	和真	三輪	祐介	和田	一樹
魚谷	侑生	藤山	裕大	片桐	拓哉	降旗	拓斗	青木	健祐	山田	洋介
瀧澤	亮輔	松崎	心	加藤	溪太	星野	大地	安西	葵	岡田	枝里香
赤須	誠也	三浦	日茉莉	加藤	誓太郎	堀江	陸	阿久津	旭	杉山	隼斗
浅木	広大	赤尾	敦翔	金川	朋暉	松井	一馬	安部	未咲希	田畑	奎人
蟻川	喬生	村上	颯汰	川上	遼	松井	孝樹	池本	美優	六車	駿介
飯田	紫乃	森井	公基	菊地	哲平	松尾	一馬	石島	大	他 3 名	
五十嵐	誠	森山	太喜	木村	俊貴	水上	健吾	石原	大雅		
石井	敏輝	山本	拓斗	栗林	祐介	水野	友揮	入江	勝也		

※卒業生合計数 475 名（内 18 名個人情報提供拒否）

物質化学分野

55名

岩村 洋人
辻 佑樹
相澤 李沙
庵 美奈
稲野 寛太
犬塚 寛人
今井 駿
大槻 丈碩
小木曾 寿樹
柏崎 真瑠
加藤 颯
河合 琢也
川口 健太
河辺 奈津実
喜多 勇斗
小林 寛太
小林 統哉
小松 謙仁
小松 弘人
紺戸 大嵩
合田 風里
齋藤 大輝
澤田 大基
塩川 亮太
末永 大貴
菅澤 響己
杉山 祐輔
相馬 志直
高野 鉄平
高橋 季暉
田房 昇真
土田 洋之
角田 健輔
俊成 勇紀
富田 拓実
中島 溪吾
中瀬 勝則
仲田 蒼
中村 友紀
長江 弥生
長津 亮平
伴 知亜子

藤崎 龍

細川 由美子
蒔田 帆乃香
正井 尚輝
増山 和樹
町田 昂平
水上 智哉
三宅 陽介
村木 佑宇
矢川 小春

LIM DANIEL
JOSEPH

渡邊 勝
和田 裕誠
電子情報システム
工学分野

79名

加藤 叡
福本 康匡
狩野 楓
CHEN BOJUN
渥美 里菜
新井 風
市川 響平
市川 壮太郎
岩瀬 隆志
遠藤 農
大槻 優貴
大戸 枉之介
岡村 光恭
生越 令華
小田 雅史
加々美 朱羽
笠井 裕貴
金谷 孝紀
川田 奈波
河野 翔
神田 悠作
北沢 孝樹
北原 広大
桐生 仁司
久保 秀斗
倉崎 智哉
小坂 一友

小林 和輝

五島 光祥
齊藤 亮介
佐藤 奏杜
城宝 央考
末永 健一郎
杉山 翔哉
鈴木 翔太
園田 継一郎
高野 亮
武田 敏幸
田中 秀和
田村 圭伍
佃 充宏
仲林 司
西澤 勇利
西島 和哉
沼田 陸
萩本 雄規
平井 雅人
平岡 廉
福井 勇希
古田 泰志
古野 憲紀
前 佑一郎
前坂 洋樹
松岡 佑恭
松永 温加
丸山 凌凱
三浦 朋己
三重野 武彦
宮本 和記
向田 一成
村岡 知勇
村上 拓也
望月 順平
両角 光一
山邊 璃久
山本 直輝
横山 哲也
吉川 僚哉
芳澤 祐大

他 10名

水環境・土木

工学分野

14名

井上 駿
大山 修平
JIA
CHUANYAN
河上 栞奈
川端 優太
河村 晃輝
小池 悠
櫻井 大空
佐藤 璃空
中山 朋亮
難波 晃大
野崎 裕也
望月 優介

他 1名

機械システム

工学分野

87名

ZHU JIN
荒木 貫汰
井口 大地
五十嶋 洸人
岩崎 拓也
宇佐美 太一
梅垣 眞理
江口 湧真
遠藤 円
大井上 巧
大嶋 一平
大高 峻
大竹 香葉
大塚 航汰
大原 奨平
奥田 貴斗
小熊 寿弥
尾関 研志朗
落合 歩
片桐 旬弥
金海 裕洋
金田 一希
川上 航平

川上 嵩仁

川浪 進史
川村 健太
木村 晃樹
葛尾 京介
高坂 直希
児玉 創磨
小林 隼汰
齋藤 祥真
齋藤 千隼
逆瀬川 潤也
櫻井 洋輔
笹倉 涼也
嶋崎 郁
杉浦 翔太
鈴木 嵩人
關口 大暉
関谷 光之
高木 昇太
高野 敦史
高橋 駿介
田川 陸
田中 進

ZHANG
HAITANG

千葉 康太
津川 尚斗
辻村 公孝
寺川 航平
富田 航
土居 健志
堂本 公平
中澤 佳太郎
中田 政宗
中村 浩也
西田 周平
西分 久弘
野崎 恭斗
林 良和
速水 祐
原崎 太希
平沢 一真
平林 直人
深澤 匠

藤井 亮祐

藤原 俊史
古市 雄太
増田 翔太
松下 太一
松本 葵
松本 雄大
松本 洋平
宮尾 智博
宮島 泰輝
村多 桂明
村松 直樹
室賀 理孔
毛利 仁
森井 涼太
山崎 隆広
横川 友也
吉嶋 大貴

他 3名

建築学分野

50名

ZHANG
MINGHAO
東 礼華
兼森 洸樹
酒井 康年
杉山 翔太
秋山 昌輝
磯部 聖太
伊藤 雄大
今村 弘子
大島 宏輝
太田 修平
岡田 哉太
小野寺 世儒
金久保 絃介
蟹澤 春樹
木村 勇貴
KHOO RUI
JING
工藤 理美
久保田 健斗
今野 琢音
酒向 正都

篠田 恭椰	田中 優衣	畠山 紗英	HWANG JAEUNG	古橋 海渡	脇 悠太
杉浦 虎太郎	多富 一斗	花岡 大樹	藤世 すばる	宮西 夏里武	他 3 名
鈴木 悠	辻 健斗	早田 拓未	藤原 未来	森 星斗	
銭谷 脩	中村 雄大	原田 裕成	布野 稜芽	森田 渡	
高松 祐希	西本 昌平	日浦 遼介	降幡 昇	山本 陸人	

信州大学大学院総合理工学研究科 生命医工学専攻 修士課程修了生（敬称略）

生命工学分野	猪又 俊輔	住田 和弥	西 良典	矢田 江里奈
13名	岡江 良悟	SUN YIYANG	蓮池 祐紀	薮内 裕亮
網島 健太	佐々木 大地	土屋 建登	溝脇 朱音	他 1 名

※修了者合計数 298 名（内 18 名個人情報提供拒否）

信州大学大学院総合医理工学研究科 博士課程修了生（敬称略）

総合理工学	PERALTA	堀内 学	上條 由人	生命医工学
専攻	MIRANDA LUIS	小成 佳史	他 1 名	専攻
田村 諭	ANTONIO	CHEN YINLING		中内 宙弥

※修了者合計数 8 名（内 1 名個人情報提供拒否）

2022 年度卒業生就職先企業

会社名	学科名	物質		電子情報		水・土木		システム機械		建築		生命医工		企業別合計
		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
(株) R-DEPOT						1								1
愛三工業 (株)								1						1
(株) アイシン				1	1			1						3
(株) アイシン福井								1						1
愛知県						2								2
愛知県 豊川市						1								1
愛知県 名古屋市						2								2
(公財) 愛知水と緑の公社						1								1
(株) アウトソーシングテクノロジー				1										1
(株) 県設計										2				2
秋田県 秋田市										1				1
(株) アグリトライ									1					1
朝日インテック (株)	1							1						2
旭化成リフォーム (株)										1				1
アスザック (株)	1													1
(株) アドヴァンスト・インフォメーション・デザイン				1										1
(株) 有沢製作所			1											1
(株) アルプス技研			1											1
(株) イー・エム・シージャパン			1											1
市光工業 (株)			1											1
(株) 一条工務店									2					2
(同) 伊藤維建築設計事務所										1				1
イビデン (株)		1	1											2
インフォテックソリューション (株)			1											1
(株) エアウィーヴ											1			1
EIZO (株)				1										1
SCSK Minoriソリューションズ (株)			1	1										2
NEC通信システム (株)				1										1
NTN (株)								1						1
NTTコミュニケーションズ (株)				1										1
NTTコムウェア (株)				1										1
(株) NTTデータグローバル・サービス	1													1
(株) NTTデータ信越				1										1
(株) NTTファシリティーズ										1				1
エプソンアヴァシス (株)			2	2										4
(株) MTG		1												1
オークマ (株)								1						1
大阪市高速電気軌道 (株)				1										1
(一財) 太田市行政管理公社			1											1
(株) 大林組										2				2
沖電気工業 (株)			1											1
(株) 奥村組					1									1
(株) オリエンタルコンサルタンツグローバル										1				1
オリオン機械 (株)								1						1
鹿島建設 (株)										1				1
榎山工業 (株)			1											1
神奈川県					1									1
(有) かわかみ建築設計室										2				2
川崎重工業 (株)				1			1	2						4
川重岐阜エンジニアリング (株)								1						1
関西電力 (株)								1						1
キオクシア (株)		3		4								1		8

会社名	学科名	物質		電子情報		水・土木		システム機械		建築		生命医工		企業別合計
		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
(株) 技研製作所												1		1
岐セン (株)		1												1
(株) キトー								1						1
岐阜県 大垣市						1								1
京セラ (株)		4		1				1						6
(株) クボタ								1	2	2				5
(株) 熊谷組											1			1
クミアイ化学工業 (株)		1												1
倉敷紡績 (株)												1		1
(宗) 慶安寺								1						1
(株) KAP											1			1
(株) KSK				1										1
(株) 建設技術研究所								1						1
(株) 小糸製作所									1					1
(株) KOKUSAI ELECTRIC									1					1
国際計測器 (株)								1						1
国土交通省						4								4
(独) 国立印刷局				1										1
デジタル庁				1										1
CO-NECT (株)				1										1
小松マテレー (株)	1													1
五洋建設 (株)						1								1
サクラ精機 (株)												1		1
三栄源エフ・エフ・アイ (株)		1												1
(株) 三栄建築設計										1				1
三建設備工業 (株)											1			1
(株) GSユアサ		1												1
シーケー金属 (株)								1						1
JR東日本コンサルタンツ (株)								1						1
(株) ジェーエステック						1								1
(株) JERA								1			1			2
静岡県	1		1		1						1			4
(株) システムサポート			1											1
シナノケンシ (株)				1					1					2
(株) SHIFT			1											1
(株) 島津製作所									1					1
清水建設 (株)						1								1
シャープ (株)				1					1					2
ジャトコ (株)									1					1
(一財) 食品分析開発センター SUNATEC												1		1
信越化学工業 (株)		1												1
(株) 信光社				1										1
新光電気工業 (株)	3	10	1	2				2	4			2		24
(株) SCREENホールディングス				1										1
スズキ (株)			1						3					4
(株) 鈴木								1						1
(株) スタッフサービスエンジニアリング			1											1
(株) SUBARU									1					1
住友金属鉱山 (株)		1												1
住友重機械工業 (株)									1					1
住友電気工業 (株)									2					2
住友電装 (株)		1												1

会社名	学科名	物質		電子情報		水・土木		機械システム		建築		生命医工		企業別合計
		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
住友林業（株）										2				2
セイコーエプソン（株）		1	6	7				7						21
生和コーポレーション（株）										1				1
積水ハウス（株）										1				1
（株）銭高組										1				1
（株）綜企画設計										1				1
ソーセミコンダクタソリューションズ（株）				2										2
（株）ソフトクリエイティブホールディングス			1											1
ソフトバンク（株）				1										1
SOLIZE（株）								1						1
（株）第一テクノ						1								1
ダイキン工業（株）								2						2
（株）大建設計										1				1
大成建設（株）				1						1				2
大日本土木（株）									1					1
（株）ダイフク								3						3
大明化学工業（株）		1												1
ダイヤモンドヘッド（株）								1						1
大陽日酸（株）		1												1
太陽誘電（株）								1						1
大和ハウス工業（株）										2				2
（株）竹内製作所								1						1
（株）竹中工務店										1				1
多摩川精機（株）				1										1
千葉県 教員	1													1
中部電力（株）			1					1						2
中部電力パワーグリッド（株）								1						1
中部電力ミライズ（株）								1						1
千代田化工建設（株）								1						1
都築電気（株）				1										1
TDK（株）		1												1
テガミスタジオ					1									1
（株）テツゲン								1						1
鉄建建設（株）										1				1
（株）テレビ東京				1										1
デロイト・トーマツ				1										1
電源開発（株）								1						1
（株）デンソー				1										1
デンソーテクノ（株）			1					1						2
Tianma Japan（株）				1										1
東海旅客鉄道（株）					1									1
東急建設（株）					1					1				2
東京エレクトロン（株）				1				1						2
東京ガスネットワーク（株）										1				1
東京都					2									2
東芝エネルギーシステムズ（株）								1						1
東洋電機製造（株）								1						1
東洋紡（株）						1								1
東レエンジニアリング（株）								1						1
DOWAホールディングス（株）		1												1
（株）トクヤマ		1												1
戸田建設（株）										1				1
鳥取県 鳥取市	1													1
トプコン（株）								1						1
富山県			1		1					1				3
富山県 富山市		1												1

会社名	学科名	物質		電子情報		水・土木		機械システム		建築		生命医工		企業別合計
		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	
（株）トヨタシステムズ				1										1
トヨタ自動車（株）		1							1					2
トヨタ自動車北海道（株）								1						1
トヨタ車体（株）				1				1						2
トヨタ情報システム愛知（株）			1											1
トライス（株）	1													1
中日本高速道路（株）						1	2				1			4
長野県	1					2			1					4
長野県 上田市			1											1
長野県 長野市								1						1
長野県 松本市											1			1
（株）長野県共同電算			1											1
長野電子工業（株）							1							1
長野日本無線（株）								1						1
（株）仲本工業						1								1
西日本高速道路（株）						3	1							4
西日本旅客鉄道（株）									1		1			2
西松建設（株）						1								1
日亜化学工業（株）									2					2
ニチコン（株）		1												1
日油（株）		1												1
日揮（株）											1			1
（株）日新システムズ			1											1
日新電機（株）									1					1
日清紡ブレーキ（株）									1					1
日精・エー・エス・ビー（株）									1					1
ニッセイ情報テクノロジー（株）				1										1
日星電気（株）	2													2
日鉄興和不動産（株）											1			1
日東電工（株）		1												1
日本軽金属（株）									1					1
日本シビックコンサルタント（株）						1								1
日本電気（株）				2										2
日本電気硝子（株）		1												1
日本電信電話（株）				1										1
日本発条（株）									1					1
（株）ニトリホールディングス				1										1
日本IBM（株）		1												1
日本信号（株）									1					1
（一財）日本品質保証機構									1					1
野村不動産（株）											1			1
パールプロセス&テクノロジー（株）			1											1
パーバス（株）			1											1
（株）長谷工コーポレーション										1				1
八十ニシステム開発（株）			1											1
パナソニック（株）				1										1
パナソニックエナジー（株）	3													3
PwCコンサルティング（同）									1					1
（株）ビーネックスソリューションズ				1										1
（株）ビーネックテクノロジーーズ								1						1
日置電機（株）				2										2
東日本旅客鉄道（株）						2			1					3
日立astemo（株）				1										1
（株）日立製作所			1	1										2
日立造船（株）		1				1		1						3
日野自動車（株）								1						1

会社名	学科名	物質		電子情報		水・土木		システム機械		建築		生命医工	企業別合計
		学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	学部	大学院	大学院	
(株) フォレストコーポレーション		1											1
(株) フジタ						1							1
富士通 (株)				1									1
(株) 富士通エフサス				1									1
富士電機 (株)		1		1				2					4
ブライムアースEVエナジー (株)								1					1
プリオンホールディングス (株)				1									1
古河電気工業 (株)						1		1					2
(株) 平成建設										1			1
ホーチキ (株)										1			1
北陸電力 (株)								1					1
ボラス (株)										1	1		2
本田技研工業 (株)				3				1					4
(株) マイクロテック				1									1
前田建設工業 (株)										1			1
(株) マキタ				2									2
(株) マサル		1											1
三重県 伊賀市						1							1
三井金属鉱業 (株)		1											1
三井住友建設 (株)										1			1
三菱化工機械 (株)								1					1
三菱自動車工業 (株)				1				1					2
三菱電機 (株)		1		3				1		1			6
三菱電機インフォメーションシステムズ(株)				1				1					2
三菱電機ソフトウェア(株)								1					1
三菱UFJトラストシステム(株)		1											1
ミネベアミツミ (株)		1						1					2
(株) ミマキエンジニアリング				1									1
(株) 村田製作所		1		1									2
メタウォーター (株)						1							1
(株) メビウス				1									1
(株) 本久						1							1
(株) MonotaRO				1									1
(株) 森本組						1							1
ヤフー (株)				1									1
(株) ヤマウラ										1			1
(株) 山下設計										1			1
山梨県				1									1
ヤマハ発動機 (株)								1					1
(株) ユーエス計画研究所										1			1
養命酒製造 (株)											1		1
理想科学工業 (株)				1									1
(株) 類設計室										1			1
ルネサスエレクトロニクス(株)				1									1
レンゴー (株)											1		1
(株) ワークスゼロ										1			1
(株) ワールドインテック		1						1					2
YKK (株)								2					2
家業・その他		2	2	6	11	2	1	3	4	5	7	1	44
合計		19	54	55	78	40	14	27	87	19	50	11	454

【訂正とお詫び】

若里71号（2022年12月発行）の「2021年度卒業生就職先企業」一覧にて掲載企業名に誤りがございました。

下記の通り訂正させていただきます。関係各位へ謹んでお詫び申し上げます。

（P.50掲載） 誤：Savsan(株) → 正：Sansan(株)

2023年度新入生県別入学者数

学 科 \ 都道府県	北海道	青森	岩手	宮城	山形	秋田	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京
物質化学科	3	1	1	2	0	2	1	4	4	1	5	5	4
電子情報システム工学科	4	0	1	3	0	4	3	4	1	3	7	6	6
水環境・土木工学科	1	1	1	1	0	0	0	1	1	0	2	2	6
機械システム工学科	5	0	1	1	0	0	0	2	1	0	9	6	5
建築学科	9	0	1	2	1	0	1	2	3	3	2	1	0
計	22	2	5	9	1	6	5	13	10	7	25	20	21

学 科 \ 都道府県	神奈川	新潟	富山	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都
物質化学科	3	3	4	3	2	1	14	2	3	12	3	1	4
電子情報システム工学科	4	3	8	1	2	9	51	8	11	17	2	0	3
水環境・土木工学科	1	1	1	0	1	3	7	2	8	7	1	1	4
機械システム工学科	2	4	4	1	2	2	16	3	10	6	0	2	6
建築学科	0	3	2	2	2	2	8	1	2	8	0	0	1
計	10	14	19	7	9	17	96	16	34	50	6	4	18

学 科 \ 都道府県	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知
物質化学科	2	1	0	1	1	0	0	0	0	0	1	1	0
電子情報システム工学科	5	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
水環境・土木工学科	1	3	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
機械システム工学科	3	5	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0
建築学科	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	1
計	11	10	3	2	2	0	2	2	1	1	1	2	1

学 科 \ 都道府県	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	海外	計
物質化学科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	96
電子情報システム工学科	0	0	0	0	0	0	0	2	4	176
水環境・土木工学科	1	0	0	0	0	0	0	0	1	61
機械システム工学科	1	0	0	1	0	0	0	1	0	102
建築学科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	61
計	2	0	0	1	0	0	0	3	6	496

※新入学生合計数 496 名（0 名個人情報提供否）

会員のみなさまへ

◆学部内異動 (2022年度)

信州大学退職教員 (敬称略)

[定年退職]

山本 博章 電子情報システム工学科 教授
鈴木 孝臣 物質化学科 准教授
河邊 淳 工学基礎部門 教授

深田 茂生 機械システム工学科 教授
曹 西 水環境・土木工学科 助教
榮岩 哲二 工学基礎部門 准教授

[退職]

奥谷 智裕 電子情報システム工学科 助教

◆事務局より

●2024度信州大学工学部同窓会 《総会・懇親会》開催について

2024年5月25日(土)開催です。

詳細は、本誌表紙裏ページをご覧ください。多数の皆さまのご出席をお待ちしております。

●信州大学工学部創立記念事業基金への ご協力をお願いいたします

本誌綴込みの払込票(創立記念事業基金専用)をご利用の上、郵便局にてご納入ください。

※本誌綴込みの払込票は、会費納入用ではありません。

創立記念事業基金会計 収支報告

(2022年9月1日～2023年8月31日)

(単位:円)

繰越金	3,285,621	
収入	617,027	寄付金、預金利息
支出	3,207	納入手数料
残高	3,899,441	

●同級会、研究室OB・OG会開催支援について

同窓生の交流支援を目的とし、同級会等を開催される際にわずかながらの補助金を支給させていただきます。詳細は事務局へお問合せください。

(2022.9月～2023.8月開催支援先)

- 丹野研46期生(通信S47卒)
- 機械工学科S56卒同級会
- 有機合成化学研究室精密合成化学講座同窓会(S59卒)

●「技報 こまくさ」21号をお届けします

「技報 こまくさ」は、一般財団法人信州大学工学部若里会発行の技術情報誌です。若里会研究助成受領者による「研究助成報告」、工学部教員による「研究室紹介」を掲載しています。長野県内の工業系企業等へお届けしています。

申込方法 会員で希望される方は、冊子代・送料無料で送付いたします。事務局へ「氏名・送付先住所・TEL・部数」をお伝えください。

◇信州大学工学部創立記念事業基金へご協力いただいた皆さま (2022.9月～2023.8月受付分) ◇

[正会員] (敬称略)

吉野 三郎 (機械S22)
今野 謙 (通信S28)
齋藤 精一 (通信S30)
三代澤 敏郎 (電気S36)
森村 洸 (機械S38)
清水 幸 (電気S40)

玉城 恵一
篠塚 嗣雄
清水 保雄
大矢 博
小川 学
南 秀明
川村 忠弘

(電気S42)
(機械S42)
(機械S45)
(通信S46)
(土木S55)
(電子S57)
(機械S60)

鈴木 雅文 (土木S61)
鈴木 健 (電子H1)
三枝 増之 (生産H6)
上垣 大樹 (情報H15)
小林 徹也 (機シH21)

ご協力ありがとうございました。

●変更届のお願い

自宅住所・住居表示・勤務先、その他ご登録内容に変更が生じましたら事務局へご連絡ください。
同窓会HPの「住所等変更届」専用フォームをご利用ください。

●個人情報保護法施行に伴う対応について

事務局では、保護法を遵守し、名簿の管理・取り扱いにおいては十分に配慮しております。ご理解とご協力をお願い申し上げます。

同窓会誌「若里」への投稿をお待ちしております

「同窓生寄稿」ページでは、会員の皆さまからの投稿記事を掲載しています。

原稿について

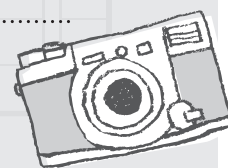
- *最大1ページ、本文の文字数約1,700字。図表・写真等の挿入可。タイトルをつけてください。
- *原稿は手書きまたはパソコン、挿入図表・写真は紙焼きまたはデータ、どちらでも結構です。紙焼き写真等はご返却します。

送付先

- *メールまたは郵便で、工学部同窓会事務局へお送りください。
kdoso@wakasatokai.jp
〒380-8553 長野市若里4-17-1 SASTec2F 信州大学工学部同窓会事務局 宛

原稿締切日

- *次号（73号）の原稿締切日は、2024年8月31日です。



信州大学工学部同窓会 事務局

月～金（平日）10:00～16:00

〒380-8553 長野市若里4-17-1

信州大学工学部内 信州科学技術総合振興センター（SASTec）2F

TEL/FAX: (026)266-8209

E-mail: kdoso@wakasatokai.jp

<https://www.wakasatokai.jp/>

信州大学工学部創立60周年記念誌

発行者 信州大学工学部・信州大学工学部同窓会【平成22年(2010)発行】

信州大学工学部は、令和元年（2019）に創立70周年を迎えました。

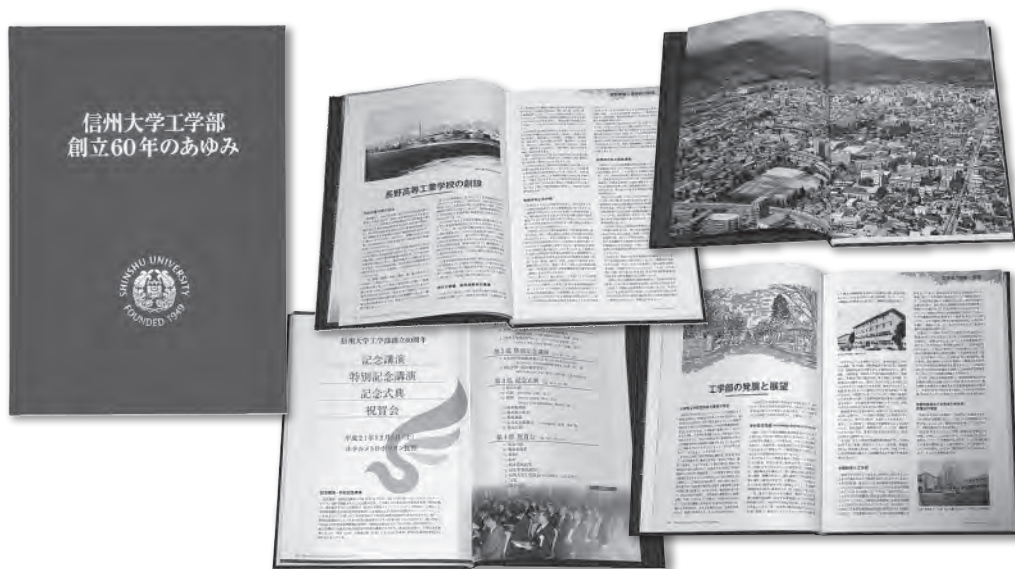
本誌は、それに先立ち工学部創立60周年記念事業として2年の歳月をかけ編纂された記念誌「信州大学工学部創立60年のあゆみ」です。昭和18年に長野高等工業学校を母体として誕生し、昭和24年の新制大学認可を機に発足した信州大学工学部は、幾つかの困難な時期を乗り越え大きく発展してまいりました。記念誌では、工学部発展の歴史や現状に関する記事、関係諸氏からの寄稿文や思い出深い貴重な写真の数々が掲載されています。若里キャンパスで青春を過ごされた同窓諸兄、教育研究に情熱を傾けられた先輩教職員諸氏、工学部と関係の深い大勢の方々の姿を彷彿とさせます。本誌は、工学部と同窓会が一致協力して本格的に編纂した初めてのものであり、工学部の60余年の歴史を学び、これを礎としてさらに将来の大きな発展に資する貴重な資料でもあります。

『信州大学工学部創立60年のあゆみ』

頒価：4,000円（別途・送料520円）

* クロス張り上製本・A4判・290ページ

* 記念誌にふさわしい記事が往時の白黒写真を除きすべてカラー印刷されています



【購入申込み・問合せ先】

氏名・送付先・電話番号・購入冊数を明記の上、下記よりお申込みください。

信州大学工学部同窓会 〒380-8553 長野市若里4-17-1

ホームページお問合せフォーム <https://wakasatokai.jp/>

TEL・FAX 026-266-8209



お受取り後に同封の振込用紙にて冊子代・送料をお支払いください

大学史資料センターから資料収集へのご協力をお願い

日頃から信州大学の教育研究・地域貢献活動にご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。
信州大学では本学の歴史を明らかにして将来に伝承するため、2017年4月1日から「信州大学 大学史資料センター」を設置し、散逸が危惧される本学に関する資料の収集・整理・保存を進めております。

工学部の教職員、卒業生の皆さまからは、約1200点の資料をご寄贈いただいております。引き続き、信州大学の歴史に関する文書、写真、記念品などの資料の提供について、お力添えをお願い申し上げます。お手持ちの資料をご提供いただけます方は、ぜひ情報を大学史資料センターにお寄せください。

○ご提供いただきたい資料について

- ・合格通知書、学生証、賞状、卒業証書
- ・卒業アルバム、スナップ写真
- ・広報誌、大学祭のパンフレット
- ・旗、徽章、記念品
- ・クラブやサークルの活動記録、発行物
- ・教科書（書き込みのあるもの）、ノート
- ・野尻湖等の発掘調査（参加）に関する資料
- ・矢澤米三郎に関する資料
- ・「SUNS」信州大学画像ネットワークシステムに関する資料、「美ヶ原鉄塔群」の画像
- ・山岳研究に関する資料
- ・学生運動に関する資料
- など、信州大学に関するもの全般

○ご提供いただいた資料の活用について

大学史資料センターでは皆さまからご寄贈いただきました資料を活用し、企画展を毎年開催しております。現在、Webサイトにてこれまでの展示を公開しております。今後も収集した資料を活かして、大学史に関連する展示を行う予定です。さらに100年史編纂の資料として、また自校史教育の教材として、学生の教育にも活用する方法を検討したいと考えております。ご提供いただきました資料は、適切に整理・保存を行ってまいります。ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

○お問合せ・連絡先

信州大学 大学史資料センター 〒390-8621 松本市旭3-1-1
TEL：0263-37-3531 FAX：0263-37-3532
電子メール archives@shinshu-u.ac.jp
業務日時：月～金 9：00-16：00

※ 信州大学 大学史資料センターのWebサイト（下記URL・QRコード）もご覧ください。

<https://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/archives/>



編集後記

新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行となり、久しぶりに国際会議のため海外出張で、5月にカナダのケベック・シティを訪問しました。カナダで最も古い歴史を持ち、城壁や景色が世界遺産として認定されている美しい都市での開催であり、海外の研究者とも久しぶりに会って、刺激を受けて帰ってきました。しかし、円安と燃料費の高騰で、航空運賃が高くてびっくりしました。一方で、ロシアのウクライナへの軍事侵攻が沈静化の気配もなく、パレスチナ・イスラエルを巡る情勢が険しくなり、世界情勢がきな臭くなってきました。

ところで、学部の近況に和崎先生や是津先生にご寄稿いただきましたように、令和6年度に総合理工学研究科工学専攻（つまり修士課程）の改組や地域活性化人材育成事業SPARCの採択されました。ここ数年、本学部をはじめ、大学を取り巻く環境が大きく変わろうとしているのが、学内にいても肌で感じます。

私事ながらこの夏に還暦を迎え、2月には善光寺で厄除けをしてきましたが、世の中がより良い方向に向かうことを祈るばかりです。

（榊 和彦／編集委員長／機械システム工学科・教授）

今年の夏は非常に暑いです。9月に入りましても、最大気温が30度以上の暑さが続いています。例年ですとお盆を過ぎる頃には夕方には涼しくなり、鈴虫やコオロギの鳴き声から夏の終わりが近づきつつあることを感じるのが常でした。しかし今年はいつもと様子が違います。最高気温が35度程度の猛暑日が連日続き、夕方になっても気温は下がることなく連日の熱帯夜でした。暑さから飯綱高原や戸隠高原に頻繁に行きましたが多くの人で賑わっており、自然と涼を満喫しているようでした。

（村松 寛之／編集委員／水環境・土木工学科・准教授）

この編集後記は、この所毎年、コロナ関連の話題を書いていました。今年はいよいよコロナ明け、コロナ以外の話題も、とも思ったのですが、やはりコロナ関連の話になります。

私事ですが、今年の正月にコロナに感染しました。まあ、流行遅れも甚だしいのですが。その時点ではワクチンを5回接種していたためか、かなり軽症で済み、また、時期もちょうど正月休み後半で、仕事の休みも最小限と言う運の良いタイミングでした。

コロナが明けたといっても無くなったわけではありませんし、インフルエンザやその他の感染症も流行っています。会員の皆様にも、どうぞご自愛ください。

（清水 茂／編集委員／工学部就職支援担当・特任教授）

今年の光芒祭（工学部の学園祭）は、新型コロナウイルスの制限がなくなり、模擬店が復活しました。私の研究室は、毎年綿あめ屋さんを出店しておりましたが、今年久しぶりに出店することが出来ました。学園祭に子供たちが来ても楽しめることを目指して出店しています。準備や当日の運営を通して、学生間での連帯感を高めることや、段取りを覚えるなどとても良い経験になったと思います。

同日にOB会を開催しました。現在の4年生が13期生となりますが、1期から11期まですべての学年から1名以上の参加がありました。長野県内外からわざわざ来てくれたことに感謝しています。昔話に花が咲き、あっという間の時間でした。

来年以降も模擬店の出店とOB会の開催ができることを願っています。

（高村 秀紀／編集委員／建築学科・教授）

この若里72号の「同窓生だより」には、物質化学科に改組されてからの最初の入学生（2016年4月入学）である西澤実花さんにご寄稿いただきました。改組はつい最近のことのようにも思っていましたが、もう新学科の卒業生が社会で活躍していることに時が経つ早さを改めて実感しています。また、西澤さんが卒業研究と大学院修士課程での研究を行った錦織・影島研究室の紹介が、この秋に発行されました技報こまくさ21号に掲載されております。こちらは一般財団法人信州大学工学部若里会のwebサイト内で電子書籍として公開^{*}されていますので、あわせてご覧いただければ幸いです。

※URL <https://wakasatokai.jp/member/komakusa21>

（山口 朋浩／編集委員／物質化学科・准教授）

今年度より編集委員を担当することとなりました。これまで「若里」が手元に届いても、ちょっとパラパラと捲り、知った名前を見つけた時だけちょっと立ち読みの気分でした。今回、恩師、卒業生に寄稿を依頼するにあたり、あらためて棚にあった何冊かを開いてみました。恩師の古い話あり、同窓生の活躍ぶりありますが、比較的若い卒業生の寄稿の中に頑張りが表れていて、頼もしく思いました。さて、私が送り出した卒業生の皆さんはどうしているのでしょうか。

（橋本 昌巳／編集委員／電子情報システム工学科・准教授）

工学部環境機能工学科は、2022年度に最後の所属学生1名が卒業し、2023年3月31日をもって閉学科となりました。環境機能工学科は、自然エネルギー・エコマテリアル・有害物質無害化・リサイクルなどの最先端の環境調和型科学技術（エコテクノロジー）の教育・研究を通じて地球環境問題解決に貢献する人材育成を目的として1998年4月に設置されました。また、2002年からは大学院修士課程環境機能工学専攻が設置されました。これまでに環境機能工学科・環境機能工学専攻から1200名に及ぶ卒業・修了生を輩出してきました。卒業・修了生の皆さんは現在、技術者、研究者や公務員、教員として全国各地で活躍されています。

環境機能工学科の閉学科に伴い、信州大学工学部同窓会誌『若里』は本号（第72号）より環境機能工学科の『同窓生だより』が取止めになりました。環境機能工学科・環境機能工学専攻の卒業・修了生の皆さんには引き続き母校の後援および信州大学工学部同窓会諸活動へのご支援をいただき、社会でのご活躍をお祈りします。

（牛 立斌／編集委員／機械システム工学科（兼 環境機能工学科）・准教授）



■ ■ ■ 広告目次

(株)アルプスツール	68
エムケー精工(株)	68
(株) SPI エンジニアリング	69
共立継器(株)	70
サクラ精機(株)	71
(株)竹内製作所	71
多摩川精機(株)	72
長野県信用組合	72
長野電子工業(株)	73
北信土建(株)	73
マイクロストーン(株)	74
LODGE ぴこ	74
弁理士法人綿貫国際特許・商標事務所	75
(株)アイデスク	76

創りたいものをカタチに

ALPS TOOL
That's the way!

工作機械用の工具「ツーリング」と自動棒材供給機「バーフィーダ」の開発・製造・販売

本社 〒389-0601 長野県埴科郡坂城町坂城 10070

☎(0268)82-2511 (代)

HP はこちら▷



あ、こんなことができれば。

エムケー精工は、調理家電から LED 表示機、門型洗車機まで
毎日の生活にいろどりを添える製品を生み出してきました。

あ、こんなことができれば、きっとワクワクする。
あ、こんなことができれば、きっと喜んでもらえる。

「これが欲しかった!」をアイデアで次々に実現するため
日々、モノづくりに励んでいます。

 **エムケー精工株式会社**

【本 社】 〒387-8603 千曲市雨宮 1825

【信濃町工場】 〒389-1313 上水内郡信濃町古間 1618

【坂城工場】 〒389-0601 埴科郡坂城町坂城 9637



見えない場所がある限り
私たちの挑戦は続きます



株式会社 SPI エンジニアリング

<https://www.spieng.com/>

工業用内視鏡の専門メーカーです。



Φ1.8 工業用内視鏡

(第 28 回中小企業優秀新技術・新製品賞受賞)

〈公財〉りそな中小企業振興財団及び日刊工業新聞社主催〉



Φ0.95 工業用内視鏡

(先端カメラ内蔵タイプの世界最細工業用内視鏡)

SPI ENGINEERING

— Simple, Precision and Innovation —

代表取締役社長 原山広一郎 (昭和 60 年電子卒)



・ 求人募集中です。

(電子回路設計者、機構設計者募集)

U ターン大歓迎

〈是非お気軽にお問い合わせください〉

株式会社 SPI エンジニアリング

〒380-0917
長野県 長野市 稲葉南俣 2592-5

TEL: 026-274-5731
FAX: 026-274-5732

E-mail: sales@spieng.com
URL: <https://www.spieng.com>



電気接触の
リーディングカンパニーとして
安全と信頼の永続を目指し
更なる開発、挑戦を続けてまいります

大きく羽根を広げ
大空を飛ぶ鷲のように…



卓越した技術を持って
皆様のお役に立てる
Only One [オンリーワン] 企業として
力強く進んでまいります



車両用補助 継電器類



RL711A-1形
DC100V 10A 4C

瞬時励磁式 電源切換開閉器類



HTS-64SH
AC400V 400A

直流電磁 接触器類



KGD2-1S
DC750V 50A

各種継電器 補助継電器類



電圧継電器 CVS-11H
AC63.5V~220V
DC12V~125V 2C

各種端子台 配線用部材類



接地端子台 KAT-200-1

WashiON

共立継器株式会社

本社工場 〒393-0087 長野県諏訪郡下諏訪町4684番地1
TEL: 0266-27-8910(代) / FAX: 0266-27-7628

会長 宮川 昭二 (昭和24年電卒)

<https://www.washion.co.jp/>

主要生産品目

■電磁接触器関連

電源切換開閉器 鉄道車輛用継電器
直流電磁接触器 各種継電器
補助継電器・パワーリレー

■電動車輛関連

直流電磁接触器
バッテリーゲージ
充電ステーション

緊急停止用スイッチ
充電コネクター
直流モータコントローラ

■その他

端子台 手動負荷開閉器
電子応用関連機器
再生可能エネルギー関連機器

千曲工場 〒389-0812 長野県千曲市大字羽尾100番地
TEL: 026-276-5000(代) / FAX: 026-276-5003

東京営業所 〒110-0016 東京都台東区台東1丁目12-10
TEL: 03-3834-9722(代) / FAX: 03-5817-0282

大阪営業所 〒530-0041 大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-19
天神橋萬マンション2F
TEL: 06-6353-0221(代) / FAX: 06-6351-1288

名古屋営業所 〒486-0817 愛知県春日井市東野町10丁目1番地28
TEL: 0568-82-4271(代) / FAX: 0568-82-4276

仙台営業所 〒981-3103 宮城県仙台市泉区山の寺2丁目22-23
TEL: 022-773-5861(代) / FAX: 022-773-5862

鳥栖営業所 〒841-0056 佐賀県鳥栖市蔵上3丁目105
オフィスバレー鳥栖1 6号室
TEL: 0942-83-0564(代) / FAX: 0942-83-0264

SAKURA

洗浄・滅菌・病理細胞診分野の
リーディングカンパニーとして
SAKURAは、価値ある製品と技術を
世界のお客さまに提供いたします。



自動ガラス封入装置「フィルム」&自動染色装置
「プリズマ プラス」



大型高圧蒸気滅菌装置
「クレリアVSCV-AM」



サクラ精機株式会社

長野本社：長野県千曲市大字鋳物師屋75-5 TEL.026-272-2381 (代)
長野本社工場/長野千曲工場/長野八幡工場/長野屋代工場/教育センター
東京本社：東京都中央区新川1-25-12 新川フロンティアビル

<http://www.sakurajp.com/>

世界初から世界のTAKEUCHIへ。

TAKEUCHI

世界で初めてミニショベル、クローラーローダーを開発したTAKEUCHIは、
今や世界の建設現場では共通用語になっている。
他に類のない独創性や斬新な技術力は、世界で圧倒的シェアと全幅の信頼を獲得。
TAKEUCHIは地球の未来を守り、さらなる進化を続ける。



株式会社 **竹内製作所**

〒389-0605 長野県埴科郡坂城町上平205 TEL.0268-81-1100 FAX.0268-81-1127 <http://www.takeuchi-mfg.co.jp/>

飽くなき技術開発で地域の産業振興を目指す

Motortronics®
モータロニクス

低燃費自動車搭載用回転角度センサ
Singlsyn®
[シングルシン]

当社は創業以来「動かす／設計する／制御する」といった位置・角度制御技術を追求し続け、2次元の位置・角度センサ、3次元空間での角度・角速度等のセンサ・制御装置を開発する世界でも数少ない企業です。

当社製品は航空機、人工衛星、鉄道、自動車、ロボットなど将来性のある幅広い分野で活躍しています。



Tamagawa 地球にやさしく、人にやさしい技術
多摩川精機株式会社

■本社・第1事業所／長野県飯田市大休1879 ■第2事業所／長野県飯田市毛賀1020 ■第3事業所／長野県下伊那郡松川町元大島3174-22
■八戸事業所／青森県八戸市北インター工業団地1丁目3番47号 ●お問い合わせ／TEL (0265)-21-1811

<http://www.tamagawa-seiki.co.jp>

ローン
仮審査申込

インターネット
バンキング

スマホ通帳

クラウド
ファンディング

スマホ専用アプリ

スマホ窓口

**驚きの
使いやすさ!**

**どなたでも
ダウンロード
無料**

ダウンロードQRコード

Apple

Google

普通預金の入出金・お取引内容・残高をスマートフォンで確認できます。

スマートフォンの画面上に通帳を再現。

通帳に愛称がつけられます。

記帳するボタンを押すと、最新の取引内容が記帳されます。

残高が表示されます。メモを入力することができます。

けんしん BANK



**The possible
will be forever**

ShinEtsu Group
長野電子工業株式会社
〒387-8555 千曲市屋代1393 TEL026-261-3100(代) FAX026-261-3131



**The
Pursuit of
Architectonic
Beauties.**

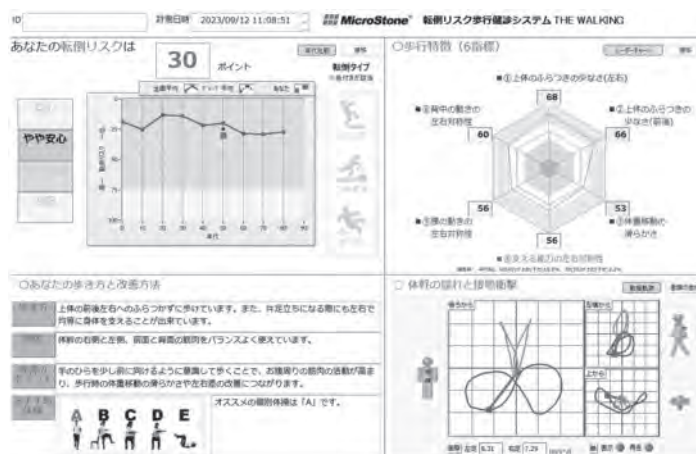
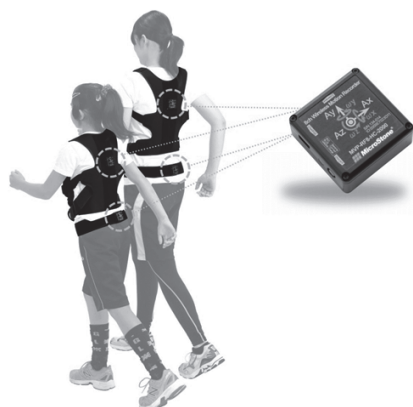
夢100%コーポレーション **HOKUSHIN**

北信土建株式会社

〒380-0935 長野市中御所3丁目7-14 TEL.026-226-2808
<http://www.hokushinn.co.jp/>

AI・ディープラーニングと独自解析による転倒リスク判定技術により
『労災ゼロ』『寝たきりゼロ』を目指します！

体幹2点歩行動揺計「THE WALKING®」
転倒リスク歩行健診システム MVP-WS2-WE



「動き」を測る。未来が動く。

Sense the Next
MicroStone®

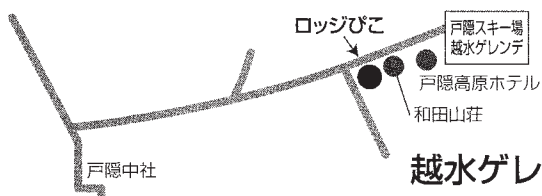
マイクロストーン株式会社

〒385-0007 長野県佐久市新子田1934
TEL : 0267-66-0388 FAX : 0267-66-0355
Web : <https://www.microstone.co.jp>



アットホームな雰囲気と、スキーマ好きな
オヤジが皆様をお待ちしております。

全9室(和7室・ベッドルーム2室)
定員42名様、駐車場完備



越水ゲレンデまで70m、帰りは乾燥室まで滑走可。
温かい手作り料理でおもてなしいたします。

ご予約は、お電話かFAXかメールで下記までご連絡ください。

〒381-4101 長野県長野市戸隠3507-80 旧工学部若里会戸隠山荘となり
TEL/026-254-3806 FAX/026-254-3818 E-mail/info@lodgepico.com
ホームページ <http://lodgepico.com/>

私たちは大学・企業の研究を【**技術的創作**】として捉え、
【**特許権**】としてガードし、産業界で活躍できるように、
価値ある【**ライセンス**】のアドバイスをします。



- 実務経験豊かな弁理士が揃っています。
- 多様な技術分野に対応できる事務所です。

弁理士法人 綿貫国際特許・商標事務所

所 長 弁理士 岡村 隆志
副 所 長 弁理士 傳田 正彦
弁理士 平井 善博
弁理士 湯本 充弥

【 所員募集中 wpsb@watanuki.co.jp 宛にご連絡下さい 】

〒380-0935 長野市中御所三丁目12番9号クリエイセンタービル
TEL026-228-5366 FAX026-228-6682

情報の

「要」

文字と共に半世紀



あなたの歴史・家族の絆、思い出をかたちに…



あなたの本をつくりませんか

- ◆ 写真集・フォトエッセイ集
- ◆ 絵本・絵手紙集・絵詩歌集
- ◆ 貼り絵集・ちぎり絵集・押し花集
- ◆ 絵画集・画文集・スケッチ集
- ◆ 写真で見るわが家の半世紀
- ◆ 写真で見る金婚式・夫婦の半世紀

株式会社 アイデスク

●企画・デザイン・編集 ●情報処理・デジタルコンテンツ ●グラフィックデザイン・Web制作 ●印刷全般

〒381-0025 長野市北長池1263-1
TEL (026) 244-4551 FAX (026) 244-1966

「若里」72号

令和5年12月印刷・発行（非売品）

発 行 者

〒380-8553 長野市若里4丁目17番1号

信州大学工学部内

信州科学技術総合振興センター

信州大学工学部同窓会

TEL 026-266-8209（FAX共）

E-mail : kdoso@wakasatokai.jp

URL : <https://www.wakasatokai.jp>

印 刷

株式会社アイデスク

〒381-0025 長野市北長池1263番1号

TEL 026-244-4551

【信州大学工学部の演習・実習授業の様子の360°VR動画】

2022年,2023年に撮影した信州大学工学部の演習・実習授業の様子をYouTubeでご覧いただけます。

以下のQRコードからご覧ください。
動画は3～5分程度です。

(注：360°動画はデータ量が大きいため、Wi-Fi接続&YouTubeアプリでの視聴をおすすめします)

各授業の説明を動画の概要欄に掲載していますので、あわせてご覧ください。



2022年度

【物質化学科】

2年生科目
「分析化学実験」



【電子情報システム工学科】

3年生科目
「情報システム実験Ⅰ」



【水環境・土木工学科】

3年生科目
「空間情報実習」



【機械システム工学科】

2年生科目
「機械加工実習」



【建築学科】

4年生科目
「建築・デザイン工学
設計製図Ⅲ」



【物質化学科】

3年生科目
「有機化学実験」



【電子情報システム工学科】

3年生科目
「組込システムⅠ」



【水環境・土木工学科】

2～4年生科目
「地学実験
(岩石パート)」



2023年度

【機械システム工学科】

3年生科目
「機械システム工学
プロジェクトⅠ」



【建築学科】

3年生科目
「建築環境工学実験」



信州大学工学部同窓会々則

第1章 総 則

- 第1条 本会は信州大学工学部同窓会と称し、事務局を信州大学工学部内に置く。
- 第2条 本会は会員相互の親睦を図ると共に母校の後援と工業の発展に資することを目的とする。

第2章 会 員

- 第3条 本会は下記の会員をもって組織する。
- 1 正会員
長野工業専門学校、信州大学工学部、信州大学大学院（若里キャンパス）に在籍し、卒業あるいは修了した者、および本会が認めた者。
 - 2 特別会員
信州大学工学部在職中の教員、同在職中の事務職員ならびに旧教員にして理事会の推薦によるもの。
 - 3 賛助会員
信州大学工学部および信州大学大学院（若里キャンパス）在学生の保護者、または他大学から本学大学院に入学し在籍している者。

第4条 役員および会議

- 1 本会に次の役員を置く。
会長 1名、副会長 3名、
常任理事 若干名、理事 若干名、監事 2名
役員は正会員中から選出し、総会にて決定する。
- 2 会長は本会を統括し、本会を代表する。
- 3 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるとき、その職務を代行する。
- 4 常任理事会
常任理事会は会長、副会長、常任理事および監事にて構成する。
会長は副会長、常任理事、監事を招集し、議長となり会務に必要な事項を審議し、会務の執行を図る。
- 5 理事会
常任理事会で発議した重要事項は会長が全役員を招集し、審議・決定する。
- 6 監事は会計の監査に当たる。

第5条 役員の任期は2年として重任を妨げない。

第6条 本会の事務を処理するため事務職員を置くことができる。

第3章 名誉会長および顧問

第7条 信州大学工学部長の職にあるものを名誉会長に推薦する。

第8条 本会に功労のあった会員を理事会の議を経て顧問に推薦する。

第4章 総 会

第9条 総会は原則として年1回開催する。ただし理事会で議した場合は、それに代えることができる。

第5章 事 業

第10条 第2条の目的にそった事業を行う。

第6章 会 計

第11条 本会の経費は会員の会費、寄付金、および雑収入をもってこれに当てる。

第12条 会員は下記の会費を納入するものとする。

- 1 正会員は、会費として年額2,000円を納入するものとする。納入会費合計40,000円を上限とし、これに達し次第「終身会員」とする。また、2,000円を一口とし、一回に複数および全口の納入も可能とする。
- 2 賛助会費は、在学中に30,000円を一括納入するものとする。賛助会員が保護者の場合、学生の卒業と同時に卒業生本人を正会員および「終身会員」とする。本人が賛助会員の場合も、卒業と同時に正会員および「終身会員」とする。

第13条 会計年度は4月1日より翌年3月31日までとし、予算および決算は会員一同に報告する。

第7章 支 部

第14条 会員多数在住の地方には支部を設置することができる。ただし、この場合は支部規則を定め、会長の承認を得るものとする。

第8章 会則変更

第15条 本会則は、総会において出席した正会員の過半数の同意を得なければ変更することができない。

付 則

本会則は、平成4年6月20日より施行する。

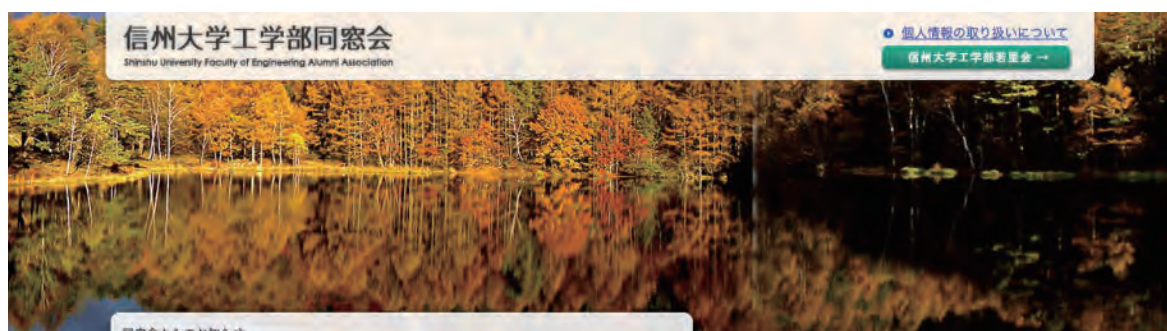
本会則は、平成14年5月24日改訂・施行

本会則は、平成15年5月28日改訂・施行

本会則は、平成18年5月27日改訂・施行

本会則は、平成25年5月24日改訂・施行

本会則は、令和2年5月15日改訂・施行



信州大学工学部同窓会
Shinshu University Faculty of Engineering Alumni Association

個人情報の取り扱いについて
信州大学工学部若里会

同窓会からのお知らせ

- 2023.10.20 行事予定 ようこそ先輩2023 開催のご案内
- 2023.09.13 お知らせ 関東支部 2023年度同窓会開催のご案内
- 2023.09.08 お知らせ 2023第11回信州大学マラソン 開催とリポート募集のお知らせ
- 2023.08.09 お知らせ 松高・信州大学夏歌祭(2023年) 開催のお知らせ
- 2023.08.04 行事予定 東信支部 2023年度総会のご案内
- 2023.07.24 お知らせ 同窓会事務局 夏季休業のお知らせ
- 2023.07.07 行事予定 工学部同窓会【暑気払い】開催のご案内
- 2023.05.31 同窓報告 2023年度 基調講演会・総会・懇親会が開催されました
- 2023.04.19 行事予定 2023年度 基調講演会・総会・懇親会のご案内
- 2023.04.17 お知らせ 令和5年度「同窓会連合会賞」が贈られました

過去のお知らせを見る



同窓会について

会長あいさつ

若里
若里
会誌 若里

住所等変更届

同窓会事務局への各種お問い合わせは、TEL・FAXまたは
お問い合わせフォームよりご連絡ください。

信州大学工学部

同窓会事務局

TEL/FAX : 026-266-8209

お問い合わせフォームはこちら

関連サイトへのリンク

- 信州大学
- 信州大学サポーターズクラブ
- 信州大学同窓会連合会
- 信州大学工学部
- 信州大学工学部信州科学技術総合振興センター(SASTec)

信州大学工学部同窓会
Shinshu University Faculty of Engineering Alumni Association

同窓会事務局 〒380-8553 長野市若里4-17-1 信州大学工学部内
TEL/FAX : 026-266-8209

Copyright (C) 2014, Shinshu University Faculty of Engineering Alumni Association, All Right Reserved.



信州大学工学部同窓会

〒380-8553 長野市若里4-17-1 (信州大学工学部内)

URL: <https://www.wakasatokai.jp/> TEL・FAX 026-266-8209